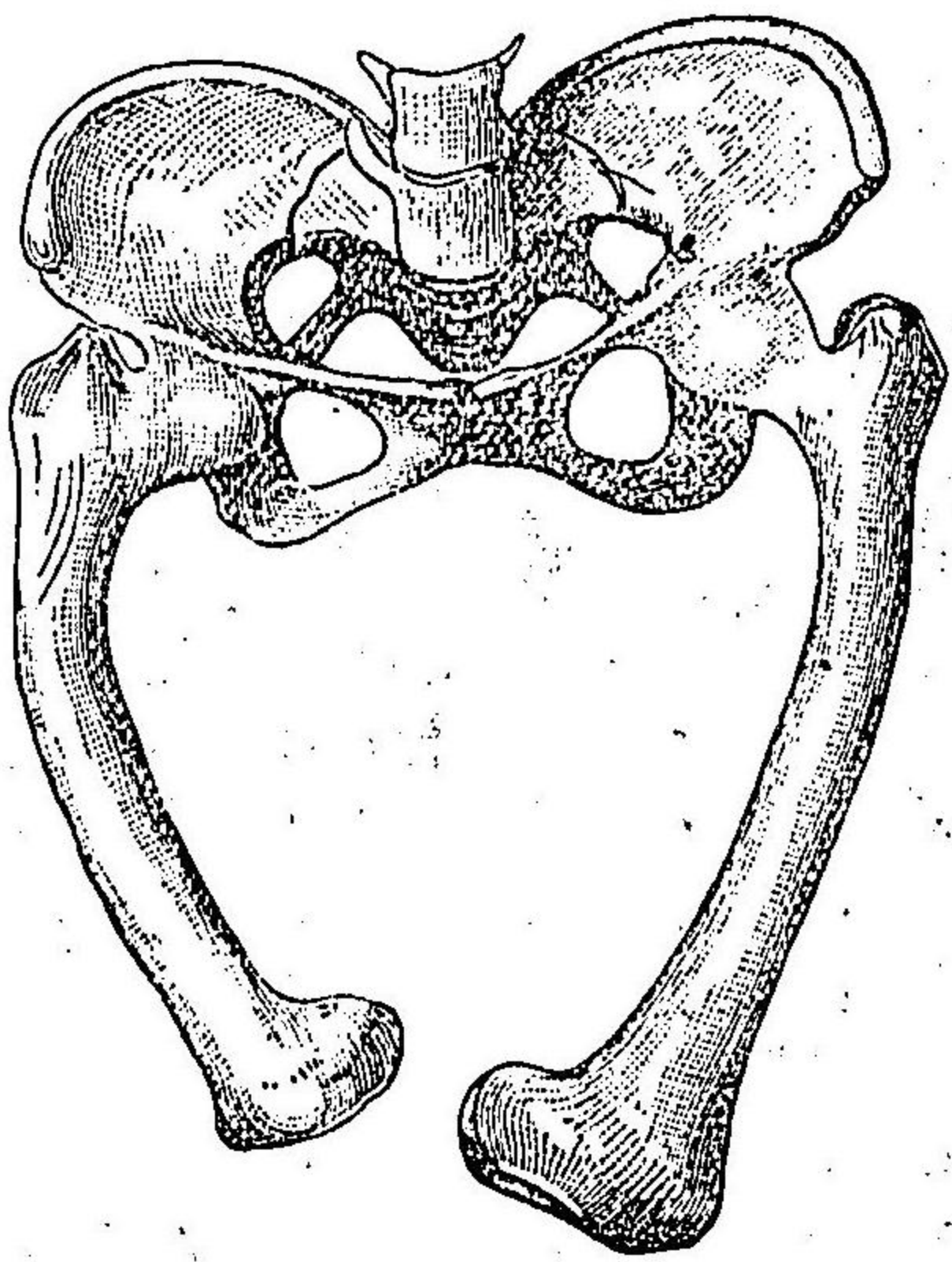


第五百圖

圖全ノ盤骨平扁性病優尙

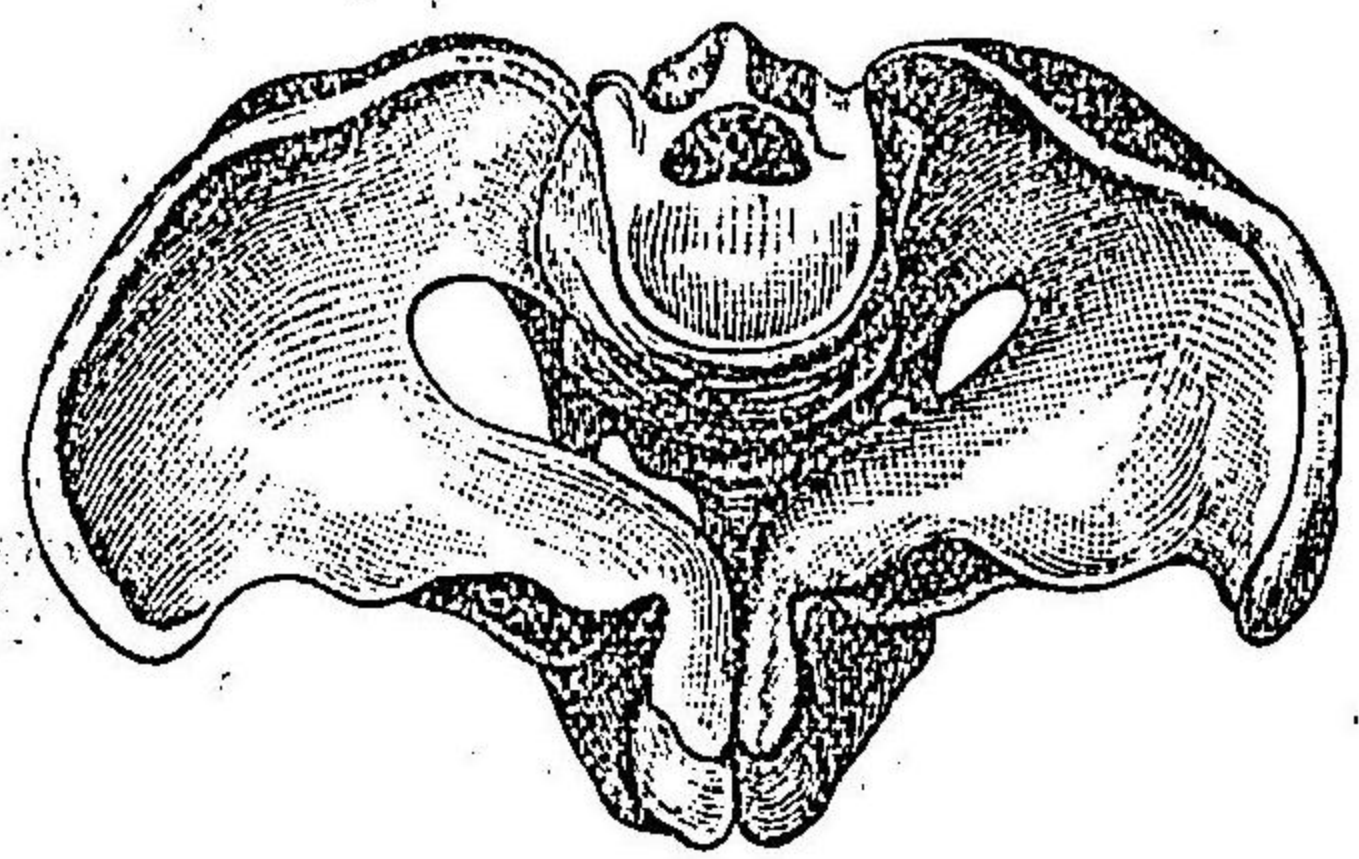


ニ正規ノ分娩ヲ營メル婦人ニ發ス。殊ニ、數回、速カニ分娩シ、且ツ長ク授乳セルモノニ之レアリ。住居ノ不良ナルハ、此病ノ發生ヲ助クルモノナリ。而シテ、此病ニ罹ルキハ、關節ニ疼痛ヲ發シ、恰モ癱瘓質斯ノ如ク、歩行不能トナリ、骨ノ壓縮セラル、ニヨリテ、身體漸次ニ縮小ス可シ。妊娠中ニハ、病症

トス。
「第五七九項」第三種骨軟化病性狹窄骨盤
此骨盤ハ、骨軟化病ト稱シ、大人ノ骨質柔軟トナレル病ニヨリ發スル者ナリ。
骨軟化病トハ、體格佳良ニシテ、既

第三百圖

骨軟化 骨病性 狹窄骨 盤ノ圖



増進シ、産褥期ニ至レバ、稍回復スル者ナリ。——骨軟化病性狹窄骨盤ハ、上ハ、脊椎ヨリ、下ハ、兩大腿ヨリ、共ニ壓迫セラレ、以テ骨盤壁ハ三方ヨリ、内方ニ陥入シ、一種ノ三角形ヲナシ、恥骨ハ彎屈シテ、前方ニ突出シ、恰モ鴨嘴

狀ヲナシ、恥骨弓ハ著シク狹小トナル。

「第五八〇項」

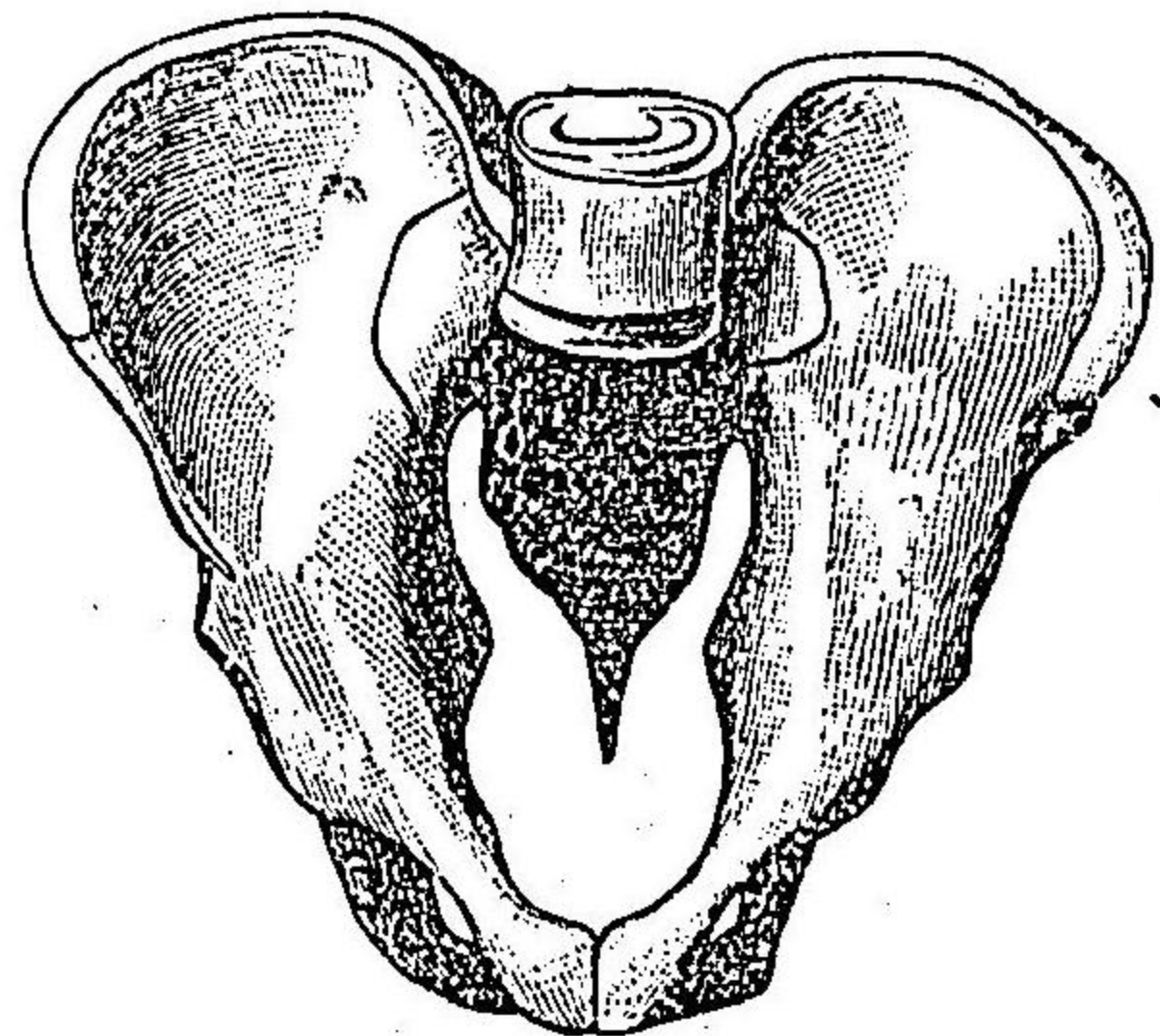
第四種、橫徑

狹窄骨盤

ハ、薦骨、狹小ナルガ爲メ、骨盤ノ橫徑、短小トナレルモノニシテ、薦腸關節ニハ、癒着ヲ

第 七 百 第 圖

橫 徑 狹 窄 骨 盤 之 圖



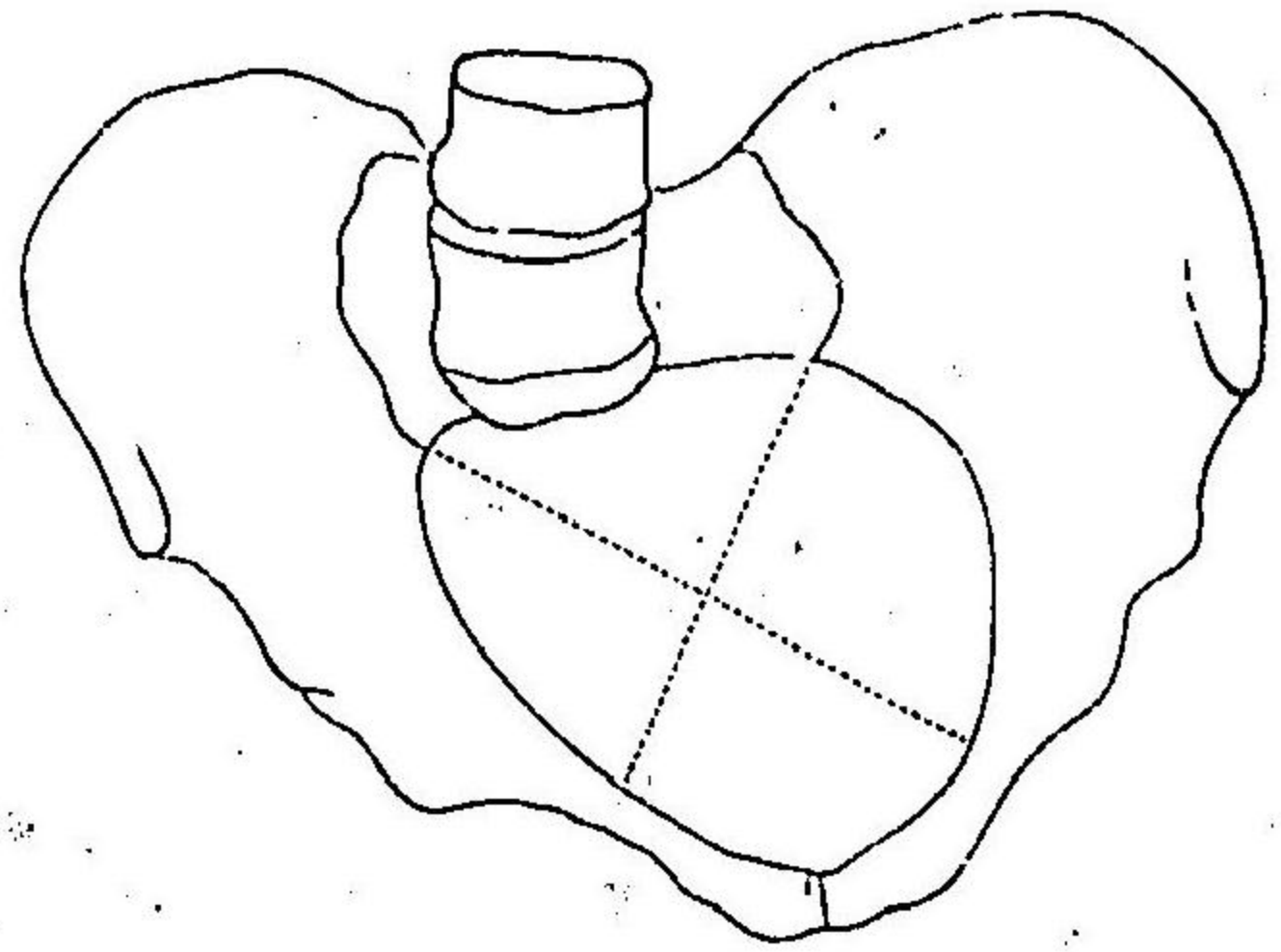
呈ス。外検査ニヨ
ルニ腰部ハ、狭キ
ヲ見ル可シ。

〔第五八一項〕
第五種、斜徑
狹窄骨盤

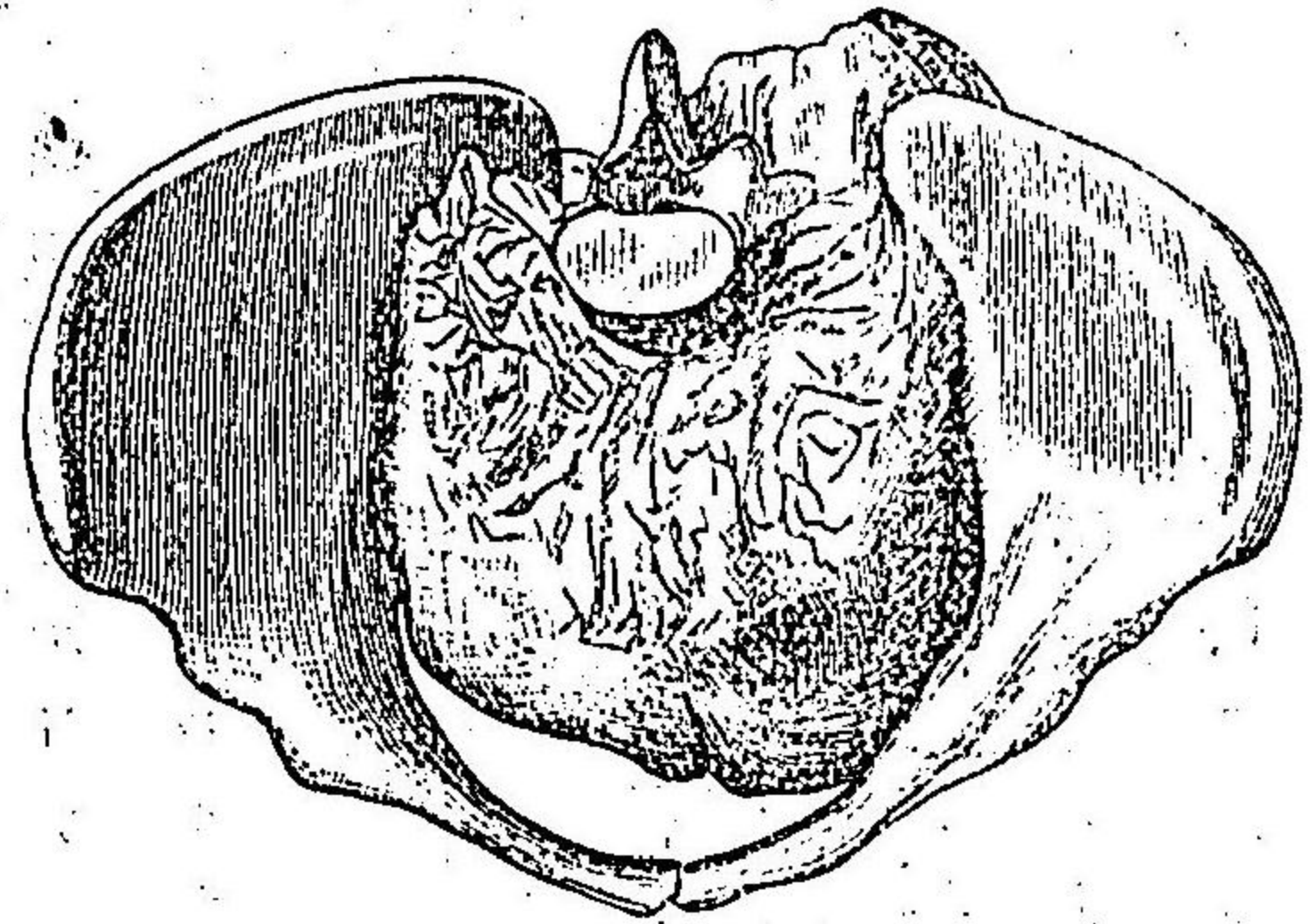
ハ薦骨ノ一側、狭
小トナレルガ爲
メニ發スル者ニ
シテ、何俛病ニヨ
リ脊椎彎曲シ、體
重一側ニ傾クカ、

又ハ片足ノ跛ナルガ爲メニ、體重同ジク、一側ニ傾クニヨリ發シ、他ノ斜徑ハ却テ延長スルモノナリ。

第 八 百 第 圖
斜 徑 狹 窄 骨 盤 之 略 圖



第 九 百 第 圖
骨 瘤 性 狹 窄 骨 盤 之 圖



〔第五八二項〕第六種、骨瘤性狹窄骨盤
骨瘤ト稱スル骨ノ腫瘤
ニヨリ、若クハ骨盤骨ノ折傷後、其斷端ノ推移シテ癒合セルガ爲メニ、此種
ノ骨盤ヲ生ズ。而シテ、骨瘤ヲ生ズルノ部ト、其瘤ノ大サ及ビ數トハ、一ナラ

ズシテ、甚ダシキハ、骨盤腔ヲ非常ニ狹隘ナラシムルモノアリ。此狹窄骨盤ハ、其骨盤腔ノ大サ、手拳ヲ通ズルヲ能ハザルモノハ、分娩ヲ營ムヲ能ハザルモノナリ。

〔第五八三項〕第七種、全狹窄骨盤。ハ骨盤ノ全體、小ニシテ、其各徑線一般ニ短カキモノナリ。但シ、其直徑線ハ、八仙迷以下ニ降ルヲナシ。此骨盤ノ婦人ハ、體格敢テ小ナラザレドモ、唯其骨盤ノミ、發育微弱ニシテ、之レヲ致セルモノトス。

〔第五八四項〕狹窄骨盤ノ檢定法、一、骨盤入口直徑線ヲ檢スル法。狹窄骨盤ノ確實ナル検査ハ、唯、内検査法ニヨリテ、之レヲ營ムコトヲ得ベシ、即チ法ニヨリテ、丁寧ニ、手及ビ陰部ノ防腐法ヲ施コシ、第二篇第六十二圖(百三十七頁)ニ示スガ如ク、示指及ビ中指ヲ腔内ニ送入シ、手ノ小指側ヲ以テ、強ク會陰部ヲ壓入シ、以テ示中指ヲ深ク薦骨岬ニ向フテ進マシム。此ノ如クスレバ、多クノ扁平骨盤ニ於テハ、容易ク薦骨岬ニ達シ得ベシ。

〔二〕恥骨ノ後面、無名線、恥骨弓及ビ兩坐骨結節間ノ検査。薦骨岬ノ検査ヲ終ラバ、指ヲ恥骨縫際ノ後面ニ移シ、左右恥骨後面ノ平等ナルヤ否ヤヲ檢シ、次ニ、之レヨリ無名線ヲ觸知ス可シ。骨盤橫徑ノ狹小ナルモノハ、無名線ニ觸ル、ト容易ナリ。其後チ恥骨弓ノ廣狹ヲ檢シ、終リニ、左右ノ坐骨結節ノ距離ヲ知ル可シ。而シテ坐骨結節ノ距離ハ、肛門ヲ經テ、左右ノ坐骨結節ヲ連結セルノ線ナリ。

〔第五八五項〕狹窄骨盤ノ徵候、一、狹窄骨盤ノ疑ヲ發ス可キ徵候。婦人ニ就キ、狹窄骨盤ニアラザルヤノ疑ヲ起ス可キ徵候ハ、次ノ如シ。即チ第一、身體矮小、身長百四十六仙迷以下、日本人ニ於ケル中等身長ナリ。骨質纖小、腰部狹小ナルモノ。第二、検査者、一手ノ拇指ト小指トヲ伸張シ、左右腸骨前上棘ニ相達シ得ルモノ。第三、體格小サク、蹣跚トシテ行歩シ、骨質平圓ナラズ、前額又ハ骨ノ關節端膨隆シ、薦骨部ノ突隆甚ダシキモノ。〔第四〕妊娠中ニ骨軟化病ヲ發シ、痲痺質斯様ノ骨質痛ヲ現ハセルモノ。〔第五〕經産婦ニ於テハ、前回ノ分娩ハ、位置正シキモ、産出ノ困難ナリシヲ訴フ。

ルモノ是レナリ又妊娠分娩ニ關スルモノヲ舉グレバ左ノ如シ。

二二妊娠分娩間ニ現ハル、狹窄骨盤ノ徵候 妊婦ヲ檢スルニ、初妊婦ニシテ、妊娠末月ニ至ルモ、兒頭、高ク位シ、骨盤入口内ニ進入セザルカ、若クハ懸垂腹ナルトキハ、即チ狹窄骨盤ニアラザルヤヲ意思ス可シ。

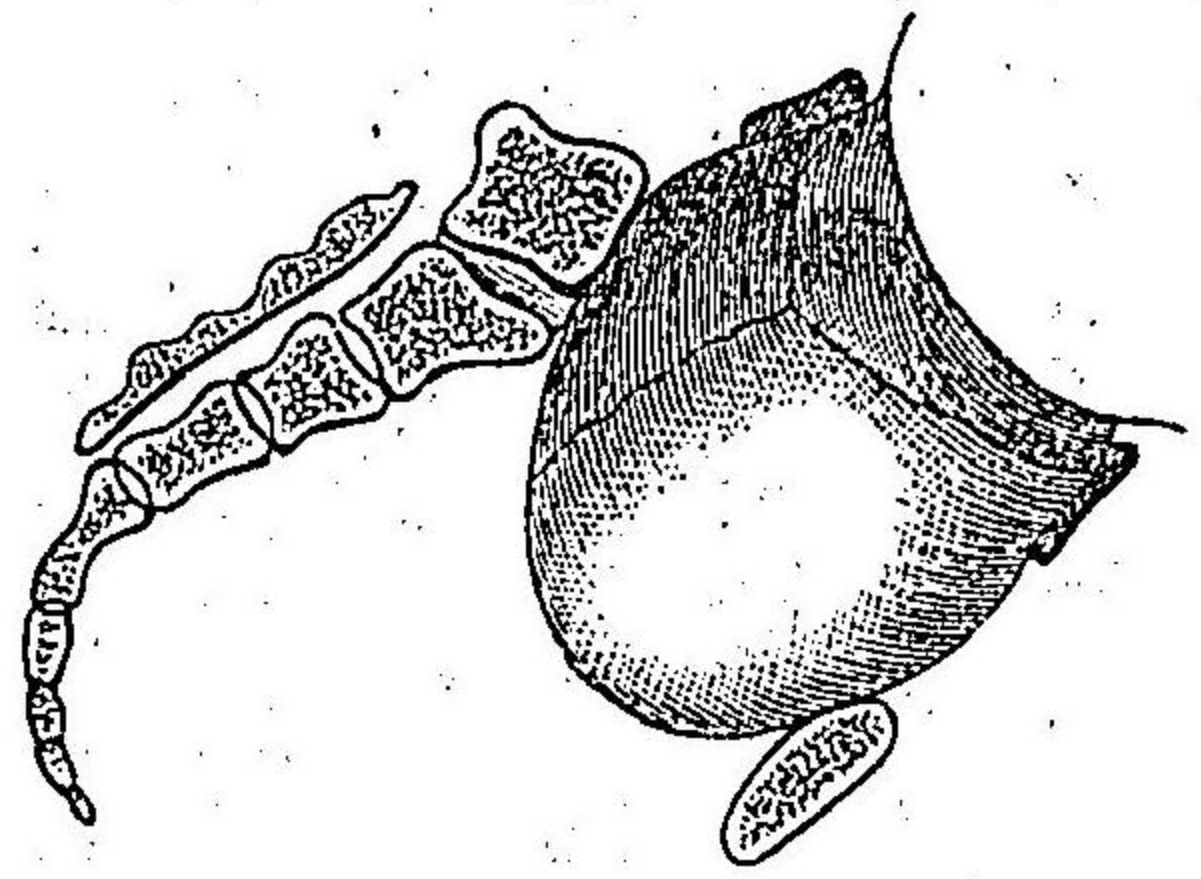
又分娩時ニ際シ、検査ヲ施コスモ、骨盤狹窄ノ度、僅少ナルガ爲メニ其狹窄アルヲ確知シ能ハザルコトアリ。然レドモ軟部及ビ兒體ニ異常ナク、陣痛甚ダ強クシテ、兒頭前進セザルトキハ、狹窄骨盤ノ徵ナリ。其他、前頭ノ深ク下降セルモノ、(前頭位)後顛頂骨位若クハ前顛頂骨位ヲ現ハスモノハ、骨盤ノ狹窄アルモノト看做ス可シ。

第五八六項「狹窄骨盤」分娩ノ經過并ニ其障害 狹窄ノ度、少ナク、一二仙迷ニ止マルモノハ、陣痛強ク、胎位ニ異常ナキトキハ、時間ヲ費スコト稍大ナルモ、敢テ著シキ害ナクシテ、自ラ分娩ヲ營ムコトヲ得可シ。此際兒頭ハ甚ダシク變形シ、頭蓋骨縁ハ重積シ、頗ル其容積ヲ減少スルモノトス。

若シ又、更ニ狹窄ノ度甚ダシキモノハ、分娩著シク困難ニシテ、時間ヲ費スコト多ク、母兒兩體ニ種々ノ障害ヲナス可シ。即チ小兒ニ在リテハ、其頭、緊シク骨盤内ニ箝入シ、甚ダシキ産瘤ヲ生ジ、又ハ、頭蓋骨ノ四陷、骨傷ヲ致シ、胎水ノ早期流泄、臍帶脱等ニヨリ、分娩中ニ死スルコト最多シ。産婦ニ於テハ、劇シキ痙攣性陣痛ヲ發シ、兒頭、緊シク骨盤内ニ嵌入シ、久シキヲ經ルトキハ、其壓迫ニヨリテ、恥骨縫際、薦骨岬等ニ當リ、軟部ノ挫傷、又ハ、炎症ヲ發シ、壞疽ニ陥ル可シ。其他、體力、虚弱ナルカ、若クハ、到底分娩

第三百十圖

狹窄骨盤ノ兒頭緊シク骨盤内ニ嵌入セントスルノ圖



此ノ如クニシテ兒頭長ク骨盤入口内ニ嵌入セル時ハ、薦骨ノ部ニ於テ頭蓋骨ノ四陷ヲ生ズ可シ。

ハ、其壓迫ニヨリテ、恥骨縫際、薦骨岬等ニ當リ、軟部ノ挫傷、又ハ、炎症ヲ發シ、壞疽ニ陥ル可シ。其他、體力、虚弱ナルカ、若クハ、到底分娩

スルヲ能ハザルトキハ、續發性陣痛微弱ヲ致シ、之レニ反シテ、子宮ノ收縮甚ダシキモノニ在リテハ、終ニ子宮破裂ニ陥ルモノモ亦之レアリ。——直徑線六仙迷以下ナルモノハ、到底骨盤内ヨリ、娩出スルヲ能ハズ、只帝王切開術ニヨリ、分娩ヲ營マシム可シ。

〔第五八七項〕狹窄骨盤分娩ノ處置 婦人若シ體格不良ナルカ、

又ハ前回ノ分娩、重難ニシテ、狹窄骨盤ノ徵候ヲ呈スルモノハ、速カニ醫師ノ診察ヲ請ハシム可シ。骨盤ノ狀況ニヨリ、時トシテハ、早ク流産術ヲ行ヒ、若クハ、分娩前數週、間ニ人工早産術ヲ施コス可キヲアリ。既ニ分娩ヲ始メタル者ニ在リテハ、直チニ醫師ノ來診ヲ求メシムルヲ要ス。——醫師未ダ到ラザルノ間ハ、決シテ分娩ヲ催進センコトヲ求ムルコトナク、殊ニ不必要ノ検査ヲ避ケ、側臥ニ就カシメ、努責ヲ禁ジ、可及的、胎胞ヲ破開セシメザラントヲ務ム可シ。又、温浴、酒類、ホフマン液等ノ如キ、陣痛ヲ催進セシム可キモノハ、堅ク之レヲ禁ジ、尿利及ビ便通ヲ佳良ナラシメ、以テ安靜ニ臥セシムルヲ要ス。——醫師ハ狹窄骨盤ニ就キ、鉗子娩出術、回轉娩出術、穿顛術、帝

王切開術、恥骨縫際切開術等ニヨリ、分娩セシムルモノナリ。

第四百十章 甚ダシク傾斜セル骨盤

〔第五八八項〕骨盤甚ダシク傾斜スルトキハ、薦骨後方ニ突出シ、恥骨縫際ハ低ク、外陰部ハ下方、兩腿ノ間ニ在リ、此ノ如ク、傾斜甚ダシキトキハ、小兒、恥骨ニ支障セラレ、分娩ノ障害ヲナスモノナリ。此場合ニ於テハ、産婦ヲ前方ニ屈セシメ、小兒ノ先進部ヲ骨盤内ニ導クコトヲ務ム可シ。

第四百十一章 過大ナル胎兒

〔第五八九項〕過大ナル胎兒 トハ、身長五十一仙迷ヲ超エ、體重三千五百瓦以上ニ至ル者ヲ云フ。稀レニハ、其體重七八千瓦ニ達スルモノモ亦之レアリ。過大ナル胎兒ハ、殊ニ頭蓋ノ大ニシテ固キガ爲メニ、娩出セラレ、コト甚ダ難ク、産婦ノ骨盤ハ尋常ナレドモ、分娩ノ困難ナルコト、狹窄

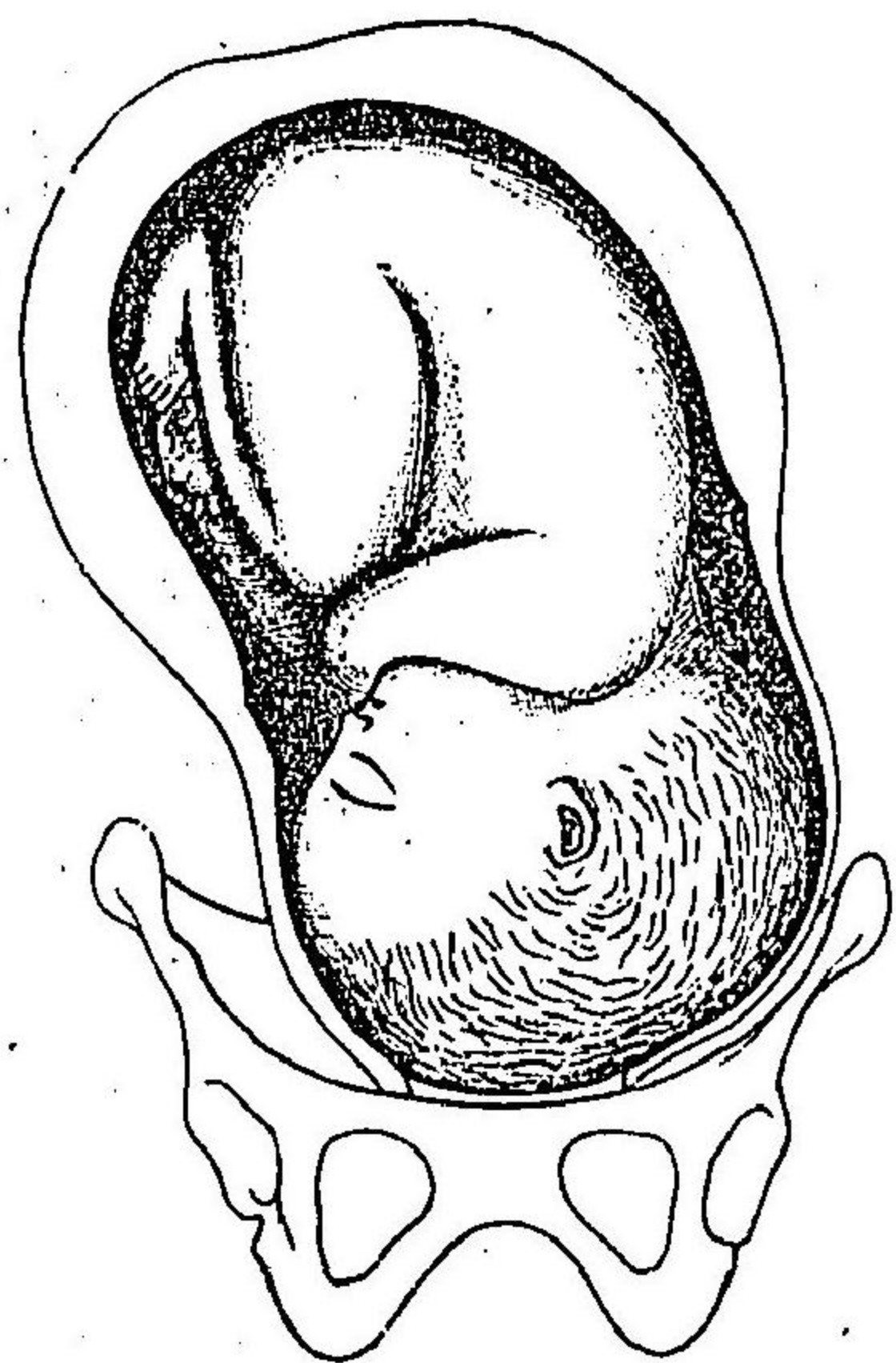
骨盤ト同一ナリトス。
 外検査ヲ施コスニ 腹部甚ダ大ニシテ、兒ノ軀幹長ク、頭ハ大ニシテ、硬キヲ見ル可シ。時トシテハ、雙胎ナリト思意セラル、トアリ。
 處置 ハ狭窄骨盤ノ分娩ニ準ズ可シ。

第四百四十二章 腦水腫

〔第五九〇項〕腦水腫 腦水腫トハ、腦内ニ水液ヲ蓄ヒ、頭蓋ノ甚ダ膨大セルモノニシテ、其大サ、稀レニハ、大人頭大ニ達スルコトアリ。此症ノ胎兒ハ、三千回ノ分娩中、大凡ツ一回アル可シ。而シテ、此症ニ在リテハ、分娩ノ際、子宮下部強ク延張セラレ、容易ニ子宮ノ破裂ヲ生スルガ故ニ、甚ダ危険ナルモノナリ。或ハ兒頭ハ自カラ破裂シ縮小シテ、容易ク分娩スルコトモ亦之レアリ。

外検査ヲ施コスニ 兒頭大ニシテ軟カク、且ツ波動ヲ呈シ、内検査ノ際、子宮口開ケルトキハ、縫合及ビ額門ノ甚ダ廣キヲ見ル可シ。然レドモ

第 百 十 一 圖
 腦水腫 胎兒ノ



子宮下部ノ壁質
 甚ダシク延長非
 薄トナリ將サニ
 破裂セントスル
 モノヲ示ス

通常ハ此等ノ狀況ヲ診知スルコト容易ナラズ。但シ、骨盤ノ狭窄ナラザルニ當リ、陣痛強盛ナリト雖ドモ、兒頭ノ下降セザルモノハ、此畸形ノ疑ヲ起ス可シ。又、兒頭、子宮口ニ臨メルニ際シ、陣痛時ニ緊張ヲ發シ、胎胞ト誤認セラ

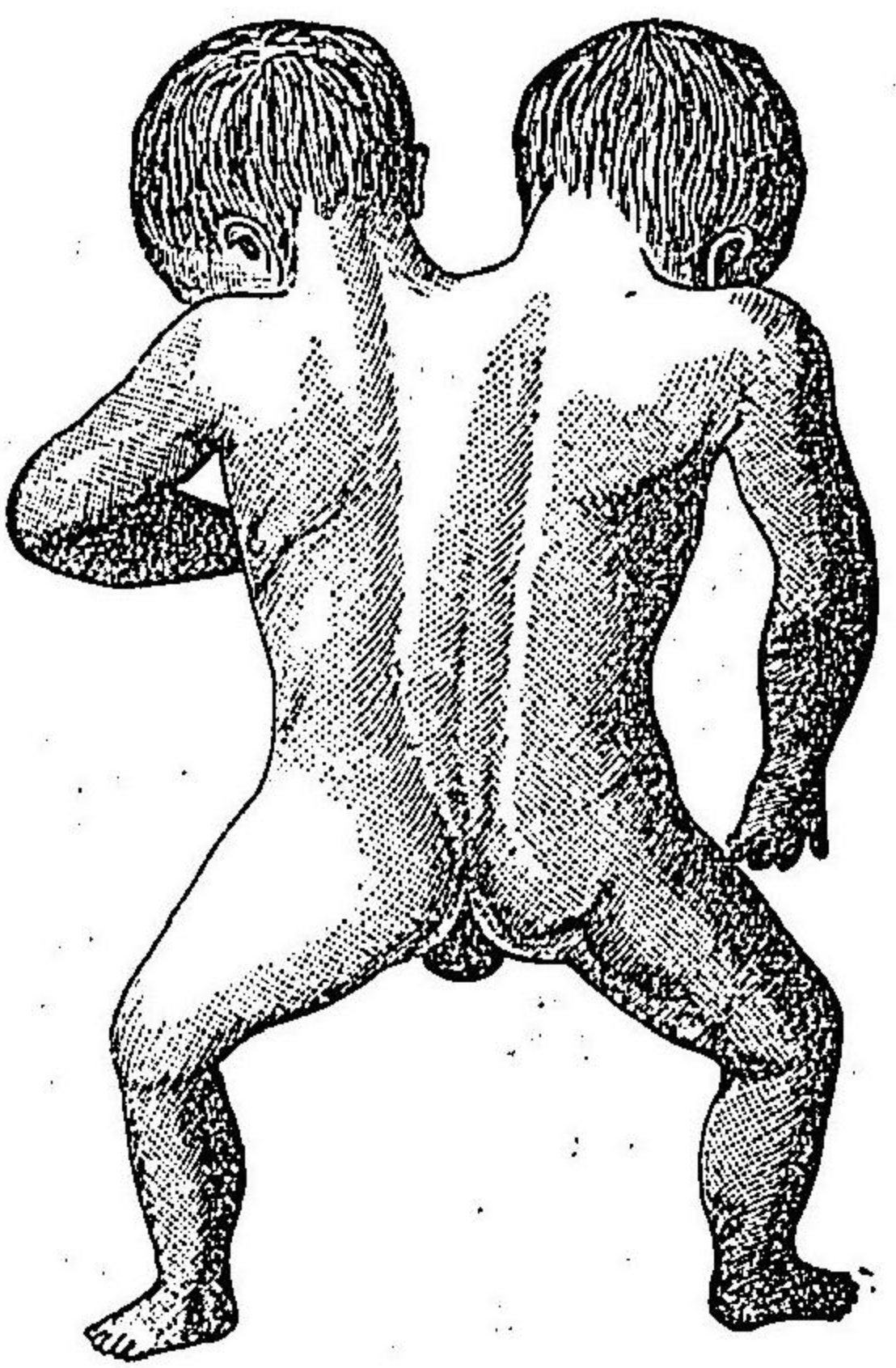
〔第五九一項〕處置 ハ子宮破裂ノ恐レアルニヨリ、速カニ醫治ヲ乞フ可シ。

第四百四十三章 重複畸形胎兒

「第五九二項」重複畸形胎兒ノ種類 此畸形ニ四種アリ。

一、兩兒ノ腹部若クハ胸部互ニ癒着セルモノ。

重複畸形胎兒ノ圖



- 一ノ軀幹ニシテ兩頭ヲ有ス
- 二、兩兒ノ薦骨及ビ腰椎ノ下部互ニ癒着セルモノ。
- 三、兩兒頭、癒着又ハ融合シ、二ノ軀幹ヲ有セルモノ。
- 四、一ノ軀幹ニシテ、兩頭ヲ

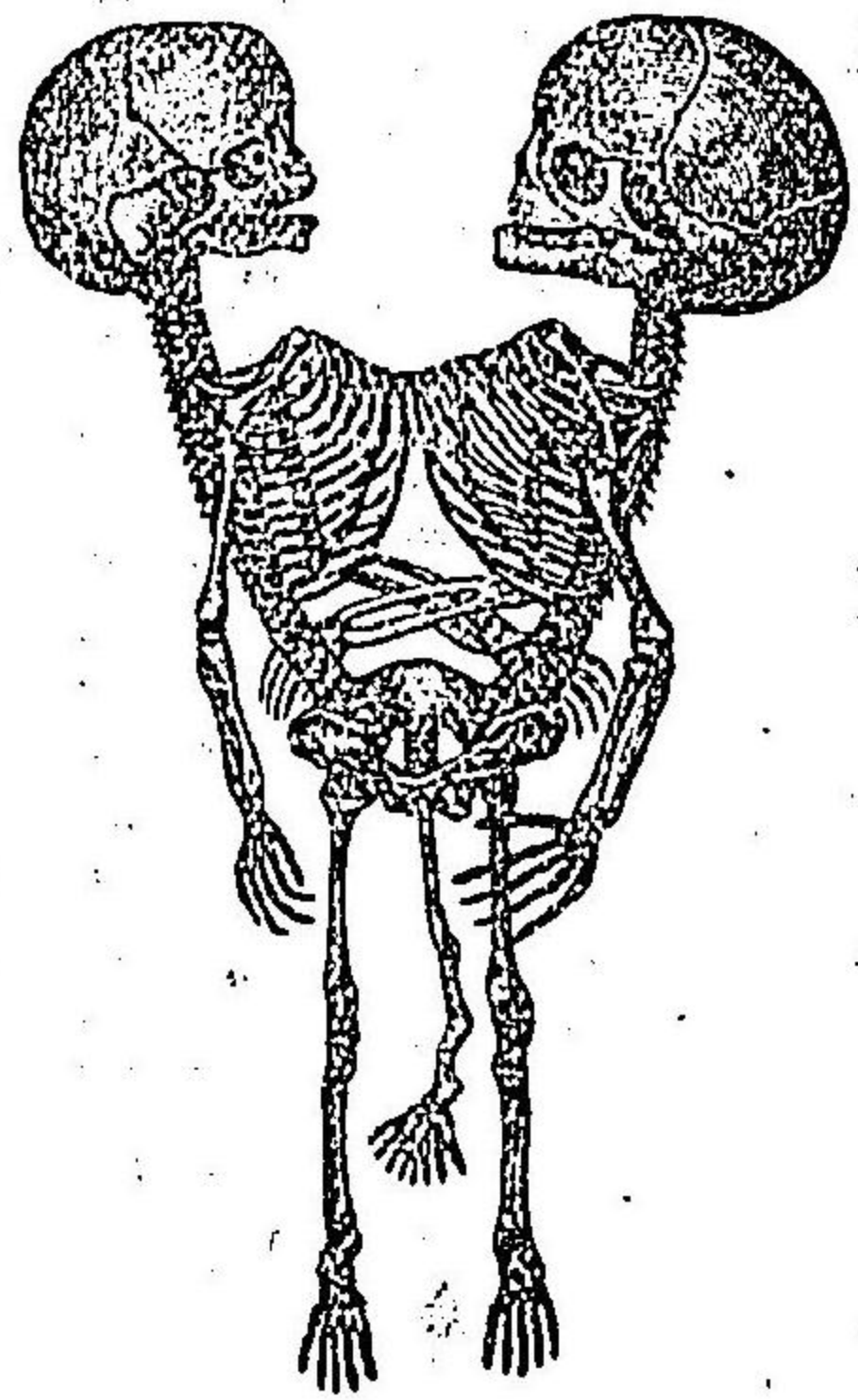
圖 二 十 百 第

有セルモノ、是レナリ。

重複畸形胎兒ハ、双胎ト同ジク、通例、其兒ノ發育弱小ナルヲ以テ、陣痛ノ良好ナル時ハ、自カラ分娩ヲ營ムヲ多シトス。(自然分娩、凡ソ五十六、六%) 胎兒ハ、多ク死亡スト雖ドモ、時トシテハ、産出後善ク生活シ得ルコアリ。

「第五九三項」重複畸形胎兒分娩ノ器機的作用 兩個ノ兒

第 百 重 複 畸 形 胎 兒 ノ 骨 格 ノ 圖



- 兩頭ニシテ融
- 合セル一ノ軀
- 幹ヲ有シ四手
- 三足ヲ具フル
- モノ

頭アルモノニシテ、頭位ヲ取ルトキハ、一頭初メニ娩出シ、他ノ一頭、骨盤入口上ニ存シ、陣痛強力ナルトキハ、横位ノ自己産出ニ於ケルガ如ク、第二兒ノ下體ハ、第一兒ノ下體ト共ニ、骨盤端位ヲナシテ産出シ、最後ニ、第二ノ兒頭ヲ娩出セシム。●下●肢●ヨ●リ●産●出●ス●ル●モ●ノ●ハ、更ニ良好ナルモノニシテ、兩兒、頸部ニ至ルマデ進出スルトキハ、後方ノ一兒頭、初メニ出デ、後チ、前方ノ一兒頭ヲ出ス可シ。○二頭ノ癒合セルモノハ、過大ナル兒頭ト異ナルヲナシ。

〔第五九四項〕處置 此畸形ハ、分娩前ニ之レヲ知ルヲ能ハザルヲ常トス。故ニ若シ双胎ニシテ、分娩ノ障害甚ダシキヲ見バ、此畸形ニアラザルヤヲ思意シ、速カニ醫師ノ來診ヲ求ム可シ。

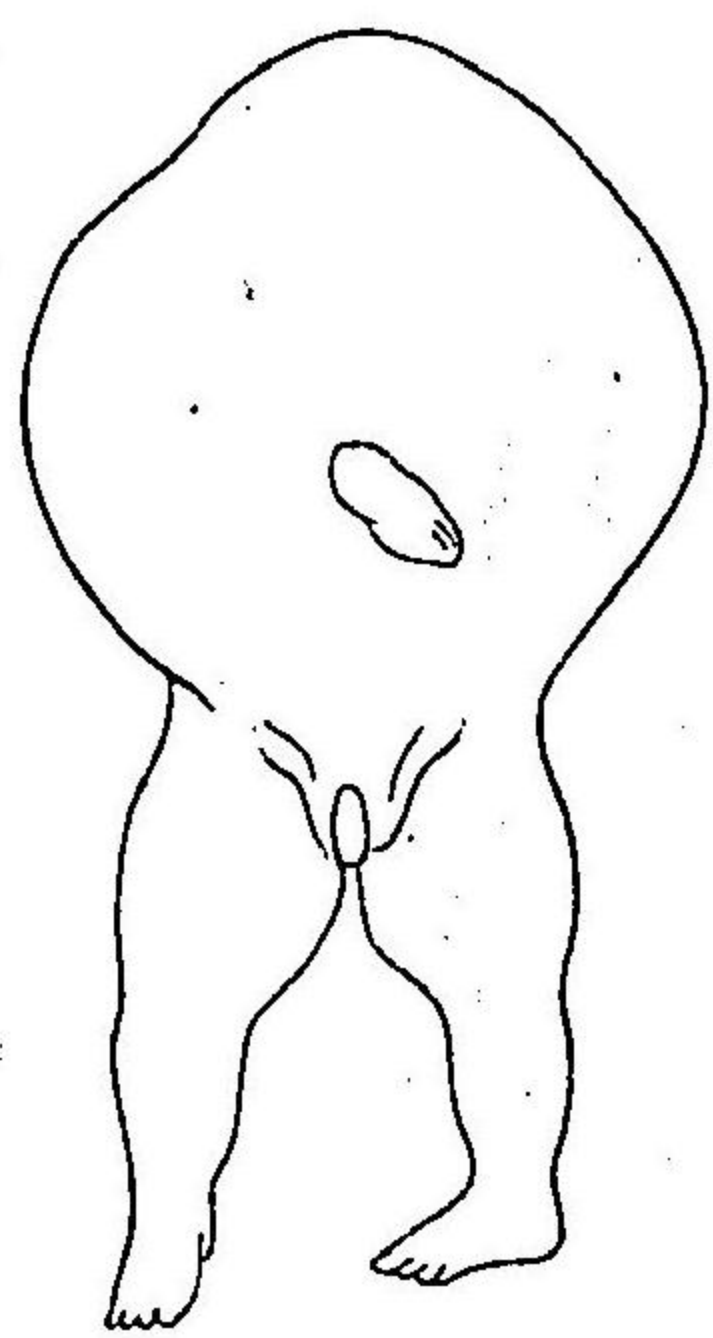
第四百十四章 爾餘ノ胎兒ノ畸形

〔第五九五項〕一脊椎破裂 脊椎破裂トハ、脊椎ノ後方ニ裂隙アリテ、椎骨ノ内部ヨリ、液質ヲ蓋フル囊ヲ出シ、頂部或ハ臀部ニ於テ、大ナ

ル腫瘍ヲ現ハスモノナリ。之レニヨリテ甚ダシク、分娩ノ障害ヲナスコトアリ。此症ハ胎兒娩出後ニアラザレバ、確知スルコト能ハザルヲ常トス。然レドモ、分娩困難ニシテ、本症ノ疑ヒアラバ、速カニ醫治ヲ求ム可シ。〔第五九六項〕二腹水、其他ノ畸形 胎兒ノ疾病ニヨリテ、腹水ヲ發シ、若クハ肝臟、腎臟、膀胱等ノ腫大ニヨリ、腹部膨大シ、分娩ノ障害ヲナスコトアリ。此ノ如キ場

合ニ在リテハ、兒頭、既ニ産出スルモ、軀幹ハ、續テ出ヅルコトナク、安リニ娩出スルトキハ、終ニ兒頭ヲ離斷セシムルニ至ルモノナリ。此症モ亦、胎兒娩出後ニアラザレバ、之レヲ知ルコト能ハザ

第四百四圖 無頭兒ノ圖



ルモノナレドモ、若シ此異常ノ疑アラバ速カニ醫治ヲ請フ可シ。
 「第五九七項」三無頭兒及ビ頭蓋缺損 此等ノ畸形ハ、敢テ、
 分娩ノ障害ヲナサズト雖ドモ、小兒ハ生活ヲ營ムコト能ハザルモノナリ。
 分婉ハ人工ヲ要セ
 ズシテ、容易ニ之レ
 ヲ終ルコトヲ得可

第百五十圖
 頭蓋缺損胎兒ノ



「天」腦ノ
 痕跡ノ發
 育ハ頗ル
 大ニ、顔
 面ニ、眼
 睛、鼻、
 シシク、
 ナシ、
 可シ、
 水腫、
 ヲ、
 兼、

「第五九八項」四
 以上ノ他、一足
 ナルモノ、眼、
 融合セルモノ、
 顎骨突出セル
 モノ、四肢ヲ缺
 如セルモノ

等、種々ノ畸形アリ。此等ノ畸形ハ、分娩容易ナリト雖ドモ、之レヲ葬禮ニ
 附ス可キヤ否ヤヲ決センガ爲メニ、醫師ノ來診ヲ求ム可シ。

「第五九九項」五「輕度ナル各種ノ畸形 此ニ屬スル者ハ、兔唇、
 狼咽(即チ硬口蓋ノ破裂贅指又ハ贅趾、指趾ノ癒着セルモノ、内翻手、又ハ、
 内翻足、鎖肛、尿道閉鎖等トナス。此等ノ畸形ニアリテハ、醫師ヲ招キテ、其
 治療法又ハ養育法ノ指示ヲ請フ可シ。

「第六〇〇項」畸形ニ就テノ注意 凡ソ、總テノ畸形ヲ、其母ニ知
 ラシメンニハ、能ク注意シ、決シテ遠カニ喫驚スルコトナカラシムルヲ緊
 要ナリトス。

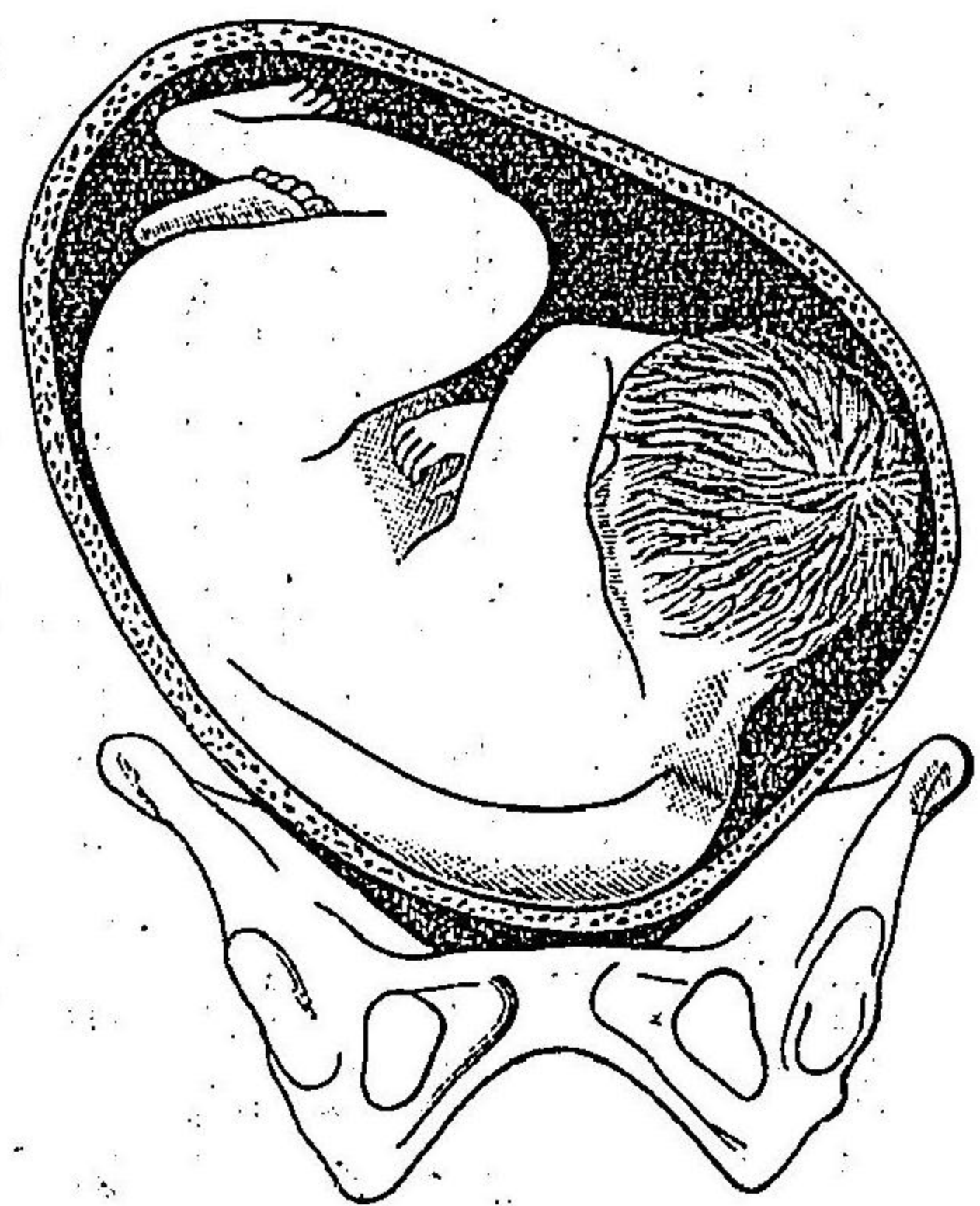
第百四十五章 横位

「第六〇一項」横位トハ 胎兒横ニ子宮内ニ在ルヲ云フ。然レドモ、
 正シク横ニ位スルコトナク、必ラズ、多少斜ノ位置ヲ取ルガ故ニ、又之レヲ斜
 位ト名ク、而シテ常ニ肩胛部ノ先進スルヲ以テ、或ハ肩胛位ト稱ス。斜位ニ

シテ、臀部ノ下方ニ位セルモノハ、分娩ニ際シ、通例臀位若シクハ足位ニ變ズルモノナリ。故ニ、此種ノ斜位ハ、茲ニ算入セズ。

第六〇二項横位ノ區別 横位ヲ別チテ、第一横位及ビ第二横位ノ二トナス。即チ兒頭ノ左ニ在ルヲ第一横位、右ニ位セルヲ第二横位トナス。而シテ、各横位ヲ更ニ第一分類、第二分類ノ二トナス。兒背ノ前ニ向フヲ

第一百零六圖 横位胎兒ノ圖



第一横位
第一分類
ノ胎兒ヲ
示ス

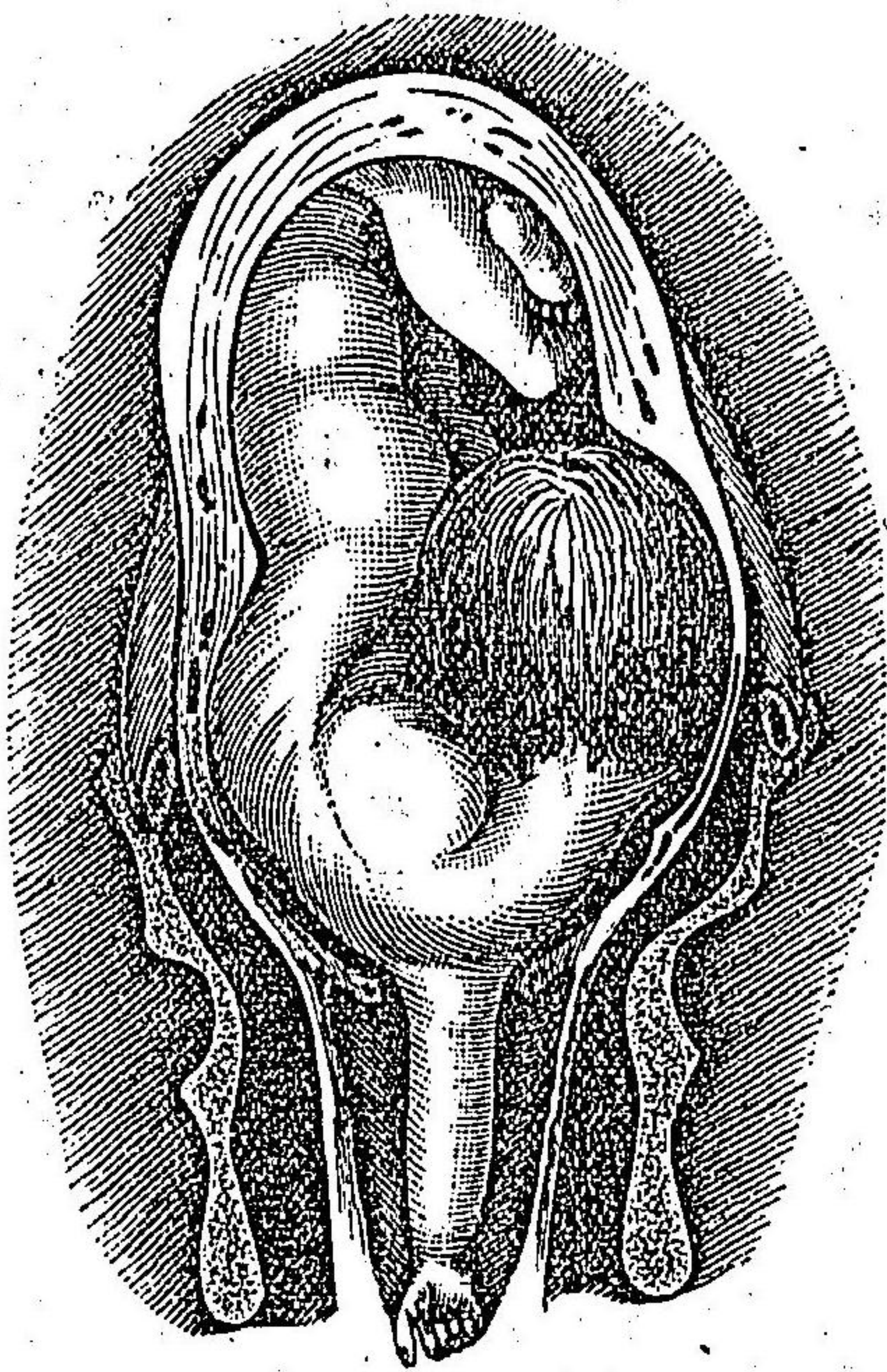
第一分類後
ニ對スルヲ
第二分類ト
云フ。是ノ故
ニ、兒頭、左ニ
位シ、其背、前
方ニ向フト
キハ、第一横
位ノ第一分

類ニシテ、其背後方ニ對スルトキハ、第一横位ノ第二分類ナリ。又、兒頭、右ニ在リ、其背、前方ニ在ルトキハ、第二横位ノ第一分類ニシテ、其背後方ニ面スルハ、第二横位ノ第二分類ナルヲ知ル可シ。或ハ兒背ノ前ニ在ルヲ第一横位、後ナルヲ第二横位、兒頭ノ左ナルヲ第一分類、右ナルヲ第二分類ト定ムルモノモ亦之レアリ。

第六〇三項横位ノ原因 多産婦ニシテ、子宮壁及ビ腹壁弛緩シ、胎兒移動シ、易キモノ、胎兒小ナルモノ、双胎ノ第二兒、軟化セル死胎兒、羊膜水腫、狹窄骨盤、懸垂腹等ハ、横位ヲ發ス可シ。而シテ、最後ノ二者、羊膜水腫、狹窄骨盤ニ在リテハ、兒頭、骨盤内ニ進入スルコト能ハズシテ、横位ヲ致セルモノ、其他ハ、胎兒ノ運動シ、易キガ爲メ、此位置ヲナスモノナリ。

第六〇四項横位ノ徵候「一」外検査 ニヨルニ、腹部横ニ廣ク、子宮ハ、正規ノ卵圓形ヲナサズ、觸診スルニ、子宮底及ビ恥骨縫隙ノ上部ハ、空虚ニシテ、大體部ハ、左右兩側ニ位シ、小體部ハ、通例、臀部ノ近傍ニ在リ、而シテ、其小體部、多クシテ、明瞭ニ觸ルベキトキハ、兒腹ノ前方ニ向ヘルヲ多シ。

第百十七圖 横位ノ胎兒緊シク骨盤内ニ壓入セラレ殆ントシテ横位ノ外形ヲ失ヘルモノヲ示ス圖



子宮下部
頗ル菲薄
トナリ破
裂ノ恐れ
アリ

心音ハ腹部ノ中線若クハ兒頭ノ側ニ位ス。横位ニシテ緊シク骨盤内ニ壓入セラレタルモノハ胸部モ亦共ニ進入シ兒頭ハ強ク軀幹ニ壓着セラレ子宮ハ横徑ノ擴張ヲ失ヒ外検査上縦位ト區別シ能ハザルコト屢之レアリ。(第百十七圖)

二内検査

ヲ施コスニ胎胞尙ホ存スルトキハ一モ胎兒ノ部分ヲ觸知セズ此故ニ一般ニ産婦ノ検査ニ際シ此ノ如キ狀況ヲ見バ横位ニアラザルヤヲ意思ス可シ而シテ横位ニ在リテハ二三指若クハ半手ヲ深ク送入スルニ及ビ始メテ骨盤入口上ニ肩胛ノ存スルヲ觸知セラル且ツ其肩胛ハ肩胛骨鎖骨及ビ肋骨ノ存スルニヨリ之ヲ知ル可シ即チ肩胛骨ハ三角形ニシテ其下角ハ下層ヨリ提擧ス可ク鎖骨ハ彎曲シテS字形ヲナシ肋骨ハ隣々相並ブヲ特異ナリトス。肩胛ノ胸部ト共ニ緊シク骨盤内ニ壓入セラレタル者ハ其胸部圓形ヲ現ハシ爲メニ甚ダシキ産瘤ヲ有セル頭蓋位ノ上肢脱出ト誤認セラル。ト時トシテ之レアリ。

三背部ノ方向頭部ノ方位先進手ノ辨別

ヲ緊要ナリトス。即チ肩胛骨ノ向ヘル部ハ背部ナリ腋窩ノ開ケル方向ハ臀部ニシテ其閉タル方位ハ頭部ナリ又手ハ指節ニヨリ及ビ踵ノ存セザルニヨリテ足ト區別ス手ノ左右ヲ知ルニハ試ミニ檢者ノ手ヲ以テ之レト相重ヌ可シ(手ノ方向ハ固ヨリ相反對ス)而シテ兩拇指相對スルトキハ異名手ニシテ拇

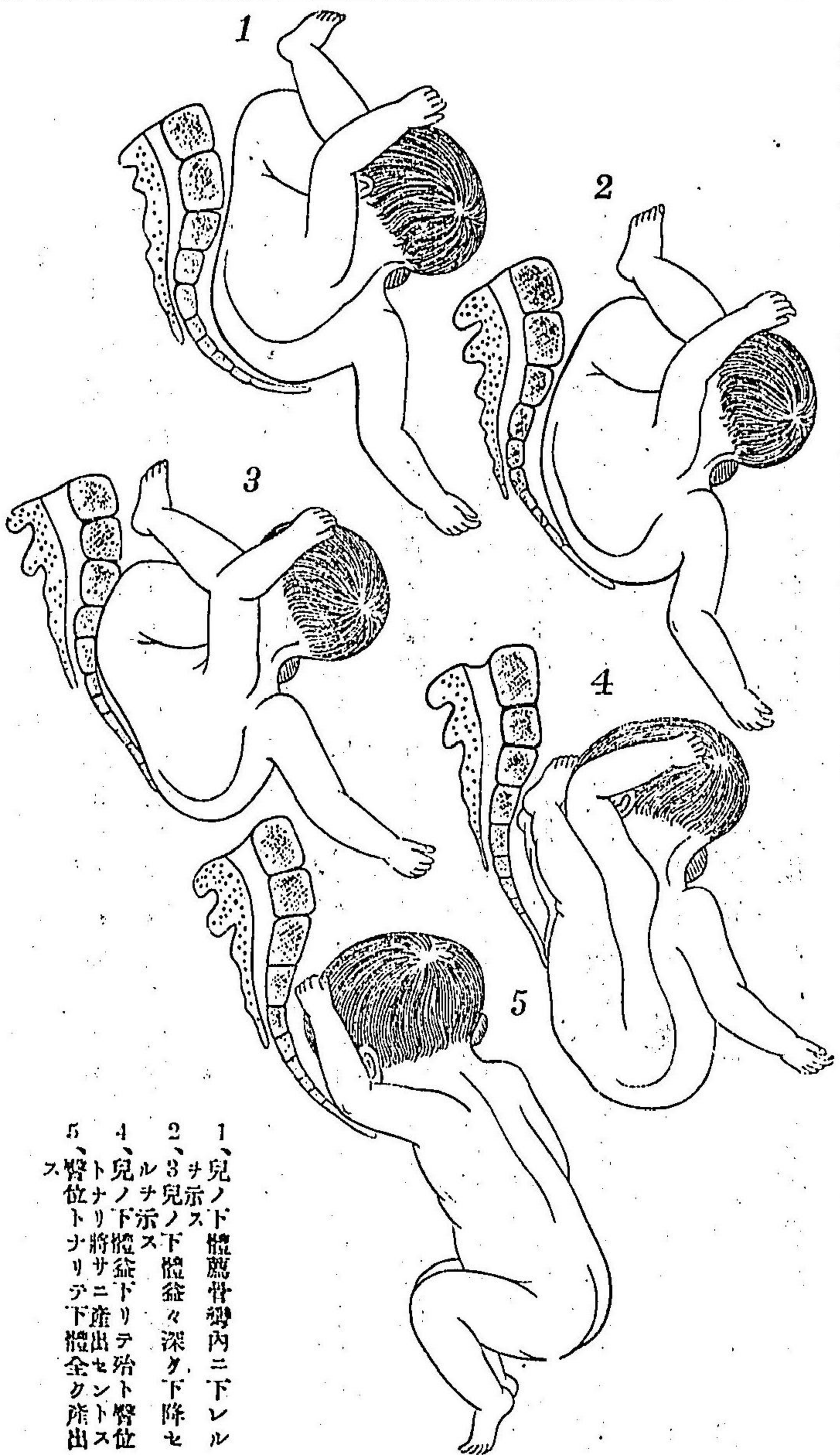
指ト小指ト相向フトキハ同名手ナリ凡ソ内検査ノ際手ヲ牽引スルハ最モ不可ナルガ故ニ決シテ之レヲ爲ス可カラズ或ハ時トシテ肩胛部ニ産瘤ヲ生ジ臀部ト區別シ得ザルコトアリ

第六〇五項横位分娩ノ經過 横位ハ人工ノ補助ヲ與フルコトナケレバ概シテ自ラ分娩ヲ營ムコト能ハザルヲ常トス而シテ今之レヲ自然ノ經過ニ委スルトキハ胎水頗ル早く漏泄シ一二時間ノ後チ陣痛増劇シ肩胛ハ深ク骨盤内ニ進入シ次デ胸部モ亦骨盤内ニ壓入セラレ第百十七圖參看而シテ兒頭ハ却テ上方ニ退クヲ見ル可シ又胎水ハ全ク漏泄シ子宮壁ハ胎兒ニ密着シ且ツ子宮ノ下部ハ漸ク菲薄トナル此期ニ於テハ其陣痛痙攣性トナリ疼痛甚ダシク時トシテハ子宮強直ヲ發スルコトアリ次デ子宮下部ノ壁質大ニ延張セラレ薄クシテ紙ノ如ク或ハ遂ニ陣痛ノ發作ト共ニ一頓ニ破裂ヲ生ジ胎兒ヲ腹腔内ニ脱出セシムルニ至ル而シテ母體ハ劇シキ出血ノ爲メニ死スルヲ常トス或ハ子宮破裂セズト雖ドモ時トシテ壓迫ニヨリテ軟部壞死シ且ツ時間ヲ費スガ爲メニ子宮内

ニ腐敗ヲ發シ體温甚ダシク亢進シ産婦ハ虚脱ニ陥リテ致命スルコトアリ
小兒ハ分娩ノ初メ既ニ脱出セル臍帶ノ壓迫セラレニヨリ次ニハ強度ノ子宮收縮ニヨリ終リニ至レバ胎盤ノ剝離ニヨリ其生命ヲ失フモノナリ

稀レニハ横位ノ胎兒ニシテ自ラ産出スルコトアリ
之レニ二種アリ一ヲ自己回轉ト云ヒ二ヲ自己産出トナス第一自己回轉トハ分娩ノ初メ適當ノ臥位ニヨリ頭部若クハ骨盤部下降シ縦位ニ變ジ正規ノ分娩ヲ遂グルモノナリ第二自己産出トハ兒頭ハ上部ニ支障セラレハニ際シ強劇ノ陣痛ト骨盤ノ狹隘ナラザルニヨリ兒ノ下體ハ漸次ニ薦骨彎内ニ下リ次圖ニ示スガ如ク遂ニ臀部初メニ産出シテ臀位トナリ以テ娩出ヲ遂グルモノトス但シ骨盤廣潤ナルカ胎兒小ナルニアラザレバ自己産出ヲ營ムモノニアラズ故ニ通常ハ成熟胎兒ニ之レヲ見ルコト甚ダ少ナク死胎兒未成熟胎兒若クハ軟化セル胎兒ニ於テ自己産出ヲ致スコト多シトス

第一百十八圖 横位ノ胎兒自己産出ヲ營ムノ圖



第六〇六項 横位分娩ノ處置

豫カジメ、妊娠中ニ横位ナルヲ知
 ラバ、外回轉術ヲ施コシテ、頭位ニ變ゼシメンコトヲ要ス。分娩ノ初期ニ於テ
 モ、亦此ノ法ヲ試ム可シ。子宮壁ノ緊張ニヨリ、其既ニ回轉シ能ハザルモノ
 ニアリテハ、速カニ醫師ヲ招ク可シ。若シ遲延スルトキハ、大ニ治術ヲ困難
 ナラシムルモノナリ。而シテ、醫師ノ到ラザル間ハ、可及的、胎胞ヲ保存セシ
 ムルヲ務ム可シ。是レ胎胞ノ破開セル後ハ、回轉術ヲ行フコト大ニ困難ナル
 ニヨル。即チ、産婦ヲ兒頭ノ位セル側方ニ臥セシメ、努責ヲ禁ジ、安靜ヲ守ラ
 シム可シ。且ツ、手術ニ就キ、臥床、其他ニ要スル器具ヲ整ヒ、熱湯、煮沸水、冷水
 等ヲ用意スルヲ要ス。尚ホ、第二二二章ヲ參看ス可シ。

第四百四十六章 頭蓋位ニ於ケル上肢及

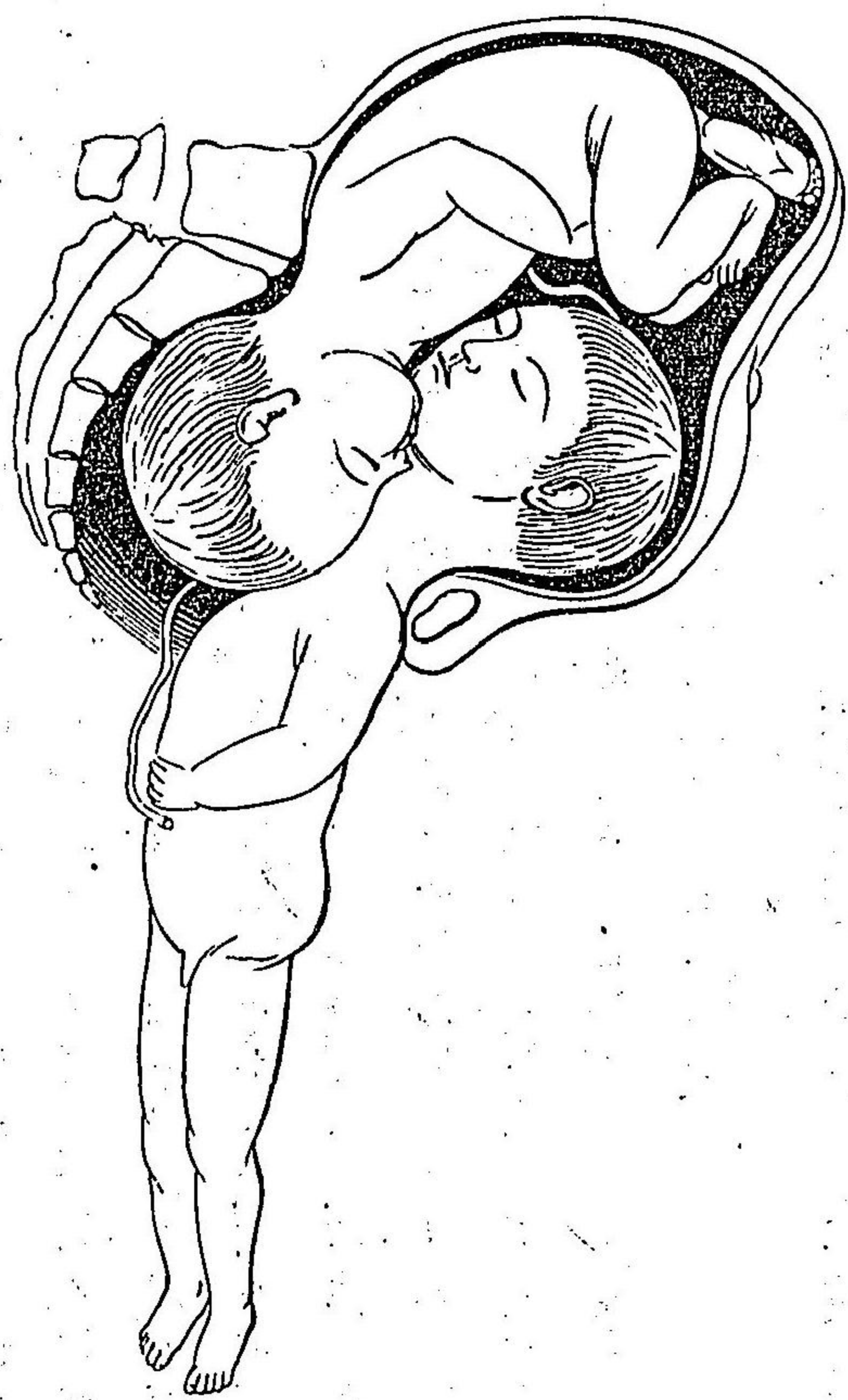
ヒ下肢ノ脱出

第六〇七項 一、頭蓋位ニ於ケル上肢ノ脱出 此脱出ハ、兒頭
 ノ子宮下部及ヒ骨盤ヲ充塞セザルニヨリ生ズルモノニシテ、狭窄骨盤、小

ナル胎兒羊膜水腫、懸垂腹等ニ發ス可シ。
此場合ニ於テハ胎兒小ナルカ、陣痛強力ナルカ、又ハ骨盤廣濶ナルトキハ、

双胎ノ頭蓋位ト足位即チ頭蓋位ニ於ケル
下肢脱出ノ高度ニ至レルモノヲ示ス圖

圖 九 十 百 第



敢テ分娩ニ害アルモノニアラズ。而シテ、此ノ如キ際ニハ、産婦ヲ手ノ存セザル側方ニ臥セシム。手ヲ甚ダシク脱出セザラシムルガ爲メナリ。若シ、産道狹小ナルカ、或ハ上肢ノ脱出スルコト甚ダシキトキハ、醫治ニヨリ、整復術、回轉術、鉗子挽出術等ヲ要スルモノナリ。

〔第六〇八項〕二頭蓋位ニ於ケル下肢ノ脱出 ハ、稀レニ、未成熟胎兒ナルカ、若クハ双胎ノ兩兒同時ニ、骨盤内ニ出ヅルモノニ、是レヲ見ルコトアリ。

處置 双胎ノ兩兒同時ニ、骨盤内ニ進メル者ニ在リテハ、其分娩甚ダ困難ナルガ故ニ、速カニ醫治ヲ求ム可シ。而シテ、醫師ハ鉗子ヲ用キ始メニ頭蓋位ノ一兒ヲ出ダシ、而シテ後ニ、足位ノ胎兒ヲ挽出スル者トス。

第四百四十七章 臍帶ノ異常

〔第六〇九項〕一臍帶脱 ハ、次ノ第四百四十八章ニ於テ別論ス可シ。
〔第六一〇項〕二臍帶纏絡 ハ、通例、之レアルコト多ク、凡ソ三四

第 百 二 十 圖

臍帯緊シク
頸部ニ纏絡
シ胎兒死亡
ノ原因ヲナ
スヲ示ス圖

回ノ分娩中ニ一回アルヲ見ル可シ就中頸部ニ纏絡セルモノ最モ多ク且
ツ其纏絡ノ數ハ一廻又ハ數廻ノ多キニ至ルコトアリ而シテ通例ハ著ル
シキ害ナキヲ常トスレドモ稀ニハ妊娠中ニ臍帯纏絡ノ爲メニ手足ヲ絞



斷セラレ或ハ纏絡部ノ絞搾ニヨリテ血行絶止シ胎兒ノ死ヲ致スコトアリ
分娩時ニ於テ纏絡ノ爲メニ臍帯短縮セルトキハ小兒ノ娩出ヲ妨ゲ劇
痛アル陣痛又ハ出血ヲ發シ胎盤ノ過早剝離子宮翻轉等ヲ致シ或ハ臍帯
断裂シ若シクハ牽引ニヨリ其血行ヲ害シ小兒ヲ死ニ致ラシムルコトアリ
但シ此纏絡ハ臍帯ノ長キニ失スルモノニ多ク之アリ

處置 兒頭既ニ産出シ臍帯纏絡アルヲ知ラバ正規分娩處置法中第三
○六項ニ記セル所ノ法ニヨリ之レヲ解除ス可シ但シ臍帯纏絡アルモ分
娩ニ障害ナキモノハ必ズシモ速カニ解除スルヲ要セズ是レ纏絡セル臍
帯ハ甚ダ長キコト多キニヨル之レニ反シ纏絡ノ爲メニ臍帯緊張シ胸部
ノ産出ヲ妨グルトキハ直チニ之レヲ切離シ小兒娩出ノ後速カニ其兩端
ヲ結紮ス可シ(結紮ノ後チニ切離シ得ルトキハ更ニ可ナリトス)

【第六一一項】三臍帯轉振 ハ敢テ娩出ノ障害ヲナサズト雖ドモ
緊シク轉振スルトキハ胎兒ノ死亡ヲ致スモノトス(第百廿一圖)

【第六一二項】四臍帯ノ短カキモノ ハ之レアルコト少ナシ然

レドモ、極メテ稀レニハ、殆ント全ク臍帯ヲ缺キ、血管直チニ胎兒ヨリ胎盤ニ分布スルガ如キモノアリ、凡ソ臍帯ノ短カキモノハ、其害アルコト、纏絡

ニヨリテ短縮セルモノト異ナルコトナシ。

〔第六一三項〕五「臍帯ノ

離斷 急劇ナル分娩ニヨ

リ、産床ニ坐スルニ迫アラズ

シテ、起立位ニ於テ娩出ヲ遂

ゲ、小兒ヲ床上ニ墜スカ、若ク

ハ、臍帯ノ甚ダ短カキモノニ

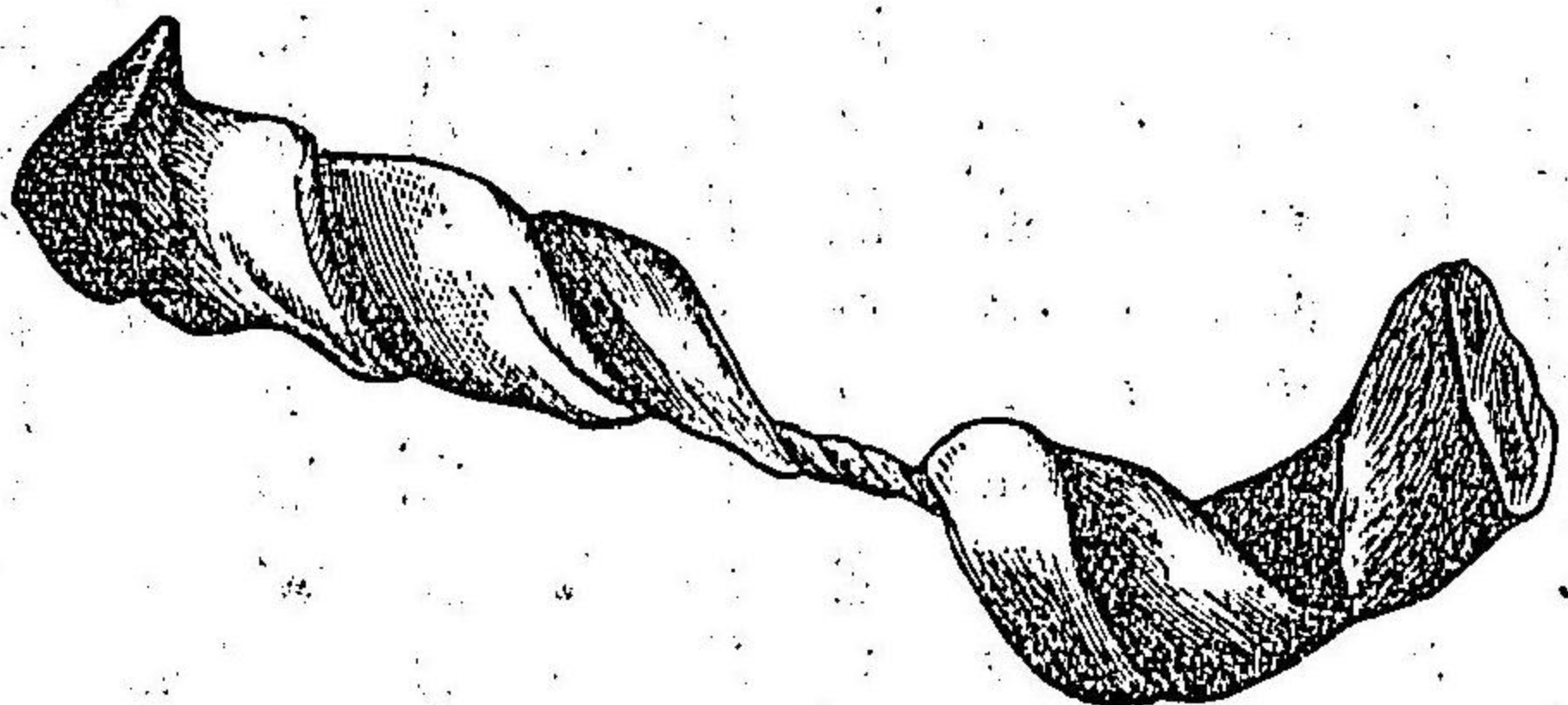
於テハ、胎兒尙ホ産道中ニ在

リテ、臍帯ノ離斷ヲ生ズルコ

トアリ、斷裂セル臍帯ハ、血

管、不正ニ斷裂シ、管口、狭小ト

此ノ如キモノハ、固ヨリ血行絶ス



第百二十一圖

臍帯緊シク轉振セルモノヲ示ス圖

ナルガ故ニ、或ハ全ク出血ナキコトアリ、此理ニヨリ咬斷セラレタル初生獸類ノ臍帯ハ、出血ナキヲ常トス、但シ、離斷セル部、臍帯ニ近キトキハ、出血スルコト從テ多キモノナリ、又臍帯ノ出血ハ、小兒ノ啼泣スルコト甚ダシキトキハ、大ニ少量ナルモノトス、是レ強劇ノ呼吸作用ニヨリ、胸廓内ニ多量ノ血液ヲ吸引スルニヨル。

處置 速カニ結紮ヲ施コシ、若クハ臍部ヨリ離斷シテ結紮スルコト能

ハザルトキハ、石炭酸水(場合ニヨリ酢ヲ代用ス可シ)酢ハ止血ノ力アリ、且

ツ、幾何カ防腐ノ効ヲ有スニテ、蘸セル綿花ヲ以テ壓抵シ、以テ速カニ醫治

ヲ乞フ可シ。

第四百四十八章 臍帯脱及ビ臍帯先進

〔第六一四項〕名義

臍帯脱トハ、胎胞破裂ノ後チ、臍帯係狀ヲナシ、

先進部ノ下ニ脱出スルカ、又ハ先進部ト同所ニ位スルヲ云ヒ、臍帯先進ト

ハ、臍帯脱ニシテ、未ダ胎胞ノ破開セザルモノヲ云フ。

〔第六一五項〕原因 之レヲ發スルノ原因ハ、上肢ノ脱出ニ於ケルカ
 如ク、主トシテ、先進部ノ骨盤腔ヲ充塞セザルニヨル。即チ狹窄骨盤、羊膜水
 腫、小ナル胎兒、横位、足位、是レナリ、其他、前置胎盤、臍帶ノ甚ダ長キモノ（七
 米十）等ニ之レヲ致ス。起立位ニ於テ、胎水漏泄セルノ際ニハ、之レヲ發シ易シ
 トス。

〔第六一六項〕症狀

内検査ヲ施コスニ、臍帶ノ先進若クハ脱出アル
 トキハ、卵膜内（即チ臍帶先進）又ハ子宮口、腔内若クハ外陰部ニ於テ、脈動ア
 ル索條ヲ觸知ス可シ。實際上ニハ、兒頭ノ尙ホ移動スルニ當リ、胎水漏泄ス
 ルトキハ、内検査ヲ施コシ、臍帶脱ノ有無ヲ檢スルヲ法トス。若シ又、脱出セ
 ル臍帶アリト雖ドモ、其搏動ナキモノハ、胎兒ノ死亡セルモノナルヲ知ル
 可シ。但シ、陣痛時ニハ、生兒ト雖ドモ、壓迫ニヨリ搏動停止スルコトアルガ故
 ニ、注意スルヲ要ス。●臍帶脱アル時ハ、胎兒ノ生命頗ル危険ナリ。是レ兒體
 ト産道壁ノ間ニ臍帶壓迫セラレ、血行ヲ障害シ、胎兒ノ生命ヲ危クスルニ
 ヨル。而シテ、頭蓋位ニ於ケル、臍帶脱ハ最モ不良ニシテ、足位ハ之レニ次ギ、

臀位ハ最モ危キ。ト少ナシ。横位ニ在リテハ、肩胛部ノ深ク下降セザルトキ
 ハ、壓迫ヲ生ゼザルモノトス。但シ、此横位ノ胎兒ハ、臍帶脱ノ壓迫ヲ生ゼザ
 ルニ先ダチ、既ニ死亡スルヲ常トス。

〔第六一七項〕處置 一 臍帶先進アルトキハ、可及的、胎胞ノ破裂
 ヲ防ギ、醫ノ來診ヲ求メ、而シテ、臍帶ノ存セザル側方ニ臥セシム可シ。之レ
 ニヨリテ、臍帶退却シ、屢、整復セラル、トアリ。

二 胎胞既ニ破裂シ、臍帶ノ脱出セルモノニ在リテハ、殊
 ニ速カニ、醫師ノ治方ヲ請ハザル可カラズ。其間、可及的、壓迫ヲ免レシメン
 ガ爲メニ、努責ヲ禁ジ、二三指ヲ用キテ、兒頭ヲ壓却シ、以テ醫師ノ到ルヲ待
 ツ可シ。若シ又、兒頭、骨盤下口ニ進ミ、將ニ産出セントスルモノニ在リテハ、
 子宮ヲ摩擦シ、陣痛ヲ催進シ、産婦ヲシテ劇シク努責セシメ、或ハ、後會陰壓
 出法第三編第三百四項ヲ施コシ、以テ速カニ、兒頭ヲ娩出セシメン。トヲ務
 ム可シ。○經産婦ノ、分娩容易ナルモノニ在リテハ、兒頭尙ホ骨盤内ニ存セ
 ルノ際ニ於テモ、亦、娩出ヲ催進シ、速カニ之レヲ終ラシムルヲ佳トス。●陣

痛休歇時ニ於テ、臍帶ニ觸ルハ、ニ搏動絶止シ、胎兒ノ死亡セルヲ確實ナルモノニ在リテハ、整復法ヲ試ミ、若クハ醫師ヲ迎フルヲ要セズ、自然ニ委子産出セシム可シ。

〔第六一八項〕醫師ノ、臍帶脱ニ施ユス可キ手術ハ、臍帶復納法、臍帶整復術、足位回轉、挽出術及ビ鉗子挽出術トナス。就中、臍帶復納法ナルモノハ、嚴重ニ消毒シ、手ヲ腔内ニ進メ、臍帶ヲ指端ニ保テ、全手ヲ深ク子宮腔内ニ送り、臍帶ヲ整復シテ、手ヲ拔去スルノ法ナリ。此法ハ、手術殆ント内回轉術ト異ナルヲナク、困難ニシテ危険多ク、且ツ成績ヲ收ムルト少ナキヲ以テ、産婆ハ固ヨリ之レヲ行フ可カラズ。

第四百十九章 子宮破裂并ニ腔穹窿部ノ破裂

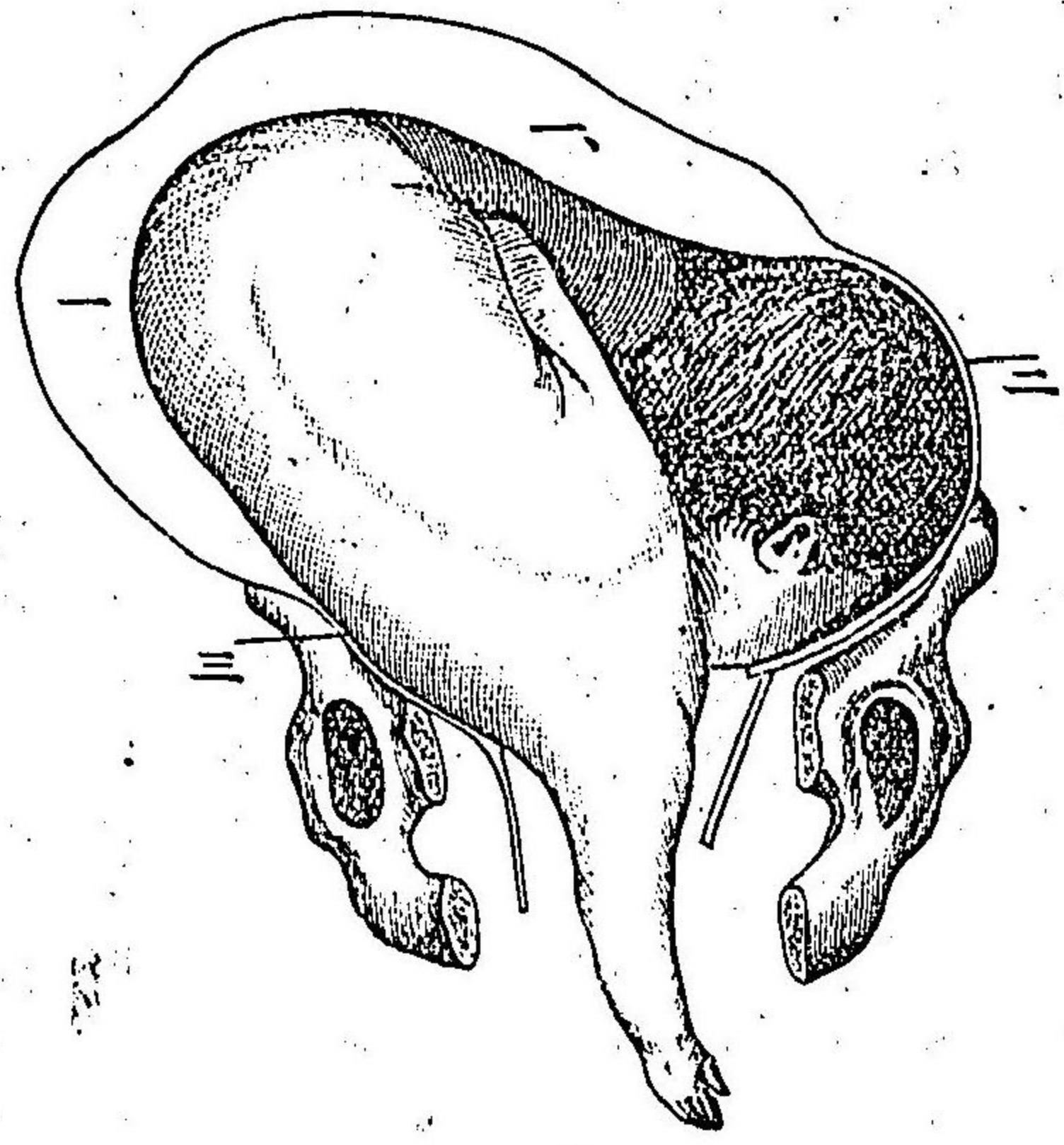
〔第六一九項〕子宮破裂ノ原因 子宮破裂ハ、横位、腦水腫、狹窄骨盤、産道ノ狹窄、閉塞等、分娩ノ抗抵極メテ大ナルモノ、若クハ、疾患ニヨリ、子宮

ノ組織變質シ、脆弱トナレルモノニ發ス。就中、横位ハ、破裂ノ原因ヲナスノ最モ多キモノトス。

〔第六二〇項〕子宮破裂ノ徵候 一將サニ破裂ヲ發セントスルノ徵候 子宮體ハ、漸次ニ上方ニ收縮上昇シ、子宮下部ハ延長シ、甚ダ菲薄トナリ、(第百二十二圖)參照此兩部ノ境界即チ收縮輪ハ、殆ント臍部ニ上リ、之レニ觸ルハ、硬索狀ヲナセルヲ知ル可ク、又、下腹部ヲ按スルニ、疼痛甚ダシク、兒ノ體部ハ頗ル明カニ觸知セラル、産婦ハ甚ダシク苦悶ヲ訴ヒ、陣痛劇シク、脈搏增多ス可シ、稀レニハ、此等ノ前徵ナク、卒然トシテ破裂ヲ生ズルコトアリ。

二既ニ子宮破裂ヲ生ズルトキハ、産婦ハ下腹内ニ切ルガ如キ疼痛ヲ感ジ、以テ顔色蒼白、體力衰脱、陣痛ハ全ク止ミ、脈細數、四肢厥冷シ、人事不省トナリ、直チニ適當ノ醫治ヲ加フルヲ得ザレバ、出血シテ速カニ死ニ歸ス。而シテ、胎兒、腹腔内ニ脱出スルガ爲メニ、觸診スレバ、腹部ノ形狀全ク變化シ、胎兒ハ子宮ノ外ニ在テ、其體部ハ甚ダ明カニ觸知セラル、陰部

第百二十二項 横位ノ子宮將サニ破裂ヲ生ゼントスルヲ示ス



一、收縮シ變厚セル子宮體
二、三、延張シ非薄トナレル子宮下部但シ破裂ハ(二)ノ部ニ於テ生ズ可シ

ヨリハ夥シキ出血ヲ呈ス。又同時ニ腹腔内ニモ劇シク出血内出血シ、胎盤ハ子宮ノ變少スルガ爲メニ剝離ス可シ。内診スルニ、先進體部ハ既ニ觸知シ得ベカラザルニ至ル。

〔第六二二項〕腔穹窿部ノ破裂 時トシテ、子宮ハ破裂セス、單ニ

腔穹窿部ノミ破裂スルコトアリ。此症ニ於テハ、概シテ、子宮破裂ト同一ノ症狀ヲ呈スルモ、胎兒ハ、腹腔内ニ脱出スルコトナシ。

〔第六二二項〕子宮破裂ノ處置 子宮破裂ノ原因アルヲ見バ、未ダ危険ノ徵ヲ現サハルニ先ダチ、速カニ醫治ヲ求ム可シ。既ニ破裂ヲ生ズルキハ、安靜ニ臥セシメ、下腹ニ氷罌法ヲ施コシ、葡萄酒、濃珈琲、ホフマン等ノ興奮藥ヲ與ヘ、以テ醫師ノ至ルヲ待ツ可シ。〔第六二十四章〕急性貧血ノ處置、參照但シ、醫師ハ、破裂ノ狀ニ應ジ、或ハ、産道内ヨリ胎兒ヲ挽出シ、或ハ、腹切開術ヲ施コシ、其破裂ヲ治療ス可シ。

第百五十五章 子宮翻轉

〔第六二三項〕子宮翻轉ハ其輕重ニ從ヒ、産婆學ニ於テハ、之レヲ二種ニ區別ス可シ。第一種、不全翻轉ハ、子宮底部ノ、子宮腔内ニ陥入セルモノ、第二種、全翻轉ハ、即チ、子宮全ク翻轉セルモノ、是レナリ。

〔第六二四項〕原因 妄リニ臍帶ヲ牽引シテ、胎盤ヲ剝離セントスル

ニヨリ又ハ分娩ノ際臍帶ノ短カクシテ牽引セララル、ニヨリ若クハ子宮弛緩セルノ際、妄リニ胎盤壓出法ヲ施コスニヨリテ之レヲ發ス。

〔第六二五項〕症狀

全翻轉ニ在リテハ、外陰部若クハ腔内ニ於テ暗紅色ニシテ知覺過敏ナル圓形ノ腫瘍ヲ認メ、時トシテハ胎盤尙ホ之レニ

附着セルコトアリ、恥骨縫隙上ニ於テハ子宮ノ觸知セララル、コトナシ、不
全翻轉ナルトキハ、恥骨縫隙上ニ於テ子宮底ハ漏斗狀ノ凹陷ヲ呈スルモ
ノトス。本病ヲ發スルトキハ、急ニ脈細數、衰弱ヲ發シ、甚ダシク子宮出
血ヲ現ハスモノナリ。

〔第六二六項〕處置

子宮翻轉シ、危險ノ徵アルヲ見バ、嚴シク手ノ消毒法ヲ行ヒ、之レヲ腔内ニ送入シ、五指ヲ以テ翻轉セル部ヲ保チ、徐々ニ復納ス可シ。若シ容易ク目的ヲ達スルコト能ハザルトキハ、三%石炭酸水ヲ布片ニ蘸シテ脱出部ヲ被ヒ、速カニ醫師ヲ迎フ可シ。

第一百五十一章 子宮頸、腔及ビ外陰部ノ裂傷

〔第六二七項〕子宮頸ノ破裂

子宮口ノ強硬ナルモノ、又ハ子宮

宮口ノ開大十分ナラザルノ際、手又ハ器械ヲ送入スルニヨリテ生ス、而シテ、茲ニ破裂ト稱スルモノハ、頗ル大ニシテ、殆ト全腔部ヲ破裂セシモノヲ云フ、小ナル裂傷ハ敢テ之レニ算入セズ。

子宮頸破裂スルトキハ

後産期ニ至リ、甚ダシキ出血ヲ呈シ、時ト

シテハ産婦ヲシテ死ニ至ラシム、産褥中ニハ、化膿ヲ生ジ、産褥熱ノ原因ヲナスコトアリ。

〔第六二八項〕二腔破裂

ハ初産婦殊ニ其高年ニシテ腔ノ延張性

少ナキモノ、又ハ、鉗子挽出術等ノ手術ニ際シ之レヲ發ス。

破裂ノ部位ハ、下部ニ在ルコト多シ、且ツ、甚ダシク深部ニ達スルコトアリ。

若シ深部ニ達スルトキハ、甚ダシキ出血ヲ致ス、腔穹窿部ヲ破リ、腹腔内ニ達スルモノハ、子宮破裂ニ於ケルガ如ク、直チニ死亡スルコトアリ、産褥中ニハ、化膿ニヨリテ産褥熱ヲ發シ、又ハ、治癒ノ後、腔ノ狹窄ヲ遺スモノモ亦之アリ。

第六二九項 三外陰部ノ破裂 ハ前庭陰核及ピ尿道隆起ノ損傷ヲ以テ最モ緊要ナリトス。此部ハ皮下ニ饒多ノ血管アルヲ以テ甚ダシキ出血ヲ致スモノナリ。

會陰破裂 ハ第五百五十二章ニ於テ別論ス可シ。

第六三〇項 各裂傷性出血ノ症狀 以上ノ裂傷ニ就キ大ナル血管損傷セラレトキハ甚ダシキ出血ヲ呈ス。就中靜脈性出血ナルトキハ暗色ノ血液絶エズ流出シ、動脈性出血ナレバ鮮紅色ノ血液線狀ヲナシ

若シクハ涌クガ如ク射出ス可シ。此出血ハ通例胎兒娩出後ニ發スルモノナリ。而シテ子宮善ク收縮セルノ際、此ノ如ク持續的ニ出血スルトキハ直チニ裂傷性出血ナルヲ推知ス可シ。

第六三一項 裂傷性出血ノ處置 一 上項ニ記セルガ如ク強度ノ出血アルトキハ速カニ醫ノ來診ヲ求メ且ツ急要ノ處置ヲ施コサシガ

爲メ陰部ヲ光明ニ對セシメ石炭酸水ニ浸セル綿花ヲ以テ外陰部ヲ拭去シ若シ其ノ出血部外陰部ニ在ルトキハ綿花ノ一塊ヲ石炭酸水ニ浸シ強

ク壓抵シテ止血セシム。——外陰部ニ損傷ナク且ツ子宮善ク收縮セルノ際、膈内ヨリ多量ノ出血アル者ハ膈壁若シクハ子宮頸ノ裂傷ニヨルモノナルガ故ニ先ツ薦骨部ヲ少シク高クシ且ツ臀部ノ軟部ヲ前方ニ引キテ陰唇ヲ閉合セシメ壓抵巾ヲ陰部ニ貼シ強ク兩脚ヲ閉合セシメ一手ヲ以テ腹上ヨリ強ク子宮ヲ壓ス可シ。此ノ如クスレバ血液ノ凝固ニヨリ屢止血スルニ至ルモノナリ。若シ此法ヲ施コスモ尙ホ多量ノ出血ヲ現ハストキハ膈内栓塞法ヲ施コサル可カラズ。

二 膈内栓塞法 法ノ如ク手ノ消毒ヲ施コシ内検査ニヨリ損傷部ノ

腔或ハ子宮頸ニアルヤヲ檢シ三%ノ冷石炭酸水一〇〇〇ヲ用キテ腔内ニ灌注シ長サ半迷的兒幅四指横徑ノ脱脂綿多數ヲ取り豫ジメ之レヲ轉振シテ断裂シ難カラシメ五%石炭酸水ニ浸シテ絞搾シ之レヲ一盤中ニ容レテ陰部ノ直前ニ置キ產婆ハ一手ヲ以テ陰唇ヲ開キ他手ヲ以テ綿花ヲ腔内ニ送入シ固ク出血部ニ壓抵シ以テ漸次ニ腔内ニ充填ス可シ。此ノ如ク全ク腔内ヲ充塞セバ緊シク兩足ヲ收閉シ安臥セシメ且ツ腹上ヨ

リ強ク子宮ヲ摩擦シ、收縮セシメ、以テ内出血ヲ致サシメザルヲ要ス。或ハ
脱脂綿ニ代ヘテ、線條ヲ附セル綿花タンボン、又ハ瓦設片ヲ用キ、若シクハ、
急速ノ際ニハ、手巾ヲ取り、之レヲ石炭酸水ニ浸シ、以テ代用スルモ亦可ナ
リ。――栓塞法ヲ施コスノ前、若シ後産ノ子宮内ニ存スルコアラバ、壓出法
ニヨリ、先ヅ之レヲ娩出セシムルヲ要ス。

第一百五十二章 會陰破裂

〔第六三二項〕**會陰破裂ノ種類** 會陰破裂ハ之レヲ分チテ、第一度、
第二度及ビ第三度ノ三種トナス。第一度トハ、肛門ニ向ヒ會陰ノ半徑以內
ヲ破裂セルモノ、第二度トハ、既ニ肛門ニ達スルモ、其ノ括約筋ヲ殘スモノ、
第三度トハ、全會陰ヲ破リ、且ツ、肛門括約筋ヲ破裂セルモノヲ云フ。會陰破
裂ナルモノハ最モ屢是レアルモノナリ、其輕度ニシテ、殊ニ陰唇繫帶ノミ
ヲ破裂セルモノハ、殆ト毎初産婦ニ之レアリト云フ可シ。而シテ、會陰破裂
ハ、通例、分娩處置ノ不良ナルニヨリテ發スルモノナレドモ、亦最モ良ク其

處置ヲ營ムト雖ドモ、之レヲ免ル、ト能ハザルモノアリ。其他稀レニハ、會
陰ノ中部ノミ破裂シ、孔穴ヲ造ルコアリ。

〔第六三三項〕**原因** ハ兒ノ最大ナル部分ノ産出スルニ際シ、外陰部
ノ延張、其極度ニ達シ、以テ會陰ノ中線ニ破裂ヲ生ズル者ニシテ、急速ナル
兒頭ノ産出、分娩處置ノ不良、顔面位等ノ如キ不良ノ胎勢、産婦ノ背臥、恥骨
弓ノ狹隘ナルモノ、高年ノ初産婦、鉗子手術等ニ於テ殊ニ之レヲ發スル者
ナリ。又妄リニ後進兒頭(骨盤端位ニ於ケル兒頭ヲ云フ)ヲ娩出スルトキハ、
全會陰破裂(即チ第三度ノ會陰破裂)ヲ生ズルコト屢之レアリ。

〔第六三四項〕**症狀** ハ僅少ニシテ、産婦ノ陰部ニ灼熱ヲ感ズルニ過
ギズ。出血ハ其破裂ノ腔内ニ及ボセルカ、又ハ、會陰ノ側方ニ破裂ヲ生ゼル
ノ際ニ於テノミ多ク之レアリ。而シテ、此破裂ヲ自然ニ放任シ、縫合法ヲ施
コサレバ、陰門裂孔多ク、哆開シ、腔加答兒、子宮脱等ノ因ヲナスコト屢之
レアリ。第三度ノ破裂即チ肛門括約筋ニ及ボセル者ニ在リテハ、腸内ノ瓦
斯(放屁)又ハ液性ノ糞便ヲ止ムルヲ能ハズシテ、大ニ患者ヲ苦マシムルモ

ノナリ其他會陰破裂アルトキハ屢産褥熱ヲ誘起シ又ハ其破裂部ニ産褥性潰瘍ヲ發シ創面増大シ終ニ大ナル組織ノ缺損ヲ遺スコトアリ

〔第六三五項〕處置 小ニシテ僅カニ陰唇繫帶ノ一部ヲ損傷セルモノハ石炭酸水又ハ硼酸水ヲ以テ洗滌シ沃度フアルムヲ撒布シ正規分娩處

置ノ法則ニ準ジ消毒セル綿花瓦設等ヲ貼シ丁字紮帶ヲ施コスヲ以テ足レリトス其少シク大ナルモノニ至リテハ醫治ニヨリ縫合セザル可カラズ

第一百五十三章 骨盤關節ノ損傷

〔第六三六項〕骨盤關節ノ損傷 恥骨縫際及ビ兩薦腸關節ハ兒

頭ト骨盤ノ關係不良ニシテ分娩ノ困難ナルニ當リ稀レニハ破裂ヲ生ズルコトアリ

此破裂アルトキハ患婦ハ下肢ヲ運動セシムルヲ能ハズ傷部ヲ壓スレバ大ニ疼痛ヲ訴フ而シテ恥骨縫際ノ離開セルモノニ在リテハ膀胱ノ

障害即チ排尿時ノ疼痛等ヲ有ス可シ○以上ノ損傷ハ速カニ醫治ヲ求メシコトヲ要ス

第一百五十四章 分娩時ノ出血

〔第六三七項〕分娩時ノ出血 既ニ分娩ヲ始メ而シテ出血スルモノト及ビ妊娠中ニ出血シ遂ニ分娩ヲ誘起スルモノト共ニ之レヲ分娩時

ノ出血ト名ク可シ是レ妊娠中ニ出血スレバ多クハ之レガ爲メニ分娩ヲ催起スルニ至ルモノナルニヨル尙ホ爾餘ノ妊娠中ノ出血ニ就キテハ第五篇第八十章ヲ參看ス可シ

〔第六三八項〕原因 分娩時ノ出血ヲ現ハスモノニ種々アリ一ニ妊娠

中ニ併發セル婦人科的疾病即チ腔靜脈瘤ノ破開癌腫ポリープ等ニヨルモノ二子宮破裂及ビ子宮翻轉三胎盤ノ早期剝離四前置胎盤五分娩時ノ損傷六胎盤部ノ無力性出血是レナリ次ニ第一百五十五章乃至第六十一章ニ於テ之レヲ各論ス可シ但シニ妊娠中ニ發セル婦人科的疾病ハ既ニ

第五篇第百八章ニ之レヲ説キ「子宮破裂及ビ子宮翻轉ハ、既ニ本篇第百四十九章及ビ第百五十章ニ論述セリ。

第百五十五章 胎盤ノ早期剝離

〔第六三九項〕定義 胎盤ノ早期剝離トハ、分娩ノ始メ若クハ尙ホ妊娠中ニ在リテ、胎盤早ク剝離セルモノニシテ、主トシテ母體ノ血管ヨリ出血シ、而シテ未ダ正規ノ分娩期ニ至ラズト雖ドモ、娩産ヲ誘發スルイ最モ多シ。

〔第六四〇項〕原因 ハ外傷殊ニ身體ヲ劇シク震盪スルコト、子宮内膜炎、妊娠性腎炎、浮腫ヲ發スル疾病若クハ分娩時ニ胎胞ノ久シク破開セザルモノニ在リトス。

〔第六四一項〕症狀

ハ内出血及ビ外出血ノ二種アリ。

〔二〕内出血トハ 子宮壁ト剝離セル胎盤及ビ卵膜トノ間ニ血液ノ滲溜セルモノニシテ、母體ニ於テハ、血液、外部ニ現ハレズト雖モ、劇シキ貧

血ヲ發ス。即チ其徵候ハ、出血ニヨリテ、下腹内ニ卒然トシテ疼痛ヲ發シ、子宮内ニハ劇シキ緊張ヲ感ジ、子宮ハ其形增大シ、若クハ變形シ、母體ハ、脈細小頻數トナリ、四肢厥冷、人事不省等ノ急性貧血ノ徵ヲ呈シ、遂ニ死ニ至ルヲアリ。——胎兒ハ、其血液ヲ失フイ多カラズト雖ドモ、胎盤ノ物質交換ヲ妨ゲラル、ニヨリ、多クハ死ヲ致ス可シ。但シ、内出血ト名クト雖ドモ、通常ハ、幾分カ外部ニ出血スルモノナリ。

〔二〕外出血トハ 血液ノ、外部ニ漏出スルモノニシテ、胎盤部ヨリ出血スル所ノ血液ハ、子宮壁ト卵膜トノ間ヲ經テ流出ス可シ、此出血ハ、内出血ニ於ケルガ如ク、急性貧血ノ徵ヲ呈ス可シ。小兒ニ在リテモ亦、内出血ト異ナル所ナシ。

〔第六四二項〕處置〔一〕 内外出血共ニ、患婦ヲ安靜ニシ、下腹ニ氷嚢法ヲ施コシ、外出血ナルトキハ、腔内ニハ緊シク栓塞法ヲ行ヒ、以テ速カニ醫治ヲ請フ可シ。

〔二〕分娩ニ際シ、久シク胎胞破開セザル者 分娩ニ際シ、胎胞

ノ久シク破開セザルガ爲メニ其胞往々外陰部ニ現ハレ以テ出血ヲ現ハスヲアリ是レ子宮壁ハ收縮スト雖ドモ胎盤ハ收縮セザルニヨリ爲メニ剝離ヲ生ズルニ基ツク此ノ如キ場合ニ於テハ胎胞ヲ破開ス可キモノトス(第三編第二九一項人工胎胞破開法参照)

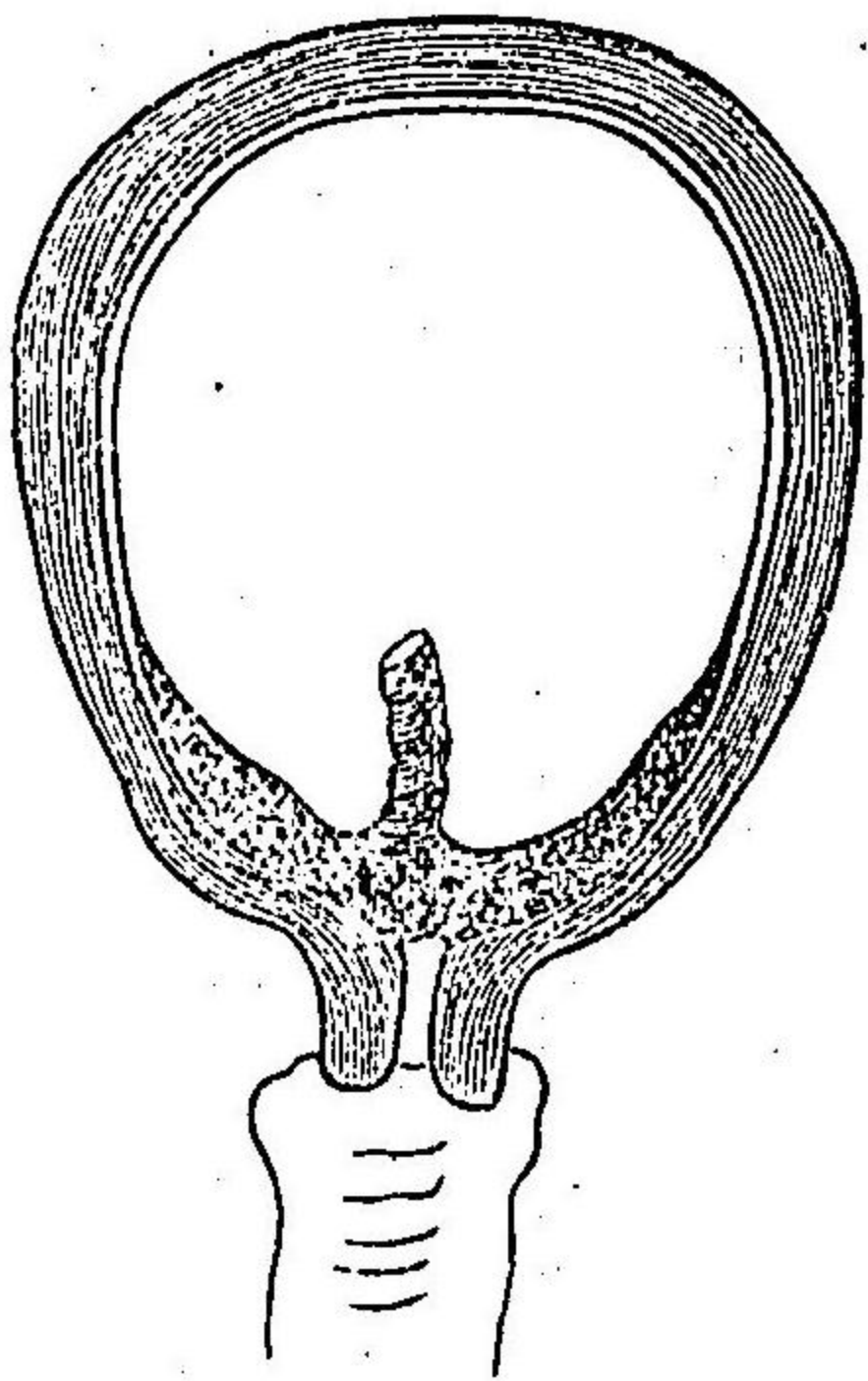
第一百五十六章 前置胎盤

「第六四三項」種類

前置胎盤トハ胎盤子宮壁ノ下部ニ附着セルモノニシテ

第三百二十三圖

全前置胎盤ノ圖

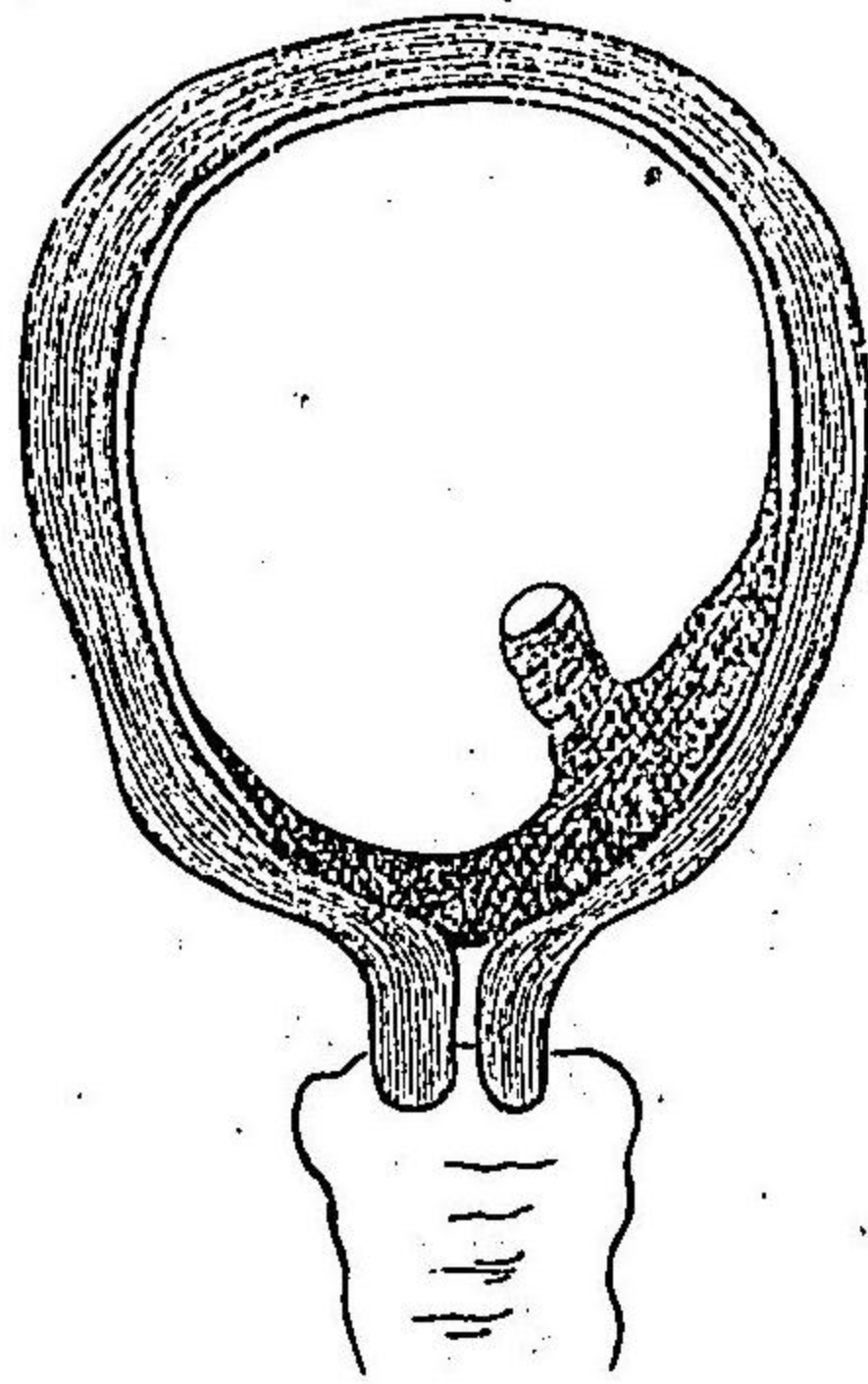


胎盤ノ中央ケ子宮内口ニ一致シ附着ス

之レヲ三種ニ區別ス可シ一ニ中央即チ全前置胎盤ニ邊緣

第三百二十四圖

邊緣前置胎盤ノ圖

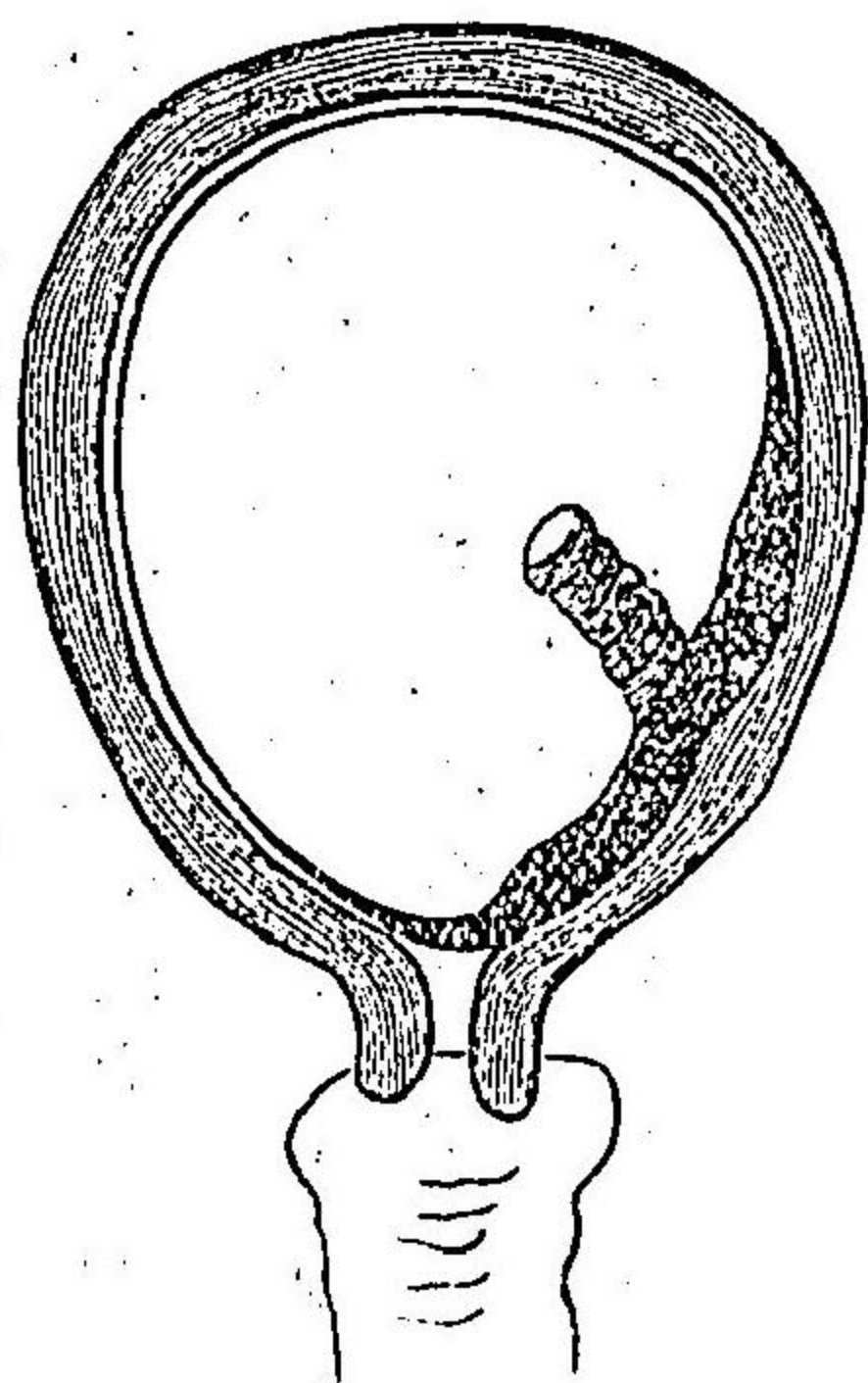


胎盤ノ邊緣子宮内口ヲ覆フ

前置胎盤三側前置胎盤是レナリ中央前置胎盤トハ胎盤ノ中央部全ク子宮内口ニ一致シ附着セルモノニシテ邊緣前置胎盤トハ胎盤ノ邊緣子宮内口ヲ覆フテ附着スル者側前置胎盤トハ胎盤子宮内口ノ側ニ位シ其下部ノ一緣子宮内口若クハ其近部ニ達ス

第三百二十五圖

側前置胎盤ノ圖



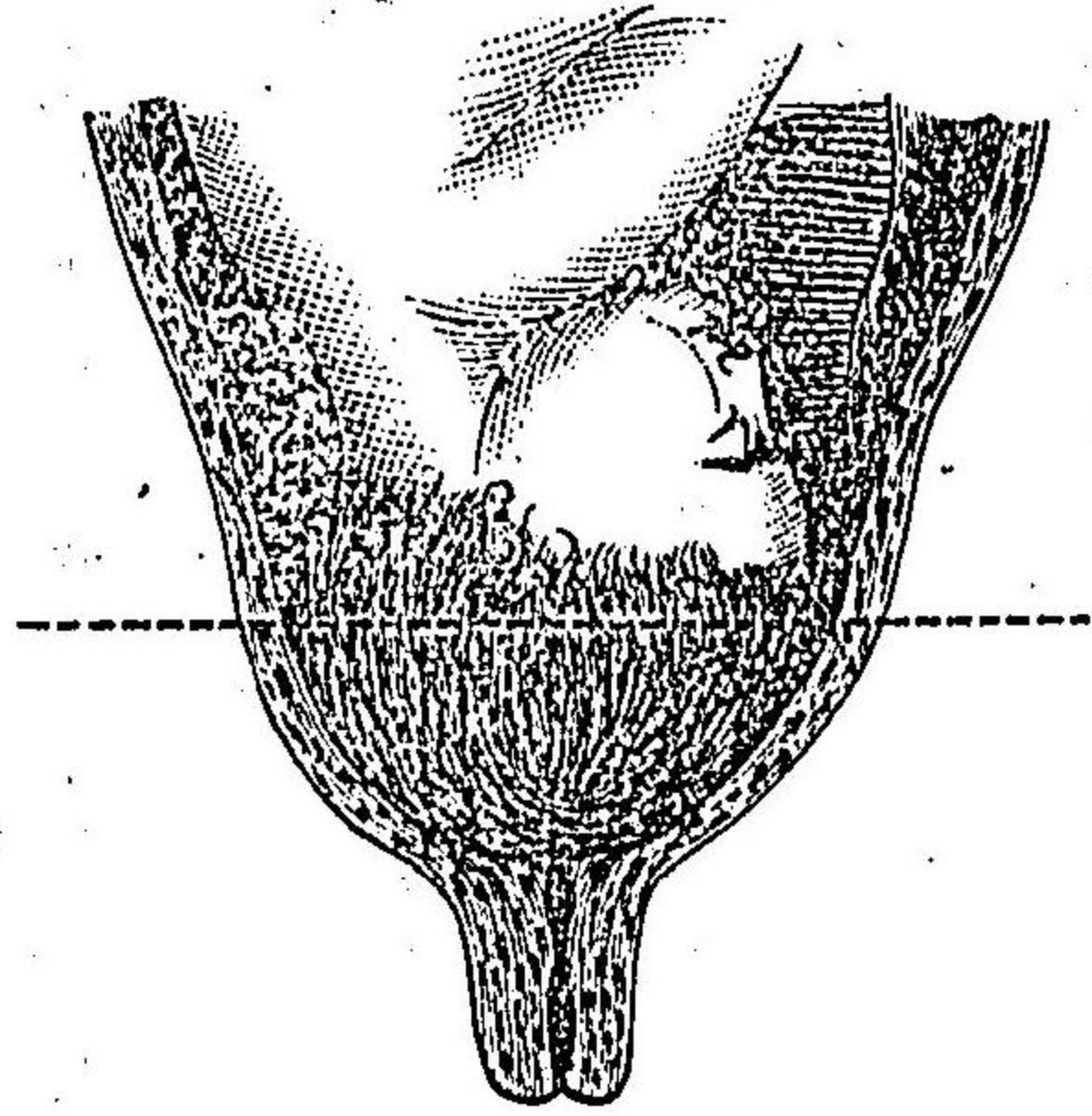
胎盤子宮内口ノ側ニ位シ其一緣子宮内口ニ達ス

ルモノヲ云フ。但シ、今此三種ニ區別スト雖ドモ、各種前置胎盤ノ間ニ種々ノ階級ヲ現ハシ、其症狀モ亦大同小異ナルモノアルヲ知ル可シ。

〔第六四四項〕子宮口ノ側部前置胎盤ヲ致スノ範圍

ハ、子宮内口ヨリ上方凡ソ六仙迷ニ、此部ニ於ケル子宮壁ノ周圍ハ、直徑十一仙迷ヲ有シ、所謂收縮輪ノ部位ニシテ、此部位ヨリ以上ハ、陣痛ニ

- 第 子宮下部
- 百 ノ、前置
- 二 胎盤ヲ形
- 十 成スル境
- 六 界ヲ示ス



胎盤ノ幾部分
ニテモ點線以
下ニ附着スル
トキハ即チ前
置胎盤トナス

ヨリ、子宮
壁ハ常ニ
收縮スト
雖ドモ、以
下、子宮下
部若クハ
子宮下節
部ト稱ス
ハ分娩ヲ

催スノ際、其横徑即チ子宮壁ノ周圍徑、縱徑共ニ延張作用ノミヲ營ムモノトス。故ニ胎盤ノ幾部分ト雖ドモ、此收縮輪以下ニ附着スルトキハ即チ前置胎盤ニシテ、妊娠ノ末期若クハ分娩ノ始メ、子宮下部ノ延張ヲ始ムルトキハ、胎盤ハ之レニ伴フテ延張スルヲナキガ故ニ、茲ニ剝離ヲ生ジ、出血ヲ呈スルモノトス。

〔第六四五項〕原因

ハ多ク子宮内膜炎ニヨルモノニシテ、短速ニ屢、妊娠スルモノニ發スルヲ多シトス。前置胎盤ハ、凡ソ千五百ノ分娩中ニ一回アリト云フ。

〔第六四六項〕症狀

一 前置胎盤ハ、分娩ニ際シ、夥シキ出血ヲ發スルガ故ニ、最モ危險ナルモノナリ。而シテ、其出血スル所以ハ、妊娠ノ末期二三ヶ月ニ至リ、卵ノ増大ニヨリ、子宮下部ハ強ク延張セラレ、ニ際シ、胎盤ハ獨リ延張スルヲナキガ故ニ、胎盤ノ一部ニ剝離ヲ生ジ、母體胎盤ノ血管口哆開シ、以テ此部ヨリ劇シク出血スルニヨルモノナリ。

二 全前置胎盤及ビ邊緣前置胎盤ノ出血

上文述ブルガ如

ク、妊娠ノ末期ニ至リ、他ニ原因ナク、不意ニ子宮出血ヲ發シ、時トシテハ安眠中ニ來ルコトアリ、而シテ數日若クハ數週ノ後チ、再ビ出血ヲ發シ、數回反覆シ、遂ニ分娩ノ期ニ達ス、分娩時ノ出血ハ、殊ニ強劇ニシテ、産婦ハ爲メニ往々絶脈シ、終ニ死ニ歸スルヲ屢之レアリ、胎盤ハ胎兒ノ産出ニ先ダテテ、一部、子宮内ヲ出デ、若クハ全部脱出スルヲアリ、就中、全前置胎盤ノ出血ハ、全ク分娩ヲ終ルニアラザレバ、閉止セザルモノナリ。

三、側前置胎盤　ハ全前置胎盤ノ如ク、妊娠中及ビ分娩ノ初メニ出血ヲ呈スト雖ドモ、幾何カ其量少ナク、且ツ胎胞ノ破開スルニ至レバ、兒體ノ壓迫ニヨリ、止血スルモノトス。

四、前置胎盤ノ診斷　妊娠中又ハ分娩ノ前期ニ於テ、靜脈結節、ボリ一ブ、癰腫等ノ存セザルニ當リ、異常ノ出血ヲ致スモノハ、胎盤ノ早期剝離若クハ前置胎盤ニ基クモノナリ、而シテ前置胎盤ニ在リテ特異ナルハ、其腔部甚ダシク柔軟ニシテ大ナルニ在リ、今、内検査ヲ施コスニ、腔部ハ軟カニシテ餅ノ如ク、且ツ、兒ノ先進部ト子宮下部ノ間ニ、胎盤ノ存スルガ爲メ

ニ、兒ノ先進部ヲ觸知スルヲ甚ダ不明ナリ、子宮口既ニ開大セルノ後チハ、指ヲ子宮口内ニ挿入シ、直チニ胎盤ノ不平面ヲ觸レ、若クハ側方ニ胎盤縁ヲ觸知ス可シ、但シ、胎盤ノ不平面ハ、時トシテ子宮口内ノ凝血ト誤認セラレ、トアリト雖ドモ、凝血ハ、甚ダシク軟カニシテ、容易ニ破碎シ得ルヲ以テ區別ス可シ。

〔第六四七項〕處置

前置胎盤處置ノ要領

凡ソ前置胎盤ハ、最モ危険ノ疾患ナルガ故ニ、産婆ハ前置胎盤ナルヲ診知セバ、速カニ醫師ヲ招カンヲ要ス、而シテ、既ニ出血ヲ現ハセル者ニアリテハ、冷石炭酸水ヲ取り、腔内ニ灌注シ、且ツ、消毒セル脱脂綿ヲ以テ腔内栓塞法ヲ行ヒ、患婦ヲ安靜ナラシメ、以テ醫師ノ來診ヲ待ツ可シ、此ノ如ク、腔内栓塞ヲ施コストキハ、壓迫ニヨリ止血セシメ、分娩時ニアリテハ、刺戟ニヨリ陣痛ヲ催進シ、子宮口ノ開大ヲ助クル者ナリ、若シ又、醫師ノ來診ヲ待ツ能ハザルノ際、子宮口開大シ、側前置胎盤ナルヲ知ラバ、人工胎胞破開法ヲ施スヲ良トス、或ハ邊緣前置胎盤又

ハ全前置胎盤ニシテ子宮口既ニ開大シ出血甚シク産婦危険ニ陥ラントセバ危急ノ際ハ嚴重ノ防腐法ニヨリ手ヲ子宮口内ニ送入シ卵膜若シクハ胎盤ヲ穿開シ内回轉術(第二章)ニヨリ兒ノ一足ヲ把リテ牽下シ稍強ク之レヲ牽引シ兒ノ大腿又ハ臀部ニヨリ剝離部ヲ壓迫セシメ以テ止血ヲ營マシム可シ而シテ其子宮口全ク開大セルモノニアリテハ兒足ヲ執リテ挽出法ヲ施コシ速カニ分娩ヲ終ラシメントラ要ス全ク分娩ヲ終ルトキハ自ラ止血スルヲ常トス貧血症ヲ來ストキハ飲料及ビ興奮藥ヲ與ヘ全身ヲ温暖ナラシムルガ如キ一般急性貧血ノ處置(第六七一項)ヲ行ヒ且ツ速カニ醫治ヲ求ム可シ——次ニ第六四八項乃至第六五三項ニ於テ稍詳細ニ説明ス可シ。

〔第六四八項〕醫師ノ未ダ到ラザル間ハ 安靜ニ臥セシメ、飲食便通ノ際ト雖ドモ必ズ起立セシムルコトナク寒冷ノ食物及ビ飲料ヲ與ヘ且ツ事物ノ感動ヲ避ケシム可シ出血既ニ閉止セルモノニ於テモ亦安靜ヲ命シ且ツ醫ノ診察ヲ乞ハントラ要ス是レ豫カジメ治療

ノ方法ヲ定ムルノ必要アルニヨルナリ凡ソ此症ノ妊婦ハ分娩ニ至ルマデ尙ホ久シキモノト雖ドモ其ノ間必ズ臥床ニ就カシム可キモノトス。

〔第六四九項〕出血閉止セズ且ツ陣痛ヲ現セルトキハ

胎盤ノ剝離ヲ大ナラシムルガ故ニ醫師若シ至ラザレバ産婆ハ(第五百十一章)子宮頸及ビ腔ノ裂傷ニ於ケルガ如ク腔内栓塞法ニヨリ之レガ治方ヲ施コサル可カラズ即チ其手ヲ防腐シ患婦ハ膝ヲ屈シテ仰臥セシメ腔内ニハ三%石炭酸水一〇〇〇〇ノ冷灌注法ヲ行ヒ長サ半迷的兒幅四指横徑ノ脱脂綿數片ヲ取り豫カジメ之レヲ轉振シテ斷裂シ難カラシメ五%ノ石炭酸水中ニ浸シテ絞搾シ之レヲ一盤中ニ容レテ陰部ノ直前ニ置キ産婆ハ一手ヲ以テ陰唇ヲ開キ他手ヲ以テ綿花ヲ腔内ニ送入シ固ク子宮口ヲ壓閉シ以テ緊密ニ腔内ヲ充填ス可シ此ノ如ク全ク腔内ヲ充填セバ兩足ヲ固ク收閉シ安靜ニ臥セシム。上法ノ如ク堅ク栓塞法ヲ施コサバ醫師ノ來ルニ至ルマデ之レヲ放置

シ、栓塞ノ爲メニ排尿ヲ妨グルモノハ、カテーテルヲ挿入ス可シ。○若シ長クタンポンヲ施セルノ後チ十二時間以上腔内ニ臭氣ヲ發スルニ至ラバ、注意シテ之レヲ除去シ、三%石炭酸水ヲ用キテ灌注ス可シ。而シテ子宮口稍開大スルヲ見ルト雖ドモ、子宮内口上ニ胎盤ノ粗糙面アルヲ觸知セバ、再ビ栓塞法ヲ行フノ準備ヲナス可シ。——若シ栓塞法ヲ行フモ、止血ノ目的ヲ達スルヲ能ハズ、且ツ危険アルトキハ胎胞破開法又卵膜穿刺法ト稱ス。第二九一項参照又ハ内回轉術ヲ施コサル可カラズ。

〔第六五〇項〕卵膜ヲ破開ス可キ場合 上法ノ如ク固ク栓塞

ヲ施コスト雖ドモ出血閉止セズ、且ツタンポンヲ除去スルノ際子宮内口上ニ卵膜ヲ觸知シ、側前置胎盤ナルヲ知ラバ、卵膜ヲ穿刺ス可シ。但シ、子宮口尙ホ手拳大ニ達セズ、且ツ陣痛強カラザルカ又ハ臍帶ノ脱出アルハ之ヲ穿刺ス可カラズ。而シテ卵膜ヲ穿刺スルニハ指尖ヲ用キテ足ルヲアリト雖ドモ、若シ能ハザルトキハ手指ニ沿フテカテーテルノ鐵線ヲ送入シ、陣痛ニ乗ジ、卵膜ヲ穿開ス可シ。此ノ如ク卵膜ヲ破ルトキ

ハ、幾何カ胎盤ノ剝離ヲ防止シ、且ツ、兒ノ體部ハ下降シテ出血部ヲ壓スルガ故ニ、止血セシム、唯、妄リニ穿刺法ヲ行ハザルヲ要ス。又、臀位若シクハ足位ナルトキハ、其一足ヲ執リ、外陰部ニ至ルマデ牽出ス可シ。此ノ如クナルトキハ、兒ノ臀部ハ強ク出血部ヲ壓抵スルガ故ニ、確實ニ止血スルヲ常トス。内回轉術ニ就テハ、第二百廿二章ヲ見ル可シ。——卵膜破開後ハ再ビ栓塞法ヲ行フ可カラズ。

〔第六五一項〕若シ醫師ノ直チニ來着ス可キトキハ 産

婆ハ、腔内灌注法ヲ施コシ栓塞法ヲ行ヒ、而シテ後チ回轉術ニ要スル臥床、温湯、冷水、其他各種ノ器具ヲ整ヒ、以テ之レヲ待ツ可シ。

〔第六五二項〕後産期ニ於テハ 胎盤ハ直チニ排出ス可シ。是レ、

其一部早く既ニ剝離セルニヨル。又、後産々出ノ前若クハ後ニ於テ、陣痛微弱ニヨリ甚ダシキ出血ヲ呈スルコトアリ。何トナレバ、胎盤ノ存セル子宮ノ下部ハ、上部ニ比スレバ、筋ノ收縮大ニ微弱ナルヲ以テナリ。——若シ胎盤産出ノ前ニ當リ、甚ダシキ出血ヲ發シ、而シテ醫師ノ未ダ到ラ

ザル者ニ在リテハ、手及ビ陰部ノ消毒ヲ行ヒ、手ヲ膈内ニ送入シ、胎盤ヲ全ク剝離シ、**第百六十二章**攝氏五十度ノ二%熱石炭酸水ヲ子宮内ニ灌注シ、出血ヲ止メシム可シ。

第六五三項貧血ノ療法 此症ニ於テハ、既ニ數回、多量ニ出血シ、大ニ貧血ニ陥ル可キヲ以テ、**第百六十四章**ニ述ブルガ如ク、適當ノ治法ヲ施コシ、十分ニ興奮劑ヲ與フルヲ要ス。

第百五十七章 後産期ノ出血

第六五四項後産期ノ出血 ハ極メテ危険ニシテ、屢産婦ヲ死ニ陥ラシムル者ナリ。故ニ此出血ノ處置ハ、産婆學上ニ於テ、消毒法ニ次ギテ最モ緊要ナルモノトス。此出血ニ二種ノ別アリ、一軟部産道ノ損傷ニヨルモノ、二陣痛微弱ニヨルモノ是レアリ。次ニ**第百五十八章**及ビ**第百五十九章**ニ於テ之レヲ各論ス可シ。

第百五十八章 軟部産道ノ損傷ニヨル後産期ノ出血

第六五五項軟部産道ノ損傷ニ因スル出血トハ、子宮頸、膈及ヒ外陰部ノ裂傷ニ於ケルモノヲ云フ。此等ノ諸症ハ、既ニ**第百五十一章**ニ説述セルヲ以テ、宜シク之レヲ參看ス可シ。

第百五十九章 陣痛微弱ニ因スル後産期ノ出血

第六五六項陣痛微弱ニ因スル後産期ノ出血ハ、最モ屢之レアルモノナリ。而シテ後産期ニ於ケル陣痛微弱ハ、胎盤産出前ナルトキハ、其産出大ニ遅延スルモノトス。此産出遅延ニ就キテハ、更ニ**第百六十二章**ニ説述セル所アリ。宜シク就テ之ヲ看ル可シ。

第六五七項原因 陣痛微弱ニヨリ、分娩遅延セルモノ、困難ナル分

異常分娩及ヒ其取扱法 軟部産道ノ損傷ニヨル後産期ノ出血、陣痛微弱ニ因スル後産期ノ出血

娩ニヨリ子宮ノ收縮力衰弱セルモノ、双胎、羊膜水腫等ニシテ子宮ノ過度ニ擴張セルモノ、胎盤ノ剝離セザルモノ、胎盤、卵膜ノ一部遺残セルニヨルモノ等是レナリ。詳細ハ尙ホ第百二十六章陣痛微弱ノ原因ニ就テ見ル可シ。

〔第六五八項〕症狀

陣痛微弱ニヨリテ出血スルトキハ子宮ハ柔軟ニシテ弛緩シ、其底、臍部ノ上方ニ位シ、甚ダシク弛緩セルモノニアリテハ、殆ント其ノ壁ヲ觸知シ得ザルコトアリ。陣痛ハ之レアリト雖ドモ、弱ク且ツ稀少ナリ。而シテ陣痛間時ニハ、血液子宮腔内ニ滯溜シ、陣痛發作スルカ、又ハ腹上ヨリ壓迫ヲ加フルトキハ、其血液大ニ流出スルヲ見ル可シ。而シテ出血ノ殊ニ甚ダシキハ、胎盤ノ一部既ニ剝離セルモノニ在リトス。胎盤ノ尙ホ子宮内ニ存スルトキハ、子宮ハ不等ノ圓形ヲナシ、一側ハ著シク膨大スルコトアリ。又後産ノ殘片、凝血等ニヨリ子宮口閉塞セルトキハ、血液僅カニ外部ニ流泄シ、若クハ全ク漏泄セズシテ、子宮内ニ滯溜シ、所謂内出血ヲナシ、子宮ハ急速ニ膨大シ、時トシテハ心窩ニ達スルコトアリ。此ノ

如キ場合ニ於テハ、之レヲ認知セザルコトアルニヨリテ、外出血ニ比スレバ大ニ危険ナリトス。

〔第六五九項〕處置

〔一〕此症ニヨリテ、血液夥シク流出スルヲ見バ、直チニ醫師ニ報ジ、且ツ胎盤ノ尙ホ子宮内ニ存セル者ニ在リテハ、第二篇第六十八章ニ記セルガ如ク、胎盤挽出法又ハ胎盤壓出法ヲ施コシ、而シテ尙ホ産出セズ、止ムヲ得ザル場合ニ於テハ、人工胎盤剝離法第百六十二章、第六六六項ヲ行ハンコトヲ要ス。

胎盤既ニ排出シ、而シテ尙ホ出血セルモノニ在リテハ、兩手ヲ用キテ臀部ヲ前方ニ引キ、兩陰唇ヲ閉合シ、壓抵巾ヲ外陰部ニ貼シ、固ク兩脚ヲ收閉セシメ、且ツ強ク腹上ヨリ子宮ヲ摩擦ス可シ。出血若シ持續セバ、此際、兩腿間ヨリ上方ニ現ハレ、床中ニ流下セザルモノナルガ故ニ、容易ニ之レヲ認メ得可シ。子宮既ニ硬固トナレルトキハ、止血ノ効ヲ全フセルモノナリ。○此ノ如ク處置スルモ、尙ホ止血セザルトキハ、子宮内灌注法ヲ施コサル可

カラズ

「二」子宮内灌注法 若シ前項ノ諸法ヲ施コスモ奏効ナク、出血強度ナルモノハ、子宮内灌注法ヲ行フ可シ。即チ三%石炭酸水ニ雪若クハ氷片ヲ加ヘテ寒冷ナラシムルカ、若クハ之レニ反シ、攝氏五十度ノ熱液トナシ、之レヲ子宮腔内ニ灌注センコトヲ要ス。五十度ノ熱度ハ、手ヲ挿入スルニ漸ヤク之レニ耐ヘ得ル者ナリ。灌注ノ際ハ、手ヲ消毒シ、其二指ヲ子宮頸管内ニ送り、之レニ沿フテ、藥液ヲ噴出セシメツ、イルリガートルノ嘴管ヲ子宮腔内ニ進ムルヲ要ス。若シ或ハ嘴管又ハゴム管中ニ空氣ヲ含ムトキハ、其空氣、子宮血管内ニ竄入スルノ恐アリ。又タ灌注ノ間ハ、腹上ヨリ子宮ヲ壓シ、以テ子宮ヲ過度ニ擴張セシムルノ害ヲ防止シ、且ツ患婦ノ脈搏、顔貌ニ注意ス可シ。

「三」子宮内、出血部壓抵法

上記ノ如ク、冷液若クハ熱液ヲ用キ、一回ノ灌注ヲ行フトキハ、多クハ止血スルモノナレドモ、若シ尙ホ効ナキモノニ在リテハ、防腐セル手ヲ子宮内ニ送り、胎盤附着部ノ粗糲面ヲ

探知シ、茲ニ手ヲ以テ、消毒セル布片ヲ壓抵シ、同時ニ外方ヨリ、此部ニ向フテ反對ノ壓力ヲ施コシ、壓迫ニヨリ、止血セシメンコトヲ試ムルモ亦可ナリ。

「四」内出血ノ治方

内出血ノ徴アルヲ見バ、子宮ヲ摩擦シ、且ツ壓迫ヲ行ヒ、以テ子宮口内ノ障害物ヲ排出センコトヲ務メ、若シ尙ホ能ハザルトキハ、規則的ニ消毒セル手ヲ子宮口内ニ送入シ、凝血若クハ卵膜片ヲ除去シ、而シテ後チ、以上記セル法則、子宮内灌注法又ハ子宮内出血部壓抵法ニヨリテ出血ヲ處置センコトヲ要ス。

「五」自餘ノ注意

多量ノ出血ニヨリ、急性貧血ヲ發セルモノハ、第百六十四章ニ論述セル處置ニヨリテ、其精力ヲ奮起セシムルヲ要ス。此後産期ノ出血アルノ際ハ、決シテ腔内栓塞法ヲ行フ可カラズ、是レ故サラニ内出血ヲ致サシムルノ恐アルニヨル。但シ醫師ニ在リテハ、沃度フォルムガーゼヲ用キ、子宮腔内栓塞法ヲ施コスコトアリ。又、子宮内灌注法ヲ施コサズシテ、單ニ下腹ニ氷罨法ヲ施コスガ如キハ、甚ダ不可ナリ。

以上記セル所ノ處置ニヨリテ、一タビ効ヲ奏シ、二三時間ヲ經レバ、再ビ後出血ヲ發スルガ如キハ極メテ稀レナルモノトス。

第一百六十章 胎盤産出ノ遅延

〔第六六〇項〕原因 胎盤産出ノ遅延ニハ種々ノ原因アリ、一子宮口ノ痙攣性收縮ニヨリ、二後産期ノ陣痛微弱ナルニヨリ、三胎盤ノ癒着ニヨリテ之レヲ發ス。

〔第六六一項〕處置 小兒ノ分娩後適當ノ處置ヲ施コスモ、二時間ヲ經テ、尙ホ胎盤ノ産出セザルトキハ、胎盤産出セズ直チニ出血スルモ亦同ジ其原因ノ何レナルヤヲ確メ、其狀況ヲ記シ、之レヲ醫師ニ報ジ、以テ來診ヲ請フ可シ。其間、場合ニ應ジ、産婆ハ必要ノ處置ヲ施コサル可カラズ、乃チ、次ノ第六六十一章乃至第六六十三章ニ於テ、各種ノ原因ニ就キ、其症狀及ビ處置ヲ細論ス可シ。

第一百六十一章 子宮頸ノ痙攣ニ因スル胎盤産出ノ遅延

〔第六六二項〕原因及ビ症狀 此症ハ、分娩中ニ於テ、既ニ子宮口ノ強硬第五六一項參照ヲ現ハセルモノニ多シ。

症狀ハ、子宮、善ク收縮スト雖ドモ、後産々出セズ、産婦多クハ甚ダシキ痙攣性ノ疼痛ヲ訴ヘ、出血ハ、缺如ス可シ、又、内検査ヲ施コスニ、子宮口ハ甚ダ狹窄シ、一指ヲモ通ズルヲ能ハザルモノトス。

〔第六六三項〕處置、一 速カニ醫ノ來診ヲ請ヒ、其間、子宮ヲ摩擦スルヲナク、産婦ヲ安靜ナラシメ、温暖ナル牛乳若クハ温湯ヲ與ヘ、出血ヲ呈スルモノハ、栓塞法ヲ行フ可シ、而シテ、子宮ノ弛緩ヲ致ストキハ、摩擦法ヲ施コサンコトヲ要ス、二、三十分間ヲ經レバ、少許ノ壓出ニヨリ、間々、後産ヲ排出セシメ得ルコトアリ。

二、甚ダシク出血スルトキハ、胎盤ノ剝離法ヲ行フ可シ、即チ

嚴重ノ防腐法ヲ行ヒ、概シテ第六六六項(人工胎盤剝離法)ニ記スル所ノ法ニヨリ、初メ、一二指ヲ子宮内ニ送り、次デ、徐々ニ全手ヲ挿入シ、胎盤ノ上縁ヨリ掌中ニ把握シ、其全部ヲ抽出ス可シ、後産ノ一部分ト雖ドモ、之レヲ遺存セシム可カラズ、否ラザレバ、甚ダシキ出血ヲ致ス者ナリ、後産全ク除去セルノ後ハ、三%石炭酸水ヲ以テ子宮腔内ニ灌注シ、若シ子宮弛緩シ出血スルノ恐アルトキハ、攝氏五十度ノ熱灌注法ヲ施コスヲ良トス。

第六六十二章

陣痛微弱ニシテ剝離セザルニヨル胎盤産出ノ遅延

第六六四項原因及ビ症状 ハ 第二百二十六章、陣痛微弱及ビ第百五十九章、陣痛微弱ニ因スル、後産期出血ノ條下ニ詳カナリ、就テ看ル可シ。

第六六五項處置

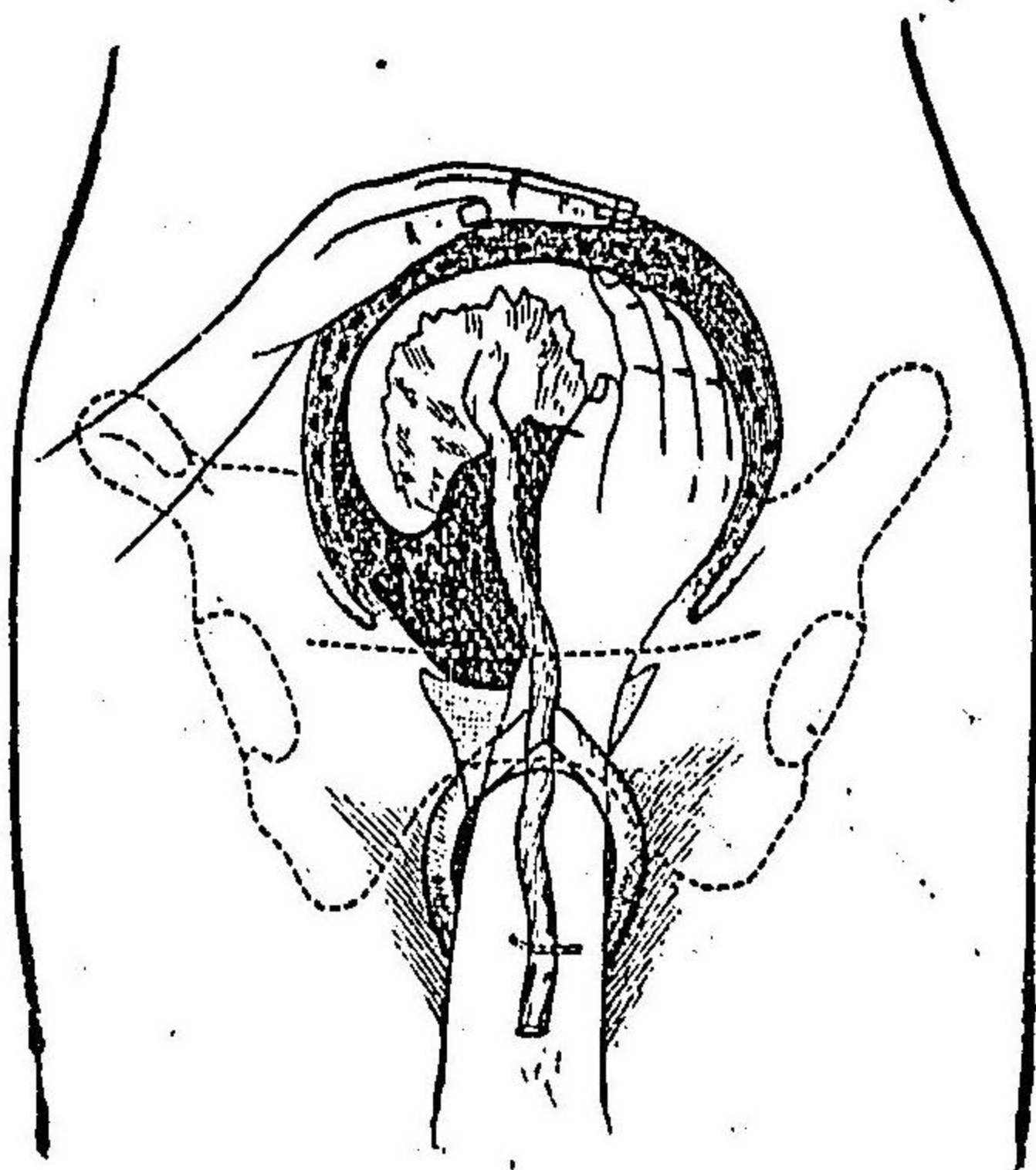
陣痛微弱ニシテ胎盤ノ産出セザルヲ見バ、先ヅ子宮ヲ摩擦シテ其收縮ヲ催進シ、且ツ、胎盤ノ壓出法第二篇第二九一項ヲ

行ヒ、數回反復シテ之レヲ施コスト雖ドモ、尙ホ胎盤ヲ排出セザルトキハ、消毒法ニヨリ、内検査ヲ試ム可シ、即チ、一手ヲ以テ適度ニ臍帶ヲ牽キテ緊張セシメ、臍帶ニ沿フテ、他手ヲ産道内ニ進ムルヲ要ス、果シテ陣痛微弱ニ因スル胎盤産出ノ遅延ナルトキハ、子宮口廣ク開キテ、胎盤ノ一部ハ、子宮口内ニ挺出セルヲ見ル可シ、此ノ如ク壓出法ヲ行フト雖ドモ、胎盤産出セズ、且ツ、強度ノ出血ニヨリ、産婦ハ、危篤ニ迫リ、到底醫師ノ來診ヲ待ツコト能ハザルトキハ、人工胎盤剝離法ヲ行ハザル可カラズ。

第六六六項人工胎盤剝離法

産婦ヲ仰臥セシメ、可及的其兩脚ヲ披開シ、外陰部及ビ手ヲ法ノ如ク消毒シ、三%石炭酸水ヲ以テ腔内灌注法ヲ施コシ、一手ヲ以テ臍帶ヲ適度ニ牽引シ、之レニ沿フテ他手ヲ送入シ、子宮口ヲ過ギテ、直チニ胎盤ノ附着部ニ達セシム、此際、外手ヲ子宮底部ニ移シ、内手ニ向テ壓迫スルヲ要ス、次デ、内手ノ四指ノ末端ヲ並列シ、胎盤ノ既ニ剝離セル部ニ就キ、注意シテ之レヲ剝離ス可シ、子宮壁ヲ損傷セザランガ爲メ、産婆ハ、豫ジメ其爪ヲ圓滑ナラシム可キヲ勿論ナリ、或ハ、指ノ

第二百七十七圖
人工胎盤剝離ノ法



剝離セル胎盤ハ之レヲ手掌内ニ受ケ之レヲ腔内ニ導キ出シ再ビ其手ヲ子宮腔内ニ進メ以テ胎盤卵膜ノ殘片遺存スルヲナキヤヲ檢ス可シ。此ノ法ニヨリ全ク後産ヲ除去シ終ラバ攝氏五十度ヲ有スル三%ノ石炭酸水ヲ子宮腔内ニ灌注シ且ツ外方ヨリ子宮摩擦法ヲ施コシ其收縮ヲ助

末端ヲ用キズ手ノ小指側ヲ以テ剝離ヲ行フトキハ最も可ナリ若シ胎盤ノ全部尙ホ附着セルモノニ在リテハ其上ノ邊緣ヨリ剝離スルヲ佳トス。此ノ如クニシテ

ク可シ剝離セル後産ハ之レヲ貯ヒ以テ醫師ノ検査ヲ請フ可シ。

第六十三章 胎盤ノ癒着ニ因スル胎盤産出ノ遅延

第六六七項「症狀」此症ハ陣痛微弱ニヨルモノニ比スルニ其數著シク稀ナリトス而シテ症狀ハ概テ陣痛微弱ニ於ケルモノト同一ナリト雖ドモ間々強度ノ陣痛ヲ現ハシ子宮ハ明カニ硬固トナレルモノアリ甚ダシキ癒着ニ在リテハ胎盤全ク子宮壁ニ癒着シ恰モ胎盤ノ存在セザルガ如キ狀況ヲ呈スルヲナキニアラズ而シテ出血ハ之レナキニアラザレドモ頗ル稀ナリ何トナレバ子宮ノ收縮多クハ強度ナルト胎盤ノ剝離ヲ現ハサルヲアルニヨル又胎盤ヲ剝離スルハ頗ル困難ニシテ其一部遺殘スルヲアリトス。

第六六八項「處置」ハ概シテ前章陣痛微弱ニ因レルモノト異ナルヲナシ但シ癒着甚ダシク且ツ出血著シカラザルモノハ醫師ノ來診ヲ待

タンコヲ要ス。

第百六十四章 急性貧血(血症)

第六六九項 急性貧血

分娩中種々ノ出血ニヨリ、多ク之レヲ發スルヲ以テ、茲ニ特ニ説述ス可シ。

第六七〇項 症狀

ハ顔面、口唇、蒼白トナリ、額部及ビ四肢ハ厥冷シ、脈細小ニシテ、其數百二十乃至百五六十搏ニ達ス。此ノ如キモノハ、頗ル危険ナリトス。又惡心、嘔吐ヲ發シ、耳鳴、眼火閃發、視力昏睡ヲ發シ、時トシテハ吃逆、欠伸スルモノアリ。此等ノ症狀ハ、腦ノ貧血ニヨリテ發スルモノトス。更ニ重症ナルハ甚ダシク渴ヲ訴ヘ、且ツ煩悶シ、頻リニ反側シ、床中ヨリ跳リ出デントスルニ至ル。此ノ如ク不安ナルモノハ、極メテ危険ノ徵ナリトス。爾後、全身ノ厥冷漸ク増進シ、顔面ニ冷汗ヲ流シ、脈搏消失シ、時トシテハ大聲ヲ發シテ呼ビ精神全ク昏睡シ、呼吸淺表トナリ、終ニ絶止ス。心動ハ呼吸ニ後レテ休止ス可シ、又將ニ死ニ陥ランノ際、痙攣ヲ發スルコトアリ。

但シ生來強壯ナル婦人ハ、大ニ出血ニ堪エ、且ツ速カニ回復シ得ルモノナリ。

第六七一項 處置

先ツ速カニ出血ノ原因ヲ處置シ、(外陰部壓抵法、腔内栓塞法、下腹ノ氷巻法等)而シテ後チ直チニ患婦ノ頭部ヲ低クシ、下體ヲ高カラシメ、身體ヲ暖カニ包被シ、且ツ腋、下四肢ニ温婆ヲ置キテ之レヲ温暖ナラシメ、強烈ノ酒類、温肉蒸汁、濃茄菲等ヲ與ヘ、頭部、胸部ニハ温婆法ヲ施コシ、且ツ務メテ葡萄酒、鷄卵、温肉蒸汁、砂糖湯等ヲ服用セシメ、體內水分ノ缺乏ヲ補フ可シ。——醫藥ニ於テハ、ホフマン液十五滴ヲ砂糖水若クハ冷水ニ和シテ每五分乃至十分時ニ服用セシメ、精神昏睡セルモノニハ、砂糖精ノ嗅引法ヲ行ヒ、額部ニハ香水又ハ酢ヲ塗布ス可シ。又夕、食鹽八〇、煮沸水若クハ蒸溜水一〇〇〇〇ノ溶液(生理的食鹽水)ヲ取り、體溫度ニ温メ、灌腸ヲ施コス可シ。其量ハ患婦ノ便意ヲ催サルヲ度トシ、可及的多量ナルヲ良トス。此液、血中ニ吸收セラル、トキハ、血量ノ亡失ヲ補ヒ、大ニ有効ナルモノトス。其他ノ處置ハ速カニ醫治ヲ請ハントコトヲ要ス。

○八%食鹽溶液　ハ、人體血液中ノ鹽類含量ト殆ンド同一ナルヲ以テ、毫モ組織ヲ刺激スルコトナシ、故ニ生理的食鹽水ト稱ス(或ハ〇、七乃至〇、九%食鹽溶液ヲ應用スルコトアリ)此ノ如ク食鹽溶液ハ、貧血ノ處置ニ必要アルヲ以テ、産婆ハ、他ノ藥品ト共ニ食鹽八、〇瓦ヲ携帯スルヲ便ナリトス。

第百六十五章 子痲

〔第六七二項〕子痲ハ、分娩又ハ妊娠若クハ産褥中ニ發スル痲攣症ニシテ、甚ダ痲痲ニ似タリ。而シテ、腎臟病ニヨリ、全身ニ水腫ヲ患ヒタル婦人ニ之レヲ發スルヲ常トス。時トシテハ、羊膜水腫ヲ兼スルコトアリ。此症ハ、五百回ノ分娩中凡ソ一回アリト云フ。且ツ、分娩中ニハ之レヲ發スルコト最モ多シトス。

〔第六七三項〕症狀　子痲ハ卒然トシテ發スルコト多シ。然レドモ亦、時トシテ、頭痛不快、惡心嘔吐等ノ前徵ヲ現ハスコトアリ。而シテ、既ニ發作

スルトキハ、眼直視、旋轉シ、口圍ニ攣縮ヲ現ハシ、以テ上肢軀幹、下肢ノ筋肉ニ痲攣ヲ及ボシ、項部多クハ強直シ、劇シク身體ヲ動搖シ、精神ハ常ニ昏睡ス。此ノ如ク痲攣ノ最モ強キ時期ニ至ルトキハ、呼吸ハ一時停止シ、顔面蒼白トナリ、口内ヨリ泡沫及ビ血液ヲ漏出ス。其血液ハ、頸ノ痲攣性運動ニヨリ舌ノ損傷ヲ致スニヨリテ、生ズルモノナリ。次デ、痲攣漸ク緩解シ、呼吸回復シ、軀體ヲ放チ、精神ハ暫時ノ後チ漸次ニ回復ス。但シ、發作間ノ事項ハ、毫モ記憶スルコトナキモノトス。而シテ、此發作ハ、多クハ陣痛時ニ現ハレ、一發作ノ時間ハ、十乃至六十秒ナリ。此ノ如クニシテ、數分若クハ一二時ノ後チ再ビ發作シ、發作ノ間短カキトキハ、精神全ク醒覺スルコトナク、發作全ク止ムト雖ドモ、尙ホ數日間精神朦朧トナルコトアリ。發作ノ回數ハ、甚ダ不定ニシテ、少ナキトキハ一回、多キハ五十回ニ至リ、分娩ヲ以テ止ムヲ常トス。然レドモ産褥中ニ至リ再發スルコトアリ、病勢ハ、發作ノ數ニ從フテ加ハリ、其強劇ナルモノハ、既ニ分娩中ニ死亡スレドモ産褥中ニ死スルヲ最モ多シトス。

分娩ハ、發作ニヨリテ障害セラル、コトナク却テ之レヲ催進ス可シ。就中、
妊娠中ニ發作セルモノト雖ドモ、爲メニ陣痛ヲ喚起シ、分娩ヲ催サシムル
コトアリ。

陣痛ハ、概シテ通常ト異ナルコトナシト雖ドモ、時トシテハ著シク強烈ト
ナリ、産出期ハ甚ダ短キモノナリ。

【第六七四項】豫後 子痲ハ危険ノ疾患ニシテ、産婦ノ死亡ハ、頗ル多
ク、小兒ノ死數ハ、更ニ多數ナリ、而シテ、小兒ノ死亡ハ、母體ノ呼吸不良ナル
ガ故ニ、窒息ヲ致スニヨル。又、母體ノ脈搏細小頻數ナルハ、甚ダ危険ナリ
トス。

【第六七五項】處置 一 上肢、顔面等ニ水腫ヲ患フルノ妊婦ハ、子痲ヲ

發スルノ恐アルガ故ニ、産婆ハ、此等ノ婦人ヲ見バ、速カニ醫師ノ許ニ送ル
可シ、一既ニ子痲ヲ發作セルカ若クハ、其前徵アルガ如キモノハ、直チニ醫
師ノ來診ヲ請ハンコトヲ要ス、而シテ、

【二】發作間 ハ頭部、四肢ヲ他物ニ衝突シ、又ハ、床上ヨリ墜落セシメザ

ランガ爲メニ、之レヲ支持ス可シ。但シ、強カヲ用キテ、其攣縮ヲ抑制セン
ヲ試ム可カラズ、而シテ、舌ノ損傷ヲ豫防センガ爲メニ、木箸又ハ小桿ニ布
片ヲ巻キ、之レヲ齒間ニ挿ムヲ良トス。

【三】發作後 ハ頭部ニ冷罨法ヲ施コシ、飲料ハ寒冷ナルモノヲ與ヘ、檢
査ハ妄リニ之レヲ行フ可カラズ。浮腫ノ甚ダシキトキハ、大ナル布片ヲ熱
水ニ浸シテ絞搾セルモノヲ取り、頸ヨリ膝部ニ至ルマデ之レヲ覆ヒ、且ツ、
温カニ包被シ、以テ發汗セシム可シ。

【四】小兒ノ娩出 ニ就テハ、頭蓋位ニシテ深ク骨盤内ニ下ルトキハ、
後會陰壓出法ヲ行ヒ、骨盤端位ニ於テハ、二時間以上ヲ經ルモ醫師ノ未ダ
至ラザルトキハ、娩出法ヲ施コス可シ。但シ、子宮口ノ開大セザルモノニハ、
固ヨリ之レヲ行フ可カラズ。

【五】後産期 ニ於テハ、甚ダシキ出血アルニアラザレバ、子宮ノ摩擦法
ヲ行フ可カラズ。又胎盤ハ、三十分時以上排出セザルトキハ、之レヲ壓出ス
ルヲ良トス。

第百六十六章 分娩中諸種ノ合併症

〔第六七六項〕嘔吐 産婦ハ屢嘔吐スルヲアレドモ其強劇ナラザルモノハ敢テ害ナキモノナリ而シテ嘔吐アルトキハ灌腸ヲ試ミ飲食物ハ暫時ノ間之レヲ禁ズ可シ嘔吐ノ稍強キモノハ速カニ醫治ヲ乞フ可シ。

〔第六七七項〕脱腸(又ハ内臓脱墜) 臍部鼠蹊部ニ之レヲ生ズ分娩ノ際腹壓ニヨリ著シク脱出シ遂ニ嵌頓ヲ來スリアリ嵌頓スレバ復納シ難ク劇痛嘔吐等ヲ來ス。脱腸アル婦人ニシテ分娩スルトキハ腹壓ヲ禁ジ脱出孔ヲ指ニテ緊シク壓閉ス可シ嵌頓ノ恐アルモノハ醫治ヲ要ス。

〔第六七八項〕直腸脱(脱肛) アルトキハ産婦ヲ側臥セシメ努責ヲ禁ジ二指ニ石炭酸油ヲ塗り徐々ニ之レヲ整復シ後チ綿花ヲ貼シテ壓抵ス可シ。

〔第六七九項〕呼吸困難 ハ心臟病肺病甲状腺腫脊椎ノ屈曲等アルトキニ之レヲ發ス此ノ如キ場合ニ於テハ上體ヲ高クシテ臥セシメ或ハ起坐ヲ命ジ室内ノ溫度ヲ適當ニシ且ツ空氣ノ流通ヲ佳良ナラシメ其他ハ速カニ醫治ヲ請フ可シ呼吸困難甚ダシキトキハ爲メニ死ヲ致スモノナリ。

第百六十七章 産婦ノ死亡

〔第六八〇項〕産婦死亡ノ原因 ハ急性貧血子宮破裂子痲急性傳染病心肺ノ重症疾患ニシテ稀ニハ子宮靜脈内ヨリ血管中ニ空氣ノ竄入スルニヨルコトアリ而シテ空氣ノ竄入ハ側臥ニ分娩スルカ子宮體低下シ吸引作用ヲ生ズ又ハイルリガートルノ管中ニ空氣ヲ含有セラルモノヲ用ユルトキハ之レヲ發スルコトアルモノナリ。

〔第六八一項〕産婦卒カニ死亡スト雖ドモ 健全ナル胎兒ハ尙ホ凡ソ五分間生存ス可シ故ニ此ノ如キ場合ニ於テ醫師ノ來ル

遅ク且ツ子宮口開大セルヲ見バ、回轉術又ハ足位挽出術ニヨリ、直チニ胎兒ヲ挽出セシメンヲ勉ム可シ。

第七篇 異常産褥及ビ其取扱法

第一百六十八章 誘導論

「第六八二項」此篇ニ於テハ、分娩ノ後チ、子宮、外陰部、乳房、下肢等ニ發スル變狀、通利ノ異常及ビ産褥性熱性病等ヲ説キ、次ニ初生兒ノ疾病モ亦此篇中ニ論述スベシ。

第一百六十九章 後陣痛ノ過劇

「第六八三項」原因 後産期ニ於テ、凝血、卵膜又ハ胎盤片ノ子宮内ニ遺殘スルニ基キ、若クハ、經産婦ニシテ分娩容易ク、分娩時ノ陣痛少ナキモノニ之レヲ發ス。

「第六八四項」徵候 十分乃至三十分時ヲ隔テ、後陣痛ヲ發シ、其疼痛ハ腹部ヨリ、陰部、大腿ニ波及シ、時トシテハ、強劇ニシテ睡眠ヲ營ミ得ザルヲアリ、此後陣痛過劇ハ多クハ二三日ニシテ止ムト雖ドモ、稀ニハ第五

日ニ達スルコトナキニアラズ。

〔第六八五項〕處置 先ヅ胎盤片、凝血等ノ遺存セルヲナキヤヲ檢シ、若シ之レアラバ速カニ醫治ヲ求ム可シ。單純ノ後陣痛過劇ニ在リテハ、小兒ニ哺乳セシムルハ、乳房ノ刺激ヲ子宮ニ反射シ、其收縮ヲ促ガシ疼痛増加スト雖ドモ、全ク授乳ヲ廢セシム可カラズ。其甚ダシキモノハ、下腹ニ水囊ヲ置キ、第四日ニ至レバ、冷水罌法ニ交換シ、温暖トナルニ至ラバ、之レヲ廢止ス可シ。又、兼テ、加密列花ヲ茶劑トナシテ煎出シ、之レヲ服用セシムルトキハ、神經機能ヲ鎮靜シ、疼痛ヲ緩和スルノ効アリ。若シ疼痛甚ダシク睡眠ヲ妨グルカ、又ハ熱ヲ發セルモノニ在リテハ、速カニ醫治ヲ請ハシム可シ。

第七十章 子宮ノ回復不全

〔第六八六項〕原因 多産婦ニシテ、双胎、早産或ハ重症ノ出血アルモノ、殊ニ小兒ニ授乳セザル場合、又ハ必要ノ安靜ヲ缺キ、過早ニ起床シ、或ハ

運動ヲナスモノ、其他便秘ノ持續セルモノ及ビ胎盤片ノ遺殘セルモノ等ニ發ス。

〔第六八七項〕症狀 子宮底ハ異常ノ高所ニ止マリ、其壁柔軟ニシテ弛緩シ、惡露ハ其量多クシテ、第二週ニ至ルモ尚ホ血液ヲ交へ、時トシテハ純血ヲ下スコトアリ。

〔第六八八項〕處置 ハ、安靜ニ就床セシメ、且ツ醫治ヲ求ム可シ。

第七十一章 子宮ノ位置變常

〔第六八九項〕子宮後屈 妊娠前已ニ後屈ヲ患ヒタルモノハ、分娩後、三四週ニ至レバ再發スルヲ常トス。又、其他ノモノト雖ドモ、子宮ノ回復不全アルニ當リ、攝生不良ニシテ、過早ノ體動ヲナスガ如キ場合ニ於テ、此症ヲ發スルヲアリ。而シテ之レヲ發スルトキハ、下腹ノ牽引痛便秘ヲ發シ、尿利少量頻數等ノ症狀ヲ呈ス。褥婦、上記ノ症狀ヲ發スルトキハ、双合検査法ニヨリテ、子宮ノ位置ヲ檢シ、且ツ醫治ヲ請フ可シ。

〔第六九〇項〕子宮脱 ハ早期ニ起床シ、體動努力ヲ營ム等ニヨリテ發スルモノナリ。處置ハ速カニ醫師ニ委ヌルヲ要ス。

第一百七十二章 悪露ノ障害及ビ糜爛

〔第六九一項〕悪露夥シク血液ヲ混シ、又ハ久シク血液ヲ混ズルモノ 最初一二日間、悪露ニ夥シク血液ヲ混ズルトキハ、子宮ニ摩擦法ヲ施コシ、其收縮ヲ喚起シ、且ツ下腹ニ氷嚢ヲ貼シ、速カニ醫治ヲ請フ可シ。若シ又、悪露中ニ血液ヲ交ヘ、二週ノ久シキニ亙ルトキハ、褥婦ヲシテ、臥床ヲ離レシムルコトナク、醫師ノ診察ヲ求ムルヲ要ス。

〔第六九二項〕悪露ノ過早閉止 悪露速カニ渴止スト雖ドモ、褥婦ノ快安ヲ感ズルモノハ、毫モ害アルモノニアラズ。然レドモ若シ、悪露ノ漏泄早ク止ミ、下腹ニ疼痛ヲ訴ヘ、熱ヲ發シ、且ツ口渴アルモノハ、産褥性熱症ヲ發セルノ疑アルヲ以テ、速カニ醫ノ診察ヲ受ケシムルヲ要ス。

〔第六九三項〕悪露ノ臭氣アルモノ 産褥ノ第三四日ニシテ、悪

露ニ臭氣ヲ發スル者稀ナラズ。而シテ、此際、三十八度以上ノ熱ヲ發セバ、速カニ醫師ノ診察ヲ請ヒ、其命ニヨリ、腔内洗滌ヲ施ス可シ。而シテ、之レニ使用セルイルリガートルノ、嘴管及ビ護尿管ハ、石鹼及ビ刷毛ヲ用キ、注意シテ洗滌シ、後チ五分間以上、二十倍石炭酸水中ニ浸漬消毒スルニアラザレバ、之レヲ他ニ使用ス可カラズ。若シ或ハ、一器ヲ特別ニ之レニ供用セバ、最モ佳ナリ。又、イルリガートルモ同様ノ消毒法ヲ行ヒ、手モ亦、規則ニヨリテ消毒センコトヲ要ス。

〔第六九四項〕陰唇、大腿ノ糜爛 悪露ノ濕潤ニヨリ、陰唇、大腿等ニ糜爛ヲ呈スルトキハ、石炭酸水ヲ以テ洗滌シ、石炭酸油ヲ綿花ニ蘸シテ貼用シ、若クハ沃度フォルムヲ撒布ス可シ。治癒シ難キモノハ、醫療ヲ受ケシムルヲ要ス。

第一百七十三章 陰唇及ビ會陰部ノ腫脹

〔第六九五項〕陰唇及ビ會陰部ノ腫脹 時トシテハ、分娩時ニ於

ケル腔若クハ外陰部ノ挫傷ニヨリ會陰及ビ陰唇ニ腫脹ヲ生ジ皮膚緊張シ光澤ヲ呈シ浮腫狀ヲナスコトアリ此ノ如ク水腫様ヲナセル腫脹ハ久シカラズシテ消散スルモノナリ。

〔第六九六項〕處置 一日二回二%微温石炭酸水ヲ以テ陰唇ノ内面に灌注ヲ施コシ且ツ其液ヲ浸セル瓦設片ヲ貼用セシム可シ。

第一百七十四章 便通ノ異常

〔第六九七項〕便秘 褥婦ハ分娩後數日ノ間便秘スルヲ常トス然レドモ時トシテハ已ニ分娩前ヨリ糞便腸内ニ停滞シ産褥中ニ至リ甚ダシキ便秘ヲ現ハシ腹部膨滿疼痛ヲ發シ且ツ少シク體温上昇シ恰モ産褥熱ノ初期ニ於ケルガ如キ狀況ヲ呈スルコトアリ時トシテハ硬便腸内ニ滯積シテ通利セズ其刺激ニヨリ腸加答兒ヲ發シ頻回少量ノ水様粘液ノミヲ漏泄スルコトモ亦之レアリ。

便秘アラバ直チニ醫治ヲ請ハザル可カラズ。

第六九八項 下痢 産褥中ノ下痢ハ異常ニ屬ス若シ之レヲ現ハスコトアラバ速カニ醫療ヲ仰グ可シ。

第一百七十五章 排尿ノ障害

〔第六九九項〕尿閉 ハ困難ナル分娩ノ際尿道膀胱ノ挫傷又ハ尿道ノ屈曲ヲ致スニヨリ若クハ腹内壓ノ減少仰臥位ノ排尿ニ習慣セザル等ニヨリテ之レヲ現ハス。

處置 ハ便器ヲ温暖ナラシメ且ツ下腹ニ温罨法ヲ施コシ排尿ヲ試マシメ若シ尙ホ能ハザルトキハカテーテルヲ用ユ可シ而シテ其更ニ困難ナルモノハ醫治ヲ請フ可シ。

第七〇〇項 不隨意ノ利尿 ハ膀胱頸ノ收縮力微弱ナルニヨリ發スルモノニシテ絶エズ少量ノ尿ヲ泄ラスモノナリ之レヲ放置スルモ自然ニ治スルヲ常トス但シ一二回カテーテルヲ使用シ刺戟ヲ與フルト

キハ大ニ治シ易キモノトス。外陰部ハ屢洗滌シ大ニ清潔ナラシムルヲ要ス。

第七〇一項尿管ノ持續性漏泄即チ尿瘻 ハ甚ダ緊要ナルモノナリ。此症ハ膀胱又ハ尿道ト腔若クハ子宮トノ間ニ瘻孔ヲ生ジ是レヨリ絶エズ尿管ノ漏泄スル疾患ニシテ其瘻孔ノ所在ニヨリ膀胱子宮瘻膀胱瘻尿道瘻等ノ別アリ就中膀胱瘻ヲ最モ多數ナリトス。之レヲ發スルノ原因ハ狹窄骨盤過大ナル胎兒等ニ於ケル過度ナル壓迫ニ因スル組織ノ壞死ニシテ産褥ノ始メ二三日間ハ尿閉若クハ排尿時ノ緊痛ヲ現ハシ後チ壞死セル組織ノ破壞シテ孔穴ヲ作ルニ及ビ尿管ハ絶エス腔内ニ向テ流出シ自ラ尿道ヨリ排泄スルヲ能ザルモノナリ尿管ヲ生ズレバ尿管ノ刺激ニヨリ陰部ニ糜爛ヲ來シ且ツ甚ダシキ臭氣ヲ發ス可シ。

處置 醫ノ診察ヲ請ヒ産褥中ハ大ニ外陰部ヲ清潔ナラシムルヲ要ス。産褥ヲ經過セバ醫治ニヨリ瘻孔ノ縫合術ヲ施ユス可キモノトス。

第七〇二項膀胱加答兒 通常不潔ノカテラテラ使用スル

ニヨリテ發ス。其症狀ハ尿利頻數恥骨縫際上部ノ疼痛排尿時ノ劇痛等ニシテ尿管ハ初メ雲片狀物ヲ混ジ後チ膿様ニ混濁ス可シ強劇ナルモノハ尿管利ノ終リ血液ヲ漏ラスニ至ルモノトス。

處置 ハ安靜ニシテ無刺激性ノ食餌ヲ與ヘ酸味強キモノ辛辣ナルモノ又ハ亞爾簡兒性ノ飲料等ノ如キ刺激アルモノヲ禁忌シ膀胱部ニ濕布巻法ヲ施コシ他ハ醫治ヲ請フ可シ。

第一百七十六章 下肢靜脈ノ血塞

第七〇三項下肢靜脈ノ血塞 ハ骨盤内靜脈ノ血塞ニ繼發シ若クハ運動ヲ營マザルニ因テ稀レニ之ヲ發スルモノニシテ主トシテ下肢内側ノ靜脈ニ現ハル。症狀ハ疼痛麻痺浮腫等トナス而シテ産褥第一週以後ニ發シ多クハ數日ニシテ消退ス可シ然レドモ稀レニハ其血塞片破解シテ血液中ニ混ジ大靜脈ヨリ心臟ヲ經更ニ肺動脈ニ入り其分枝ニ達シ茲ニ閉塞ヲ生ズルアリ之レヲ肺動脈ノ血栓ト云フ甚ダ恐ル可キ

疾患ナリ。此血栓ヲ生ズルトキハ、肺ノ血行障害セラレ、瓦斯ノ交換不良トナリ。患者ハ遽カニ、呼吸困難ニ陥リ、甚ダシキ苦悶ヲ訴エ、精神昏瞶シ、遂ニ死ニ歸スルヲアリ。

〔第七〇四項〕處置 時トシテハ、血栓ヲ生ズルノ危険アルガ爲メニ、極メテ安臥セシメ、速カニ醫治ニ託ス可シ。

第四百七十七章 乳汁分泌ノ異常

〔第七〇五項〕乳汁過泄及ビ乳汁漏 乳汁過泄トハ乳汁多量ニ分泌シ、絶エズ流出スルノ症ヲ云ヒ、乳汁漏トハ授乳ヲ廢セシ後、多量ナル稀薄ノ乳汁、久シク分泌スルモノヲ云フ。

以上ノ二症ハ、共ニ其婦人ヲシテ、甚ダ衰弱ニ陥ラシム可シ。即チ患婦ハ、慢性貧血ヲ致シ、顔貌蒼白、身體羸瘦、劇甚ノ腰痛、食思缺損、足脚振顫、視力衰弱等ヲ現ハス。處置ハ、小兒ニ授乳スルヲナク、乳房ニ繃帶ヲ施コシ、滋養物ヲ與ヘ、便通ヲ佳良ナラシメ、他ハ醫治ヲ求ム可シ。

第四百七十八章 乳頭ノ損傷

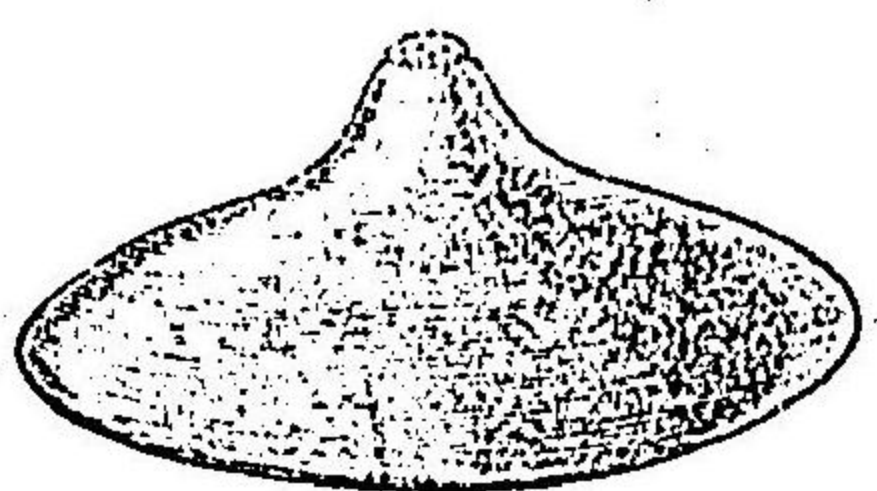
〔第七〇六項〕原因 乳頭ノ損傷ハ、皮膚薄弱ナル都會若クハ上流ノ婦人ニ發スルコト多ク、殊ニ初産婦ニ著シトス。田舎ノ婦人ノ如キハ、粗糲ナル衣服ヲ用キ、乳頭ヲシテ其摩擦ニ慣レシメ、皮膚ヲ強固ナラシムルガ故ニ、損傷ヲ發スルヲ少ナシ、又、乳頭ヲ不潔ニシ、表皮ヲ濕潤、脆弱ナラシムルカ、又ハ、不規則ニ授乳シ、乳頭ヲ刺激スルコト甚ダシキニヨリテ、此症ヲ致ス可シ。

〔第七〇七項〕症狀 小兒ノ吸啜ニヨリ、皮膚薄弱ナル部ニ之レヲ發

スル者ニシテ、初メ多クハ水泡ヲ作り、次デ破開シ、糜爛面トナリ、龜裂狀ヲナシ、授乳ノ際劇シキ疼痛ヲ感ジ、時トシテハ、出血シ、小兒ハ之レヲ吸取シ、血樣液ヲ吐出シ、若クハ黒褐色ノ便ヲ出スヲアリ。○此損傷部ニ、微菌附著シ、繁殖スレバ潰瘍トナリ、甚ダシキハ乳腺炎ヲ致スヲアリ。

〔第七〇八項〕處置 ハ豫防法トシテ、先ヅ第二篇妊婦ノ攝生法及ビ

第四百二十八圖
乳頭帽子ノ圖



第四篇 婦科ノ看護法中(第二二)項及ビ第
四一六項ニ記セル處置ヲ施コスヲ要ス。殊
ニ哺乳ノ時間ヲ定メ、妄リニ屢、授乳ス可カ
ラズ、而シテ、少シク乳頭ニ灼痛ヲ發スルニ
至ラバ、授乳後、冷水ヲ以テ洗滌シ、硼酸軟膏
若クハ阿列布油ヲ塗布シ、授乳ノ前ニ至リ
之レヲ洗ヒ去ル可シ。水ヲ以テ審法ヲ施コスハ不可ナリ。却テ表皮ヲ柔軟
ニシ、損傷シ易カラシムルノ害アリ。又、既ニ損傷ヲ發スト雖ドモ、可及的、
授乳ヲ廢スルコトナク、醫治ヲ乞ヒ、耐忍シテ哺乳セシムルヲ良トス。或ハ乳
頭帽子ヲ試用ス可シ。然レドモ、此器ヲ用ユルトキハ、小兒之レヲ吸啜スル
コト難ク、甚ダシキ耐忍ヲ要シ、若クハ全ク小兒ヲシテ慣レシムルコト能
ハザルコトアリ。○若シ、又、到底治癒セザルカ、或ハ其損傷ニヨリ、乳腺炎ヲ誘
起セントスルニ至ラバ、速カニ授乳ヲ廢シ、醫治ヲ請ハザル可カラズ。

第四百七十九章 乳腺炎

第七〇九項原因 此症ハ、微菌ノ、乳腺中ニ竄入シ繁殖スルニヨリ
生ズルモノニシテ、其微菌ハ、小兒ノ口ヨリ傳ヘ、或ハ褥婦自身若クハ産婆
ノ手ヲ經、惡露ヨリ乳房ニ傳フルコトアリ。而シテ、乳房ニ於テハ、或ハ乳頭ノ
損傷ヨリ、腺間ノ結締織ニ傳ハリ、或ハ輸乳管ヲ經テ、此ニ達ス可シ。而シテ、
輸乳管ノ閉塞アルトキハ、微菌閉塞セル輸乳管ノ内容物中ニ繁殖シ、漸次
ニ深部ニ進入スルガ故ニ、甚ダ乳腺炎ヲ發シ易キ者ナリ。殊ニ、屢、刺激ヲ加
フルノ際ヲ然リトス。

第七一〇項症狀 二乃至六週ニシテ之レヲ發シ、惡寒發熱シ、甚ダ
シク疼痛ヲ感ジ、觸診スルニ、硬固ノ疼痛アル結節ヲ觸知ス可シ。又、腋下ノ
水脈腺ニ腫脹ヲ發シ、同側ノ上肢ヲ運動セシメ難キニ至ルコトアリ。此ノ
如ク、腫脹、疼痛、發熱ヲ現ハシ、二三日ニシテ消退スルコトナケレバ、化膿ニ陷
リ、終ニ破開スルニ至ル化膿ニヨリテ、多クノ腺胞ヲ荒蕪スルニ至レバ、全

ク乳汁ヲ分泌スルヲ能ハザルコトアリ。
 「第七一 一項」處置 乳腺炎ヲ發スルノ恐アルモノハ、第四一八項ニ記セル豫防法ヲ行ヒ、乳房ヲ清潔ニシ、不潔ノ手、又ハ物品ヲ觸レシムルコトナク、乳頭ニ損傷アラバ、直チニ適當ノ治法ヲ施コス可シ。既ニ炎症ヲ發スレバ、小兒ニ吸吮セシムルヲナク、乳房ヲ綑帶ニテ舉上シ、冷罌法ヲ行ヒ、便通ヲ佳良ナラシム可シ。間々、其化膿ヲ防止シ得ルコトアリ。其他ハ、速カニ醫治ヲ求ムルヲ要ス。

第百八十章 産褥性熱性病

「第七一二項」産褥性熱性病ノ病理 産褥中ノ熱性病ハ、分娩後、一乃至數日ニ發スル疾病ニシテ、其輕重甚ダ種々アリト雖モ、産婆學ニ於テハ、之ヲ二種ニ區別スルヲ佳トス。一、創傷熱(吸收熱)ニ、産褥熱是レナリ。創傷熱ハ、子害頸、腔内、又ハ外陰部ニ新鮮ナル創傷ノ存セルニ當リ、産道内ニ於テ、腐敗微菌等ニヨリ生ゼル分解産物ヲ、其創傷面ヨリ、吸

收シ、血中ニ達セシメ、以テ熱候ヲ現ハス者ナリ。産褥熱トハ、微菌創傷面ニ附着シテ、繁殖シ、更ニ深く組織中ニ侵入シ、或ハ子宮内膜、或ハ子宮實質、或ハ扁韌帶、或ハ子宮外膜、或ハ全腹膜、或ハ淋巴管、血管等ニ炎症(炎症トハ、略シテ之ヲ云ヘバ、化膿ノ前期ニシテ、尙ホ膿汁ヲ生ズルニ至ラズ。赤色ニシテ腫脹シ、熱候及ビ疼痛ノ四徴ヲ呈スルモノヲ云フ)若クハ化膿ヲ發シ、其毒質、大ニ血中ニ混ジ、危險ノ熱症ヲ現ハスモノナリ。但シ醫家ニ於テハ、此産褥熱中、更ニ種々ニ區別シ、本來ノ産褥熱ト他病トニ分ツト雖ドモ、産婆學ニ於テハ、此區別ヲ設ク可キモノニアラズ。

「第七一三項」産褥性熱性病ノ原因 ハ固ヨリ、毒性アル微菌ニ基クモノニシテ、其微菌ハ、間々、器械、器具、諸種ノ布巾等ノ中ニ存シ、此等ノ諸物、陰部ノ創傷ニ觸ル、ノ際微菌ハ、茲ニ附着シ、漸次ニ繁殖シ、遂ニ、各種ノ病變ヲ生ズ。又、微菌ハ、上記ノ諸物ニ附着シテ、産道内ニ達スルノ外、時トシテハ、豫ジメ産道内ニ存ス(内診、交接、又ハタンポン等ニ由テ送入セラル)ルガ故ニ、創傷ノ生ズルニ及ビ、盛ニ其部ニ繁殖ヲ營ミ、以テ同ジク熱症

ヲ發スルコトアリ。此ノ如ク、微菌ヲ他物ヨリ傳フルヲ單ニ傳染ト云ヒ豫
 ジメ自體中ニ存セル微菌ニヨルモノヲ自己傳染ト稱ス。消毒法若クハ防
 腐法ハ、此二種ノ傳染ヲ防止スル最要ノ方法ナリトス。尙ホ第二篇第三十
 五章ヲ參看ス可シ。但シ健康ナル腔内ニ於テハ、其分泌物殺菌性ヲ有スル
 ガ故ニ、微菌(淋毒微菌ヲ除ク)腔内ニ入り、二十四時間以上ヲ經過スルトキ
 ハ、既ニ生活繁殖ノ力ヲ失ヒ、傳染症ヲ發起シ能ハザルヲ常トス。是レ健康
 ナル妊婦ハ、必ズシモ腔内ノ洗滌消毒ヲ必要トセザル所以ナリ。
 ●次ノ第百八十一章及ビ第百八十二章ニ於テ、創傷熱及ビ産褥熱ノ徵候、
 處置等ヲ記述ス可シ。

第百八十一章 創傷熱(吸收熱)

「第七一四項」創傷熱ハ、分娩後、二三日間ニ現ハレ、同時ニ乳汁ノ
 分泌ヲ現ハスガ故ニ、昔時ハ、誤テ專ラ之レヲ乳熱ト名ケタリ。尙ホ第四
 篇第九十四章ヲ參看ス可シ。●原因ハ、第百八十章ニ記述セリ。

「第七一五項」徵候

産褥ノ第二日若クハ第三日ニシテ現ハレ、時
 トシテハ、輕度ノ惡寒ト伴フテ發熱シ、而シテ、其熱度、多クハ低クシト雖
 ドモ、稀ニハ三十九度以上ニ達シ、脈搏ハ、通例、百以下トナス。腹部、柔軟ニ
 シテ、子宮及ビ子宮ノ兩側即チ扁韌帶ノ部位ニ疼痛ヲ呈セズ(但シ子宮
 ハ、疾病ニアラズシテ、陣痛ノ勞作ニヨリ、通例、一、二日間、腰痛ヲ現ハスト
 アリ)、外陰部ヲ檢スルニ、其損傷ハ、間々、黃色ノ被覆物ヲ被ムリ、惡露モ亦
 腥臭氣ヲ呈スルヲアリ。婦人ノ全身狀態ハ、通例、佳良ニシテ、食餌減ズル
 コトナク、唯タ渴ヲ訴フルノミ、此症ハ、多クハ二三日ニシテ消散ス可
 シ。

「第七一六項」處置

此症ハ、危險ナキヲ常トスレドモ、尙ホ産婆ハ、
 必ラズ醫師ノ診察ヲ求ムルヲ要ス。何トナレバ、重症ナル産褥熱モ、此ノ
 如キ徵候ヲ以テ發スルヲアルニヨル、而シテ、醫師ノ命ニヨリ、腔内、外陰
 部ノ洗滌ヲ行ヒ、之レヲ終レルノ後ハ、其手及ビ器具ハ、嚴ニ消毒法ヲ施
 コス可シ。

第百八十二章 産褥熱

第七一七項原因

ハ既ニ第百八十章ニ論說セリ。

第七一八項徵候

多クハ産褥ノ第二三日(時トシテハ第一日)ニ於テ惡寒戰慄ヲ伴ヒ若シクハ之レヲ伴ハズシテ發熱シ其熱度三十九度乃至四十度ヲ昇降シ頭痛口渴食欲減損身體倦怠等ノ熱性症狀ヲ發ス(若シ初メニ體温高カラズシテ脈搏甚ダ頻數ナルモノハ最モ危險ノ恐アリ)而シテ通例初メニ現ハルモノハ傳染性子宮内膜炎ニシテ敢テ下腹ニ疼痛ヲ現ハサルモ次デ子宮實質扁韌帶等ニ炎症ヲ傳フルニ至レバ子宮部若シクハ其側部ヲ壓スルニ疼痛ヲ現ハシ多クハ瓦斯腸内ニ滯積シテ腹部鼓脹ヲ致ス既ニシテ其炎症腹膜ニ蔓延スルトキ(腹膜炎)ハ腹痛鼓脹便秘嘔吐腹膜炎ノ徵候ノ症狀著シク間々膽汁ヲ吐出ス惡露ハ減少シ乳汁ノ分泌尿量モ亦少ナク重症ナルハ第一週ノ終リ若シクハ第二週ノ始メニ於テ心臟麻痺ヲ以テ死ニ陥ルコトアリ屢惡寒戰慄ヲ發スルモノニア

リテハ恰モ間歇熱ノ如ク時トシテ其發作一日數回ニ至ルコトナキニアラズ。

此等ノ炎症ニヨリ骨盤内(デトグラス氏窩扁韌帶内等)ニ化膿ヲ生ズルトキハ時ヲ經テ腔内腸管内等ニ破開シ治療ヲ催進スルコトアリ其他心臟肺臟等ノ諸臓器ニ炎症ヲ續發スルコトナキニアラズ然ルトキハ大ニ危險ノ度ヲ加フルモノトス。以上ノ他會陰ノ裂傷ヨリ丹毒ヲ發シ本病ヲ致スコトモ亦之レアリ。

第七一九項處置

産褥熱ヲ發スルノ徵アルヲ見バ速カニ醫治ヲ求ム可シ而シテ腹痛アルトキハ下腹ニ氷嚢ヲ貼スルヲ要ス便秘アリト雖ドモ醫師ノ命ニアラザレバ下劑若シクハ灌腸ヲ用ユ可カラズ。其ノ後チ産婆ノ産褥熱患者ヲ處置ス可キヤ否ヤハ醫師ノ命令ニ從フ可キモノトス。

産婆産褥熱患者ヲ處置スルノ際若シ看護婦アルトキハ之レニ腔其他ノ洗滌ヲ行ハシムルヲ佳トス自己ノ手ヲ不潔ナラシメザルノ益アリ。若シ

又、自ラ洗滌ヲ施コスノ場合ニ於テハ、洗滌ノ後、手ノ消毒ハ、單ニ温湯、石礮ヲ以テ洗滌スルノミナルハ不可ナリ。即チ五%石炭酸水ヲ用キ、三分間以上、充分ニ其手ヲ消毒シ、必ラズ一タビ、全身浴ヲ行ヒ、新タニ洗滌ヲ經タル衣服ヲ着スルヲ要ス。此ノ如クナラザレバ、決シテ他ノ妊婦、産婦若シクハ産褥婦ノ検査ヲ施コス可カラズ。又、産褥熱患者ニ觸レタル衣服ハ必ラズ煮沸洗濯シ、若シクハ蒸氣消毒法ヲ施コス可シ。獨乙國ノ如キニ在リテハ、産婆、産褥熱ヲ發セシムルトキハ、五日間、其業ヲ停止シ、其間、十分ノ消毒ヲ施行スルヲ規則トナス。

第百八十三章 初生兒ノ疾患

〔第七二〇項〕初生兒ノ定義 從來、我國ニ於テ、初生兒トハ、生産後幾日ノ間、其名稱ヲ用ユ可キカ、未ダ確乎タル規定アルヲナシ、是レ洵ニ産科學上ノ缺典ト云フ可シ。蓋シ初生兒ノ主要ナル特徴ハ、産瘤ノ存スルヲ、胎尿ヲ排泄スルヲ、臍帶斷端ヲ有スルヲ是レナリ。就中、臍帶ノ斷

端ハ最モ長ク存在スル者ニシテ、多クハ五六日ヲ以テ脫離スト雖ドモ亦十一二日ニシテ、始メテ脫落スルモノ決シテ稀レナリトセズ、而シテ斷端脫落セルノ後チ、其痕跡ノ糜爛面、全ク治癒スルニハ、尙ホ一二日間、即チ生産後、大凡ソ十三四日ヲ費ヤサザル可カラズ。故ニ普通ノ最長期限ヲ取り、生産後二週日ノ間、初生兒ト稱スルヲ以テ適當ナリトス。

〔第七二二項〕初生兒ノ疾患ハ、分娩時ノ障害ニヨルモノアリ。先天性ニ出ヅルモノアリ、看護ノ不良ナルニ基ヅクモノアリ、或ハ傳染病毒ノ感染ニヨリテ發スルモノアリ、而シテ、皆ナ娩出後、二三週間内ニ發現シ、産婆ノ注意ヲ怠ル可カラザルモノナリ。此諸種ノ疾患ハ、之レヲ以下、第百八十四章乃至第二百〇三章ノ各章ニ於テ説述ス可シ。

第百八十四章 初生兒ノ假死

〔第七二二項〕定義 假死トハ、小兒、産出スト雖ドモ呼吸ヲ發セズ、且ツ自ラ肢體ヲ運動スルコトナク、僅カニ幽微ナル心音ヲ聽取ス可キモノ

ヲ云フ。心動全ク靜止スルトキハ之レヲ眞死トナス。

第七二三項原因 小兒母體中ニ在リテ、酸素ヲ攝取シ、炭酸ヲ排泄スルノ作用障礙セラレ、ニヨルコ最モ多シ、即チ産出期ノ延長、臍帶壓迫、胎盤ノ早期剝離等是レナリ。其他、頭蓋ノ壓迫ヲ受クルカ、若クハ小兒ノ失血ヲ致スニヨリテ發ス。

第七二四項一胎兒假死ニ陷ラントスルノ徵候 心臟音

ハ、陣痛休歇間ト雖ドモ甚ダシク緩慢トナリ、後チ終ニ疾數トナル。又、胎兒ハ、胎尿ヲ漏ラシ、羊水ヲ黒色ニ混濁セシム。但シ、骨盤端位ニ在リテハ、胎尿ヲ出ダスモ、假死ノ徵トナス可カラス。又、既ニ母體中ニ在リテ、呼吸運動ヲ營ムガ故ニ、其口鼻ノ壓閉セラレザルモノハ、血液、又ハ羊水等ヲ氣道内ニ吸入ス可シ。此呼吸運動ハ、骨盤端位挽出術ヲ施コスノ際、之レヲ認メ得ルコアリ。若シ臍帶脫アルトキハ、陣痛休歇時ト雖ドモ、胎兒假死セルノ際ニハ、其搏動ノ消失スルヲ觸知ス可シ。

二假死セル初生兒ノ徵候 假死ノ輕度ナルモノハ、顔面青赤色

ヲ呈シテ腫起シ、臍帶ハ甚ダシク緊張シ、時トシテハ、尙ホ僅カニ搏動ヲ呈シ、四肢ハ全ク弛緩スルニ至ラズ、一重症ナルモノニ在リテハ、顔面蒼白色ニシテ瘦削シ、四肢ハ柔軟ニシテ、弛緩シ、全身ノ皮膚モ亦蒼白トナリ、口及ビ肛門ハ哆開シ、臍帶ハ萎縮ス可シ。

第七二五項處置第一假死ノ輕度ナルモノハ 先ヅ小指

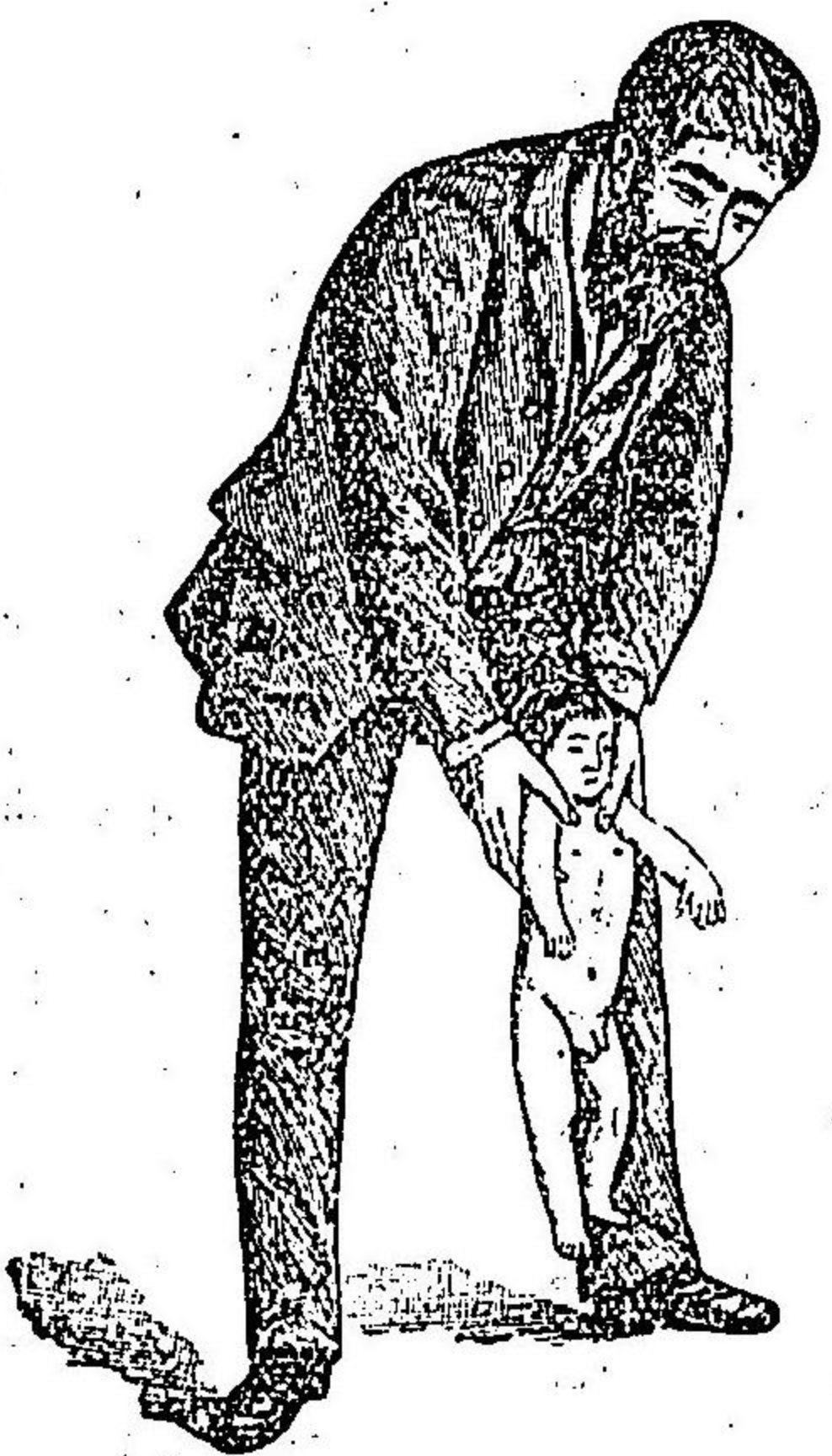
ニ布片ヲ捲キ、若シクハ之レヲ捲クコトナクシテ、直チニ兒ノ口内ニ挿入シ、咽喉及ビ口腔内ニ存スル粘液ヲ除去シ、數回、輕ク臀部若クハ心下ヲ撲ツヲ以テ足レリトナス。

第二此ノ如クスルモ呼吸セザルモノハ 小兒ヲ仰臥ノ位置ニ置キ、胸部以下ニ冷水ヲ灌ギ、一手ヲ兒背ノ下ニ送り、他手ヲ胸上ニ抵テ、壓迫ヲ施コシ、人工的ニ呼吸ヲ營マシム可シ。

第三前條ノ處置ヲナスモ、尙ホ蘇生セザルトキハ 速カニ臍帶ヲ結紮切離シ、温湯中ニ入レ、布片ヲ以テ皮膚ヲ摩擦シ、且ツ胸背部ニ冷水ヲ灌ダ可シ。

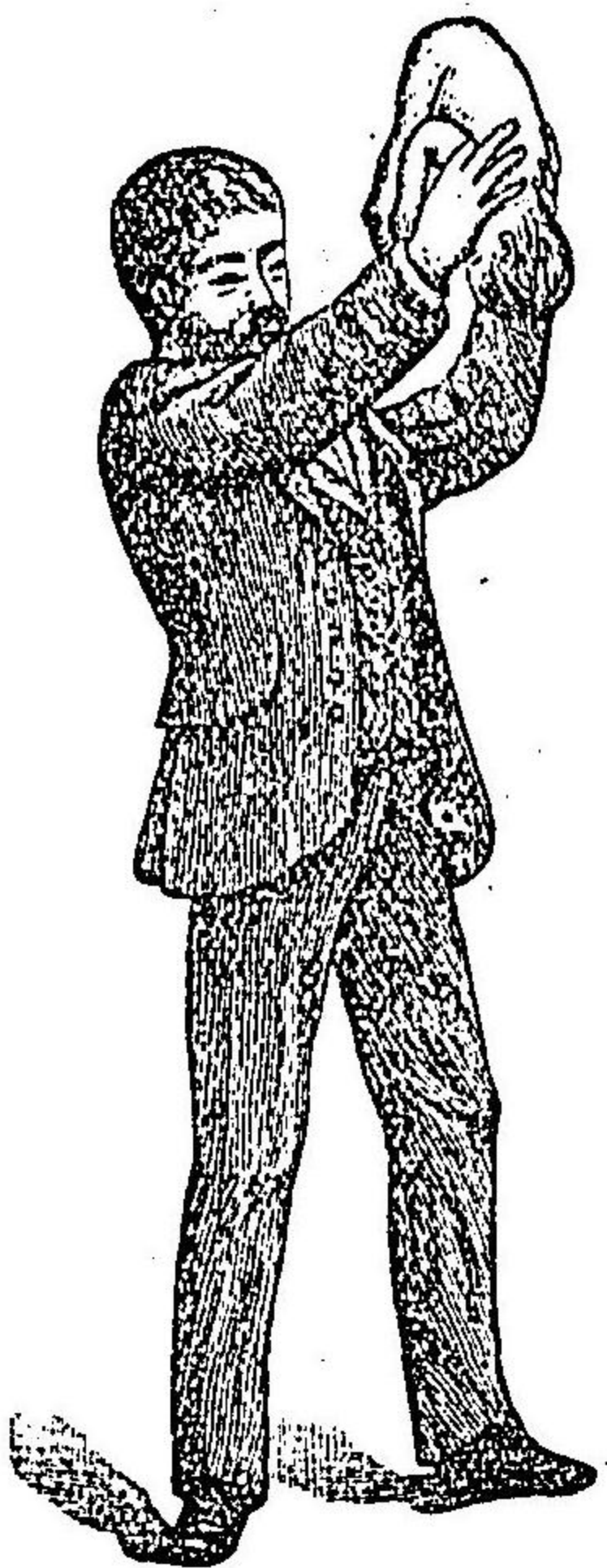
〔第四〕以上ノ如クスルモ、呼吸ヲ營マザルモノハ、振搖法
 (シュルツェー氏振搖法)ヲ行フ可シ。此際、彈力性カテールヲ以テ、喉内ノ粘液
 ヲ吸出スルヲ緊要ナリトス。振搖法ハ、之レヲ次ニ詳述ス可シ。○但シ、假死
 ノ稍重症ナルモノハ、直チニ、速カニ醫師ノ來診ヲ求ム可キモノトス。
 シュルツェー氏ノ振搖法 此法ヲ行フニハ、術者ハ、兩脚ヲ開キテ立
 チ、兒體ヲ前方ニ向ケテ、兩手ニ兒ノ兩肩ヲ握リ、之レヲ懸垂シ、(第百二十九
 圖)次デ、一タビ高ク之レヲ舉上シテ、自己ノ頭部ノ高サニ達シ、小兒ヲ倒マ

第百二十九圖
 工人呼吸法(氏振搖法)
 一ツル(甲)



最初兒體ヲ把握シテ懸垂スルヲ示ス但シ次圖ノ如ク舉上スルノ後チ再ヒ振下シテ本圖ノ如クナラシメ反復シテ之レヲ行フモノナリ

第三百十圖
 工人呼吸法(同上)



ナラシメ(第百三十圖)而シテ後チ、之レヲ下方ニ振下シ、自己ノ足部ニ致シ、兒體ヲ再ビ懸垂スルニ至ル。此振搖法ヲ行フノ速度ハ、三十秒時ニ凡ソ七回ナル可ク、而シテ之レヲ行フコト、凡ソ十回ナルトキハ、必ズ小兒ヲ温浴中ニ入レ、而シテ、尙ホ不十分ナルヲ見バ、再ビ此法ヲ行ヒ、數回、反覆ス可シ。此法ニヨリ、式ノ如ク兒體ヲ舉上スレバ、呼吸ヲナシ、次ニ之レヲ下方ニ振下スレバ、呼吸ヲ致スモノナリ。

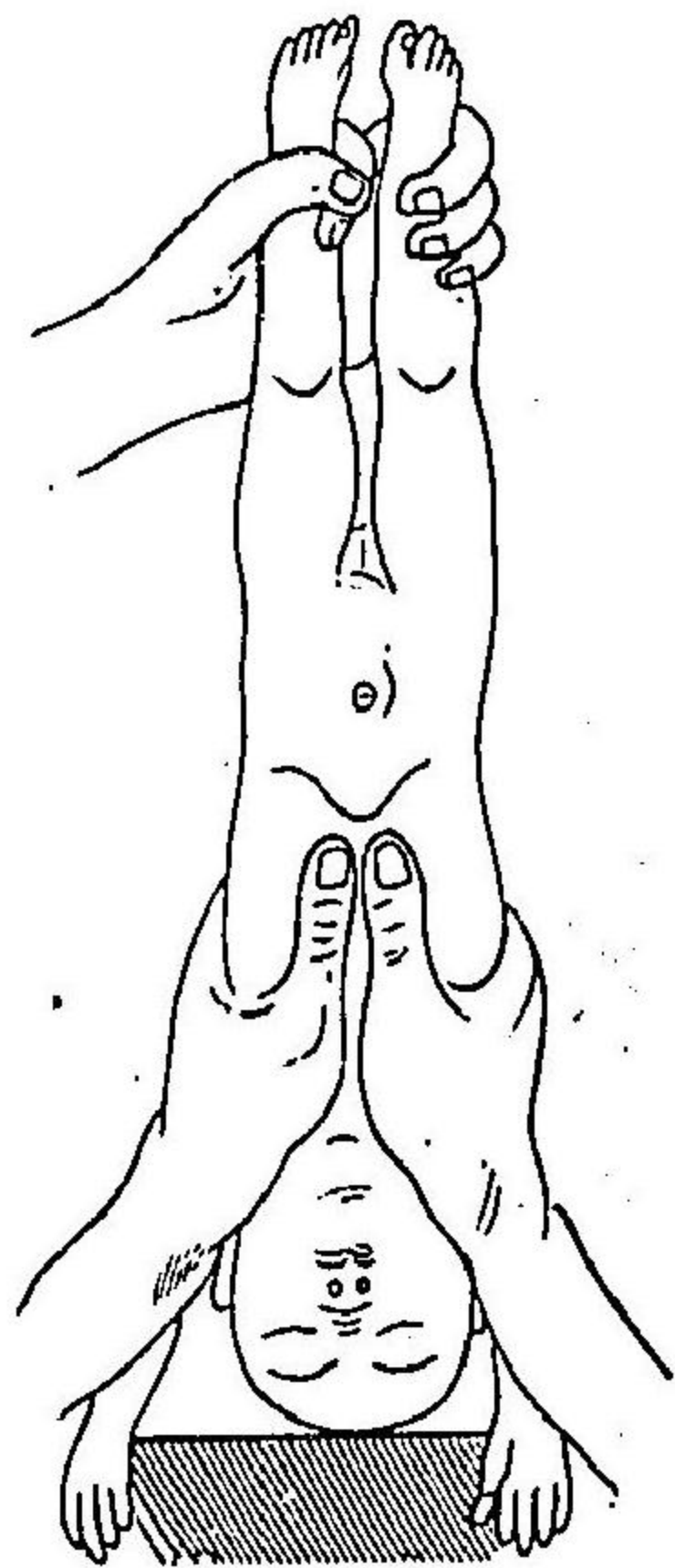
以上ノ諸法ヲ施コスノ外、場合ニヨリ、或ハ羽毛ノ類ヲ以テ

鼻内ヲ刺激シ、或ハ舌ヲ撮持シテ、數回牽引ヲ試ミ、或ハ足ヲ執リテ、兒體ヲ牽下シ、人工呼吸ヲロヒョーニツク氏人工呼吸法ヲ試マシムルガ如キ、臨機適應ノ處置ヲ施スヲ要ス。

プロヒョーニツク氏人工呼吸法 此法ハ、第三百三十一圖及第三百三十二圖ニ示スガ如ク、兒足ヲ執リテ、倒マニ懸垂シ、一手又ハ兩手兩手ナルトキハ、他人ヲ以テ、兒足ヲ執ラシムルヲ要スヲ以テ、兒ノ胸部ヲ握リ、一タビ壓縮シ、一タビ之レヲ緩メ、反復シ以テ呼吸運動ヲ營マシムルモノトス、之レヲ行フノ間、小兒ヲ屢温湯中ニ浴セシム可シ。此法ハ甚ダ簡

第三百一十一圖

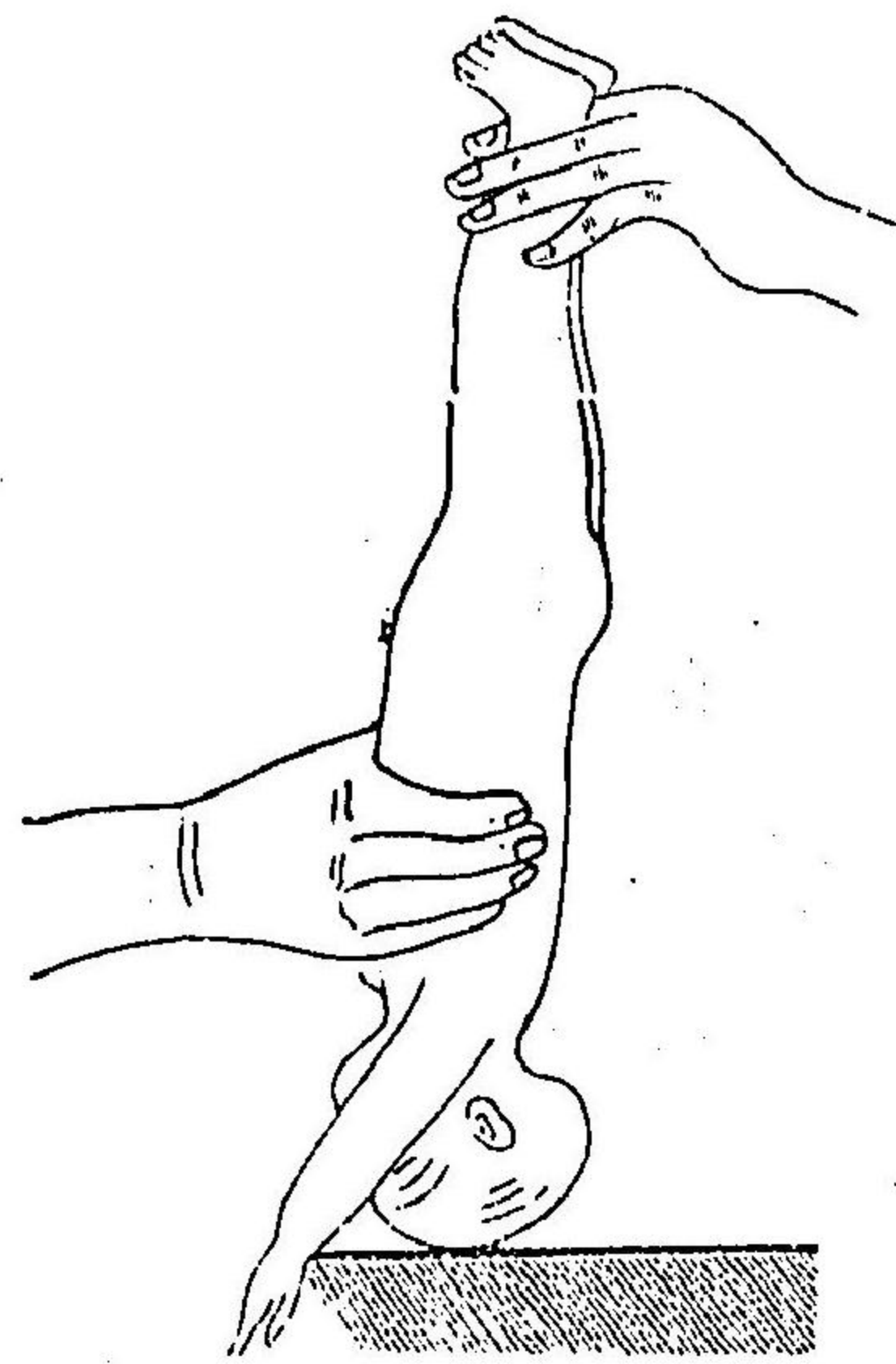
兒體ヲ倒懸スル人工呼吸法ノ圖(ロヒョーニツク氏人工呼吸法)



兩手ヲ以テ胸部ヲ把握スルモノヲ示ス

第三百二十三圖

前圖ニ同ジ



一手ヲ以テ胸部ヲ把握スルヲ示ス

單ナルモノニシテ、時トシテハ、臍帶ヲ切離セズト雖ドモ、尙ホ能ク之レヲ行フコトヲ得可ク、氣道内ノ異物ハ自ラ流下シテ、口外ニ出デ、且ツ、臍内ニ多量ノ血液ヲ送り、大ニ回生シ易カラシムルノ理アリ、此故ニ、中等度ノ假死ニ在リテハ、時ニ之レヲ試ムルヲ良トス。

臍帶ヲ切離スルノ際 其臍帶青色ニシテ、腫起シ、血液充盈セルモノハ、切離スルノ際、小兒ノ臍帶斷端ヨリ、一二食匙(十五乃至三十瓦)ノ血液

ヲ漏出セシメ、然ル後結紮スルヲ良トス。

第七二六項 小兒回生ノ徵候 小兒回生スルトキハ蒼白若クハ青赤ナル顔色消退シ四肢漸次ニ緊張ヲ生ジ口邊ニ弱キ揺動ヲ現ハシ眼ヲ開キ四肢ヲ動搖シ初メハ不正ノ呼吸ヲ發シ遂ニ啼泣スルニ至ルモノナリ。以上回生ノ徵ヲ現ハサバ温浴ニ入ラシメ回生スルコト微弱ナルトキハ注意シテ尙ホ人工呼吸法ヲ反復シ高聲ヲ發シテ泣キ活潑ニ呼吸スルニ至ル可シ。

第七二七項 回生ノ困難ナル場合 ニシテ以上記セル所ノ處置ニヨリ稍久シク人工呼吸法(主トシテ振搖法)ヲ施コスニ當リ効ナシト雖ドモ遽カニ之レヲ廢棄スルコトナク善ク喉内ノ粘液ヲ去リ屢温浴ニ入レ兒體ヲ温カナラシメ各種ノ人工呼吸法及ビ諸種ノ方法ヲ施用ス可シ。間々一時間以上ヲ費ヤシ始メテ回生ノ効ヲ收ムルコトアリ而シテ若シ効ナキトキハ心動ノ全ク靜止スルヲ確メ始メテ之レヲ止ム可シ但シ尙ホ温暖ニ包被シ之レヲ安置スルヲ法トス極メテ稀レニハ人工呼吸法ヲ

施コシテ効ナシトナセル小兒ノ回生スルコトアリ。

第百八十五章 分娩時ニ生ゼル兒頭ノ變狀

第七二八項 產瘤(頭瘤) ハ分娩ノ際頭部顔面唇部等ノ一部子宮口内ニ括約セラル、ニヨリテ生ジ頗ル腫脹シ時トシテハ甚ダシク青赤色ヲ呈ス此變狀ハ組織中ニ血漿浸潤シ且ツ鬱血ヲナスニ基クモノナリ此產瘤ハ通例一二日ニシテ消散スルヲ常トスレドモ時トシテハ數日ヲ經テ消失セズ或ハ却テ増大スルコトアリ此ノ如キモノハ速カニ醫治ニ託スルヲ要ス。

第七二九項 頭蓋血腫 分娩時ノ壓迫ニヨリ頭蓋骨ノ骨膜下ニ血管ノ破綻ヲ生ジ血液ヲ溢出セシムルガ爲メニ生ズルモノニシテ顛頂骨若クハ後頭骨上ニ生ジ縫合又ハ額門ヲ越エテ他骨ニ蔓延スルコトナシ其色ハ通常ノ皮膚ト異ナルコトナク波動ヲ呈ス。丁寧ニ之レヲ被覆シ保護スルトキハ數日ニシテ吸收セラレ消失ニ歸ス可シ但シ其症ノ輕

重ヲ區別シ易カラザルヲ以テ、初メヨリ、醫ノ診察ヲ求ムルヲ要ス。

〔第七三〇項〕頭部ノ變形 第三篇第五十九章第二七〇項ニ記セ
ルガ如ク、後頭位ニ於テハ、兒頭後方ニ延張シ、前顛頂位ニ在リテハ、兒頭ノ
前後徑、短縮シ、顔面位ナルトキハ、其顔、縱横ニ壓縮セラレ、醜形ヲ現ハシ、其
他ノ難産ニ在リテハ、種々ノ不正形ヲ呈ス。而シテ、甚ダシキモノニ至リテ
ハ、頭蓋骨ノ凹陷、骨傷ヲ生ズルコトアリ。此等ノ變形ニシテ、骨傷ヲ兼テザ
ルモノハ、敢テ治法ヲ要セズ、二三日ニシテ正規ニ復スルモノトス。

第百八十六章 臍帶ノ疾患

〔第七三一項〕臍部ノ糜爛 臍帶ノ斷端、脫落後、臍窩ニ糜爛ヲ殘ス
コトアリ。此ノ如キトキハ、毎回、石炭酸水ニテ洗ヒ、硼酸末又ハ沃度フォルム
ヲ撒布シ、瓦設若クハ、脫脂綿ヲ貼シ、綿帶ヲ施コス可シ。速カニ治セザルモ
ノハ、醫治ニ委ヌルヲ要ス。

〔第七三二項〕臍部ノ炎症 以上ノ糜爛部、赤色ニシテ腫脹スルト

キハ、即チ炎症ヲ發セルモノナリ。此ノ如キトキハ、同ジク前項ノ法ニヨリ
テ處置シ、且ツ、速カニ醫治ヲ求ム可シ。

〔第七三三項〕臍出血 若シ出血ヲ呈スルコトアラバ、石炭酸水ヲ蘸セ
ル小綿球ヲ以テ、強ク壓抵シ、綿帶スルヲ要ス。出血ノ強度ナルモノハ、速カ
ニ醫治ヲ乞フ可シ。

〔第七三四項〕臍脫腸 生來、臍輪ノ廣キカ、若クハ、初生兒劇シク啼泣
シ、又ハ、甚ダ努力スルトキハ、腸管、臍輪ヨリ、脫出シ、其皮膚、囊狀ニ膨出セラ
ルコトアリ。

處置 ハ豫防法トシテ、便通ヲ佳良ナラシメ、若シ既ニ、脫腸ヲ發スルノ
徴アラバ、可及的啼泣セシムルコトナカラシメ、綿花又ハ瓦設ヲ壓抵シ、丁
寧ニ臍、綿帶ヲ施コシ、而シテ醫ノ診察ヲ請フ可シ。

第百八十七章 骨傷

〔第七三五項〕骨傷 ハ頭蓋骨、上膊骨、大腿骨等ニ生ズ。就中、上膊ノ骨

傷ハ、困難ナル骨盤端位娩出術ヲ施コストキハ、屢之レヲ現ハスモノナリ。凡ソ上膊又ハ大腿ニ骨傷ヲ生ズルトキハ、其肢異常ノ位置又ハ屈曲ヲ現ハシ、傷部ヲ壓スルトキハ、啼泣ニヨリテ疼痛ノ狀ヲ訴ヘ、又、其肢ヲ運動セシムルトキハ、傷部ニ摩擦音ヲ發ス。

〔第七三六項〕處置 困難ナル娩出術ヲ施コシタル後ハ、必ズ四肢ヲ檢シ、骨傷ノ有無ヲ確カメ、若シ之レアラバ、醫治ヲ求メ、絹帶ヲ施コサンヲ要ス。多クハ二三週間ニシテ、治癒スルモノナリ。

第百八十八章 初生兒眼炎

〔第七三七項〕定義 初生兒眼炎ハ、又、初生兒膿漏ト稱シ、淋毒微菌ニヨリテ發シ、大人ニ於ケル淋毒性結膜炎膿漏性結膜炎ト稱シ、俗ニ風眼ト唱フト同一ナルモノナリ。而シテ、初生兒ニ於ケルモノハ、大人ニ比スルニ、症狀、輕ク、適當ノ治方ヲ施コストキハ、豫後モ亦大ニ佳良ナルモノナリ。

〔第七三八項〕原因 此眼炎ハ、第四篇第九十七章第四二七項ニ記ス

ルガ如ク、分娩ノ際、腔内ヨリ淋毒性分泌物ノ傳染ヲ受ケテ發シ、若クハ産褥中ニ、母又ハ産婆ノ手ヨリ之レヲ傳フルニヨル。此症ハ、通常之レヲ見ルコト甚ダ多數ニシテ、之レニヨリ、盲者トナルモノ多ク之レアリ。故ニ最モ注意ス可キモノトス。

〔第七三九項〕症狀 大抵、分娩後、第二日ニシテ、一眼若クハ兩眼ノ眼瞼、綠赤色ヲ呈シテ、互ニ粘着シ、以テ眼裂ヨリ帶綠色ノ水樣液ヲ出ダシ、其液、漸ク膿狀トナリ、眼瞼ハ、甚ダシク腫服シ、球狀ノ膨隆ヲ呈シ、眼ヲ開クト能ハザルニ至ルモノトス。眼球結膜ハ充血シ、赤色ヲ呈シ、病機、角膜ニ及ボス時ハ、治癒ノ後ト雖ドモ、白翳ヲ遺シ、或ハ病機増進シ、角膜ノ破壊穿孔ヲ致スモノアリ、又、始メ一眼ニ發スルモノハ、遂ニ他ノ眼ニ傳ヘ、又ハ他人ノ眼ニ傳染シ得可シ。此眼炎ノ重症ナルトキハ、多クハ失明シ、或ハ失明セザルモ、白翳ヲ遺スモノナリ。

〔第七四〇項〕處置、豫防法 産婦、若シ其陰部ヨリ、膿樣ノ分泌物ヲ漏シ、淋疾ノ疑ヒアラバ、分娩中、二%微温石炭酸水ヲ用キテ、腔内ヲ洗滌

シ、第三篇第二七二項小兒ハ、分娩後直チニ醫治ヲ請ヒ、二%硝酸銀水ノ點眼ヲ施コシ、以テ危險ナル眼炎ヲ豫防ス可シ。但シ此點眼ハ、産婆之レニ熟練セルトキハ、自ラ之レヲ行フコトヲ得可シ。

二、既ニ眼炎ヲ發セルモノハ、水片ヲ小布片ニ包ミテ器法ヲ施コシ、且ツ速カニ眼科醫ノ治療ヲ請ケシムルヲ要ス。而シテ藥液ヲ以テ眼炎ノ分泌物ヲ拭去スルニハ、一手ノ拇指ヲ横ニ眉ノ下ニ抵テ、上眼瞼ヲ舉上シ、藥液ヲ蘸セル綿花又ハ瓦設ヲ以テ、流出セル膿液ヲ外眥ヨリ内眥ニ向ツテ拂拭シ、次ニ示指ヲ以テ、下眼瞼ヲ牽下シ、同ジク拭去スルヲ要ス。此ノ如クニシテ、後チ其手ヲ消毒シ、以テ他ニ傳染スルヲ防グ可シ。又患眼ヲ拭ヒタル布片、綿花等ハ、決シテ之レヲ他眼ニ使用ス可カラズ。

總テ眼病アル小兒ハ、其顔ヲ日光又ハ燈火等ニ直射セシムルコトナク、暗キ側方ニ向ハシムルヲ要ス。凡ソ小兒ハ、眼疾ナキモ、劇シキ光線ニ向ハシム可カラズ。

第百八十九章 乳房ノ腫脹及ヒ其炎症

〔第七四一項〕初生兒ノ乳房 ハ間々腫脹スルコトアリ。時トシテ、其腫脹増劇シ、炎症ニ轉ジ、赤色、疼痛ヲ現ハシ、稀レニハ化膿ニ陥ルコトモ、亦之レアリ。而シテ、此ノ如ク、化膿スルモ、男兒ナレバ、敢テ著シキ障害ナシト雖ドモ、女兒ナルトキハ、後來、泌乳ヲ廢スルニ至ルコトアルガ故ニ、大ニ注意セザル可カラズ。

〔第七四二項〕處置 單ニ腫脹ヲ呈スルモノハ、務メテ刺戟ヲ避ケ、綿花ヲ貼シ、輕ク繃帶ヲ施コス可シ。妄リニ之レヲ壓搾シ、試ルガ如キコトヲナストキハ、爲メニ化膿ヲ發セシムルニ至ル。若シ又、炎症、或ハ化膿ヲ致サントスルモノハ、速カニ醫治ヲ求ムルヲ要ス。

第百九十章 鼠蹊脫腸及ヒ先天性陰囊水腫

〔第七四三項〕脫腸 初生兒ハ、先天性ニ鼠蹊部ノ腹壁ニ間隙アリテ

之ヨリ、腸管脱出シ、男兒ハ陰嚢内ニ、女兒ハ大陰唇内ニ、脱腸ヲ現ハスコトアリ。此等ノ脱腸ハ小兒啼泣スレバ著シク増大シ、安静ノ際、壓迫ヲ施コストキハ、雷鳴ヲ發シ、腸管ハ腹腔内ニ退却ス可シ。腸管若シ嵌頓スルトキハ、劇痛、吐糞病等ヲ發シ、甚ダシキハ腸管終ニ壞死ニ陥リ、生命ヲ失フニ至ルモノナリ。

處置　ハ醫師ノ診察ヲ請ヒ、脱腸帶ヲ施コシ、腹壁ノ間隙ヲ壓閉センコトヲ務ム可キモノトス。

〔第七四四項〕先天性陰嚢水腫　男兒ニ在リテハ、先天性陰嚢水腫ナルモノアリ、脱腸ニ於ケルガ如ク、鼠蹊部ノ腹壁ニ間隙ヲ現ハシ、而シテ、其間隙小ニシテ、僅カニ腹腔ノ液質ノミヲ陰嚢内ニ流通セシム。此症ハ其外觀、恰モ脱腸ト異ナルヲナク、壓迫スルトキハ音ヲ發スルコトナクシテ、其内容液、徐々ニ腹腔内ニ退却ス可シ。光線ニ對シ透見スルトキハ、脱腸ト異ニシテ透明ナルヲ見ル可シ。○處置ハ醫師ノ診察ヲ求ムルヲ要ス。

第四百九十一章　畸形

〔第七四五項〕初生兒ノ畸形　ニハ種々アリ、既ニ第六編第四百四十二乃至四章ニ説述セリ、就テ看ル可シ。

第四百九十二章　齙口瘡

〔第七四六項〕齙口瘡トハ、口内、舌上、口唇等ニ小ナル白斑ヲ生ズルモノニシテ、時トシテハ普ク口内ニ蔓延シ、餘地ヲ存セザルニ至ルコトアリ。而シテ小兒ハ疼痛ヲ感ジ、甚ダシキハ哺乳スルコト能ハズ、爲メニ屢生命ヲ危クスルモノアリ。

〔第七四七項〕原因

ハ一種ノ細菌附着シ繁殖スルニヨリテ發シ、不潔ノ乳房又ハ授乳器ヲ以テ哺乳セシメ、小兒ノ口内ヲ不潔ナラシムルニヨリ生ズルモノナルガ故ニ、下等社會ノ小兒ニ多ク之レアリ。

〔第七四八項〕處置

豫防法ヲ以テ緊要ナリトス、即チ之レヲ豫防ス。

ルニハ乳房ナレバ授乳ノ前後ニ清水ヲ以テ蘸セル布巾ニテ之レヲ清拭シ授乳器ナルトキハ使用後毎回ゴム管内ニ清水ヲ通ジテ洗滌シ更ニ之レヲ清水中ニ浸漬シ蓄フ可シ又小兒ノ口内ハ時々清水ヲ蘸セル瓦設ヲ以テ拭淨スルヲ要ス即チ脱脂セル瓦設ノ一片ヲ取り之レヲ小指ニ捲キ清水若クハ硼酸水ヲ蘸シ口内ニ送入シ口腔粘膜舌及ビ唇ノ内面ヲ丁寧ニ拭去ス可シ此ノ際爪ヲ以テ其粘膜ヲ傷ク可カラズ又之レヲ拭去スルニハ哺乳後少シク時ヲ經ルヲ良トス然ラザレバ嘔吐ヲ發スルアリ或ハ飴其他ノ物品ヲ布片ニ包ミ之レヲ口内ニ含マシメ小兒ヲ啼泣セシメザラントスルガ如キハ甚ダ不可ナリ是レ小兒ノ口内ヲ不潔ナラシメ發病ヲ促ガスニヨル又鷄口瘡アル小兒ニ授乳セルモノハ傳染ヲ發スルガ故ニ他ノ小兒ニ哺乳セシム可カラズ既ニ本症ヲ發スレバ醫治ヲ請フ可シ

第百九十三章 消化ノ障害

第七四九項 嘔吐

ニハ疾病ニヨルモノト否ザルモノトアリ(第四篇第九十七章第四三〇項)小兒ノ胃ハ彎屈少ナク且ツ比較的ニ小ナルガ故ニ多量ノ乳汁ヲ取ルトキハ容易ク嘔吐スルモノナリ而シテ嘔吐スルモ必ズシモ害アルモノニアラズ只其煩ラハシキガ爲メニ一時ニ過多ノ乳汁ヲ與フルコトナク且ツ授乳後ハ安靜ナラシムルヲ良トス若シ此ノ如クスルモ尙ホ著シク嘔吐シ且ツ下痢或ハ便秘スルモノハ速カニ醫治ヲ請フ可シ但シ母體ニ脚氣症アルトキハ其脚氣ノ毒質乳汁中ニ分泌セラルガ故ニ其中毒ニヨリ著シキ吐乳ヲ發シ不穩羸瘦聲音啞嘶等ヲ致スモノトス故ニ小兒ノ吐乳アル際ハ必ズ其母又ハ乳母ノ脚氣症ヲ有セザルヤ否ヤニ注意センヲ要ス若シ脚氣症アルヲ見バ(第五四一項)直チニ授乳ヲ廢止シ適當ノ醫治ヲ求ム可シ

第七五〇項 下痢

ハ水様粘液様ニシテ間々綠色ヲナシ白色ナル不消化性ノ乾酪片ヲ交ヘ時トシテハ酸臭ヲ放チ通常ノ回数(一日三四回)ヨリモ甚ダシク多數ナルニ至ルモノナリ原因ハ感冒又ハ濃厚ナル牛

乳、不適當ナル營養物ヲ與フルニアリトス。

處置 小兒ノ攝生ニ注意シ、身體ヲ溫暖ナラシメ、腹部ニハ溫湯又ハカミツレ煎ヲ以テ罨法ヲ施コスヲ良トス。且ツ速カニ醫治ヲ請フ可シ。

〔第七五二項〕便秘 ハ二十四時間以上、便通ナキモノヲ云フ。而シテ、屢々腹ヲ兼テ腹痛ヲ發シ、放屁ヲ漏ラスモノナリ。原因ハ主トシテ濃厚ナル牛乳、不適當ナル營養物ニ在リトス。

處置 便秘アルトキハ、砂糖水若クハ加密列浸ノ灌腸ヲ行フ可シ。其量ハ、第一週中ニハ一五〇ヲ以テ足レリトス。牛乳ヲ以テ養フモノハ、其乳ヲ稀薄ナラシムルヲ要ス。母乳ナルトキハ、其母ニ屢々稀薄ノ茶又ハ加密列煎等ヲ服用セシメ、運動ヲ營マシム可シ。便秘若シ治シ難キカ、或ハ腹痛ヲ兼ヌルトキハ、醫治ヲ求ム可シ。

〔第七五三項〕腹痛 アルトキハ小兒啼泣シテ、足ヲ腹部ニ向テ牽縮シ、屢々腹部ノ雷鳴ヲ發ス。原因ハ下痢ニ於ケルガ如ク、感冒、又ハ濃厚ナル牛乳、不適當ナル營養物ヲ與フルニアリトス。

處置 ハ身體ヲ溫暖ナラシメ、速カニ醫治ニ委ヌ可シ。

第一百九十四章 乳兒脚氣

〔第七五三項〕原因 授乳者ノ血液中ニ存スル脚氣毒ハ、乳汁中ニ分泌セラレ、ガ故ニ乳兒ハ、中毒ニ陥リ、以テ此病ヲ致スモノトス。○時トシテハ、脚氣乳ヲ飲用セシムルモ、本症ヲ來サザルコトモ亦之レアリ。

〔第七五四項〕症狀 乳兒此症ヲ發スルトキハ、一日數回若クハ十數回ノ吐乳ヲ現ハシ、間々、綠色ノ便ヲ利シ、聲音嘎嘶シ、尿量減少、下肢ニ水腫ヲ來タシ、心動亢進、呼吸頻數トナリ、苦悶呻吟、若クハ斷エズ啼泣シ、口唇四肢ノ末端ニ青紫色(チアノーゼ)ヲ呈ス。○此ノ如クニシテ、速カニ脚氣性乳汁ヲ廢止スルコトナケレバ、漸次ニ、症狀増進シ、遂ニ死ニ歸スルモノトス。

〔第七五五項〕處置 此症ヲ現ハサバ、速カニ脚氣性ノ乳汁ヲ禁止シ、醫師ノ治療ヲ求メ、良好ノ乳汁ヲ得難キモノハ、牛乳ヲ代用セザル可カラズ。

第百九十五章 吃逆

〔第七五六項〕吃逆 ハ横隔膜ノ痙攣ニヨリ、發スル短小急速ナル吸氣ニシテ、小兒ノ身體冷却スルカ、又ハ一頓ニ多量ノ乳汁ヲ取ラシムルトキハ、之レヲ發ス。故ニ吃逆アルトキハ、身體ノ冷却セル者ハ、之レヲ暖メ、且ツ温暖ナル砂糖水一二茶匙ヲ與ヘ、若クハ砂糖ヲ舌上ニ撒布ス可シ、亦常ニ急劇ニ哺乳セシメザルヲ佳トス。

第百九十六章 初生兒痙攣及ヒ破傷風

〔第七五七項〕痙攣 小兒痙攣ヲ發スレバ、眼球上竄若クハ旋轉シ、顔面ヲ緊縮シ、口角ヲ牽掣シ、手ヲ握リ、嘎ルガ如キ聲ヲ發シテ啼泣ス可シ。此症ハ、熱症、便秘、鼓脹、過熱ナル浴湯等ニヨリテ發ス。處置 速カニ醫治ヲ求メ、其未ダ到ラザルノ間、痙攣若シ甚ダシキトキハ、一握ノ芥子末ヲ加ヘタル温湯中ニ浴セシム可シ。

〔第七五八項〕初生兒破傷風(初生兒テタヌス) ハ臍部ノ創面

ニ、テタヌス。微菌附着シ、繁殖スルニヨリテ發スルモノニシテ、第三日乃至第十日ニ現ハレ、初メハ口角攣縮ヲ呈シ、下顎ノ咀嚼筋痙攣シテ、口ヲ開クコトヲ得ズ(即チ牙關緊急是レナリ)小兒ハ乳汁ヲ嫌忌シ、授乳ヲ試ムルモ、自ラ之レヲ避ケ、次デ全身ニ痙攣ヲ及ボシ、甚ダシキハ、軀幹後方ニ彎曲シ、強直ス(後弓反張ト稱ス)ルコトアリ、體温ハ四十二三度ノ高キニ至ルコトナキニアラズ。此ノ如クニシテ、廿四時間ヲ出デズ、死ニ歸スルヲ常トス。處置 痙攣症ニ於ケルガ如ク、速カニ醫治ヲ求ムルヲ要ス。又、豫ジメ之レヲ豫防センガ爲メニ、初生兒ノ臍部ハ、臍帶脱落シ癒合スルニ至ルマデ、嚴ニ防腐法ヲ行ハザル可カラズ。

第百九十七章 初生兒黃疸

〔第七五九項〕初生兒黃疸ノ病理 初生兒黃疸ハ、大人ノ黃疸ト異ナリ、蓋シ大人ニ於ケルモノハ、主トシテ、肝臟ノ疾病ニヨリ、胆汁ノ

排泄障害セラレ、其胆汁、血液○中○ニ○吸○收○セ○ラ○ル○、ニヨリテ發スレドモ、初生兒ニ在リテハ否ラズ、而シテ、初生兒黃疸ヲ發スルノ理由ハ、未ダ詳ラカナラズ、從テ、或ハ之レヲ疾病ニアラズト云ヒ、又ハ之レヲ疾病トナスモノアリ、但シ疾病ナリトスルモ、極メテ輕症ニシテ速カニ治愈シ、之レガ爲メニ、小兒ノ生命ヲ危クスルコトナキモノトス。

〔第七六〇項〕原因 本症ハ、其病理、未ダ明カナラザルガ故ニ、從テ之レヲ發スルノ原因、未ダ詳カナラズト雖ドモ、虛弱ナルモノニ發スル、最モ多シ、健康ノ小兒ハ、通例、之レヲ生ズル、甚ダ少ナシ、故ニ、未成熟兒、梅毒性産兒、臍ノ疾患ヲ有スルモノ及ビ位置不良、殊ニ骨盤端位ニシテ分娩困難ナリシモノ、並ニ生産後看護不完全ニシテ、身體ヲ寒冷ナラシメ、亦ハ食飼ノ不良ナルモノニ之レヲ發ス。

〔第七六一項〕症狀 娩出後、第二三日ニシテ發シ、第六乃至第八日ニシテ消失ス、甚ダ稀ニハ、第二三週ニシテ發スルコトアリ、而シテ、全身ノ皮膚、眼ノ結膜ニ黃色ヲ現ハシ、尿ハ、時トシテ、着色セザルコトアルモ、通例、黃色ヲ

呈シ、糞便ハ、通常ノ色ヲ失フコトナシ、是レ胆汁ノ腸管内ニ流出シテ、障害ナキヲ證スルモノナリ。

〔第七六二項〕處置 他ニ異常ナキモノハ、敢テ醫治ヲ求ムルヲ要セズ、身體ヲ溫暖、清潔ナラシメ、且ツ、屢、浴湯ニ入レ、以テ血液ノ循環ト新陳代謝トヲ佳良ナラシメ、食飼ニ注意シテ、室内ノ空氣ヲ清良ナラシムルヲ要ス。

第百九十八章 丹毒

〔第七六三項〕丹毒 トハ臍部又ハ陰部等ニ存スル創面ヨリ、丹毒微菌ノ侵入、繁殖シ、蔓延スルガ爲メニ發スル疾患ニシテ、其部ノ皮膚ハ、赤色ニシテ熱シ、且ツ、硬結ヲ呈シ、漸次ニ周圍ニ波及シ、時トシテハ、非常ニ廣キ部分ニ亘ルコトアリ、此症ヲ發スレバ、小兒ハ發熱シテ啼泣シ、哺乳セザルニ至リ、多クハ死ヲ免カル、コト能ハズ。

第一百九十九章 糜爛

第七六四項 糜爛 ハ皮膚ノ軟カニシテ滋潤シ又ハ摩擦ヲ蒙ル部即チ陰部臀部腋下頸部ノ皺襞膝関節足踵等ニ現ハレ兒體ヲ久シク濕潤ナラシムル時ハ之レヲ發ス故ニ小兒ヲ不潔ナラシムルトキハ甚ダ之レヲ生ジ易キモノナリ而シテ糜爛ヲ發スルトキハ其部先ヅ紅色トナリ滋潤シ、上皮ハ廣ク剝脱シ若クハ皮膚ノ皺襞ニ從ヒ裂創ヲ生ズルニ至ル

第七六五項 處置 上項記スル所ノ諸部赤色ニシテ滋潤セバ温湯ニテ洗ヒ柔軟ニシテ乾キタル布片ヲ以テ善ク其濕潤ヲ去リ官粉又ハ澱粉ヲ撒布ス可シ又、既ニ裂創ヲ現ハサバ小兒ヲ温湯中ニ浴セシメ創部ヲ濕ハシテ徐カニ皺襞ヲ開キ脱脂綿等ヲ用キ之レヲ洗ヒ官粉又ハ澱粉ヲ撒布シ其治シ難キモノハ醫治ヲ受クルヲ要ス

第二百零一章 糠秕疹

第七六六項 糠秕疹 初生兒第一週又ハ第一ヶ月ヲ經レバ其前頭若クハ顛頂部ノ皮膚ニ於テ白色ナル小鱗屑片ヲ生ズルコトアリ之レヲ糠秕疹ト名ク脂肪ノ分泌增多スルニ基ク此ノ如キモノヲ生ズルハ主トシテ清潔法ヲ怠タルニヨル處置ハ石鹼又ハ卵黃ニテ洗ヒ又ハ初メニオレーフ油ヲ塗り後石鹼ニテ丁寧ニ洗滌ス可シ

第二百零二章 汗疹

第七六七項 汗疹 小兒ヲ過度ニ温暖ナラシメ多ク發汗セシムルトキハ胸部顔面四肢其他ノ部ニ於テ赤色ナル小疹ヲ多發スルコトアリ之レヲ汗疹ト云フ○此疹ヲ生ズルトキハ過度ニ温暖ナラシムルコトナク且ツ屢々温浴ヲ行ハシム可シ

第二百零三章 濕疹

第七六八項 濕疹 トハ初メ透明ノ液ヲ含メル小胞ニシテ後チ破

開シ之レヨリ多量ノ粘糊ナル液ヲ流出セシメ、遂ニ帶白黄色若クハ茶褐色ノ痂皮ヲ生ジ、其流出液ノ附着ニヨリ、漸ク近接部ニ同一ノ病機ヲ傳播シ、顔面若クハ四肢等ニ廣ク蔓延スルコトアリ。

第七六九項處置 速カニ醫治ヲ請フ可シ、而シテ、傳染性ヲ存スルガ故ニ、之レニ觸ルハトキハ、消毒法ヲ行フ可シ。

第二百〇三章 單性水胞疹

第七七〇項單性水胞疹 水様液ヲ含メル小胞ニシテ、身體ノ諸部ニ發ス。多數ナラザルトキハ敢テ害ナキモ、若シ大ニシテ且ツ多數ナルトキハ、爲メニ小兒ヲ死ニ至ラシムルコトアリ。

第七七一項處置 此ノ水胞疹ハ、速カニ醫治ヲ請ハシム可シ、而シテ傳染性ヲ有スルガ故ニ、此小兒ニ觸ルハトキハ、善ク其手ヲ消毒ス可シ。

第二百〇四章 遺傳梅毒(先天梅毒)

第七七二項遺傳梅毒ノ小兒分娩時ノ徵候

胎兒其父母ヨリ梅毒ヲ受クルトキハ、即チ遺傳梅毒ニシテ、胎兒ハ、既ニ妊娠中ニ死亡シテ流産ヲナシ、又ハ、早産ノ後チ、直チニ死亡シ、或ハ生活シテ分娩ヲ遂グルコトアリ、第五二九項參照、而シテ生活セル産兒ハ、間々、一定ノ部分即チ口圍、手掌等ニ固有ノ帶青色ヲ呈シ、極メテ細小ナル無數ノ皴癩ヲ現ハス可シ、時トシテハ、分娩後、數日ニシテ鼻粘膜、齒齦等ヨリ劇シキ出血ヲ呈シ、爲メニ死ニ歸スルコトナキニアラズ、但シ、兩親ノ疾患俱ニ第三期梅毒ナル時ハ、其産兒多クハ健康ナルヲ常トス。——遺傳梅毒ヲ有スル胎兒ノ肝臟及ビ脾臟ハ、著シク腫大シ、其重量、健康ナルモノノ三倍ノ大サニ達ス、健康ナル胎兒ノ肝臟ハ、體重ノ三十分ノ一、脾臟ハ、三十分ノ一トナス、胎盤モ亦甚ダ大ニシテ、通常ハ、體重ノ五乃至八分ノ一ヲ有スルニ過ギザレドモ、梅毒性ノ胎盤ハ、體重ノ三乃至四分ノ一ノ重量ヲ有スルモノトス。

第七七三項遺傳梅毒ノ發症 凡ソ遺傳梅毒ヲ有スル小兒、分娩スルトキハ、漸次ニ種々ノ發症ヲ呈ス、即チ一梅毒性水胞疹、二鼻加答兒、

三梅毒性蓄薇疹、四裂瘡是レナリ。

二梅毒性水泡疹　ハ既ニ分娩時ニ現ハレ、若クハ生産後、數日ニシテ發シ、其胞、大ニシテ手掌、足蹠等、特殊ノ部位ヲ占居シ、時トシテ、胸部、大腿等ニ之レヲ見ル。顔面及ビ頭髮發生部ニハ之レヲ生ズルコトナシ。此症アル小兒ハ、最モ危險ナルモノニシテ、大抵八乃至十四日ニシテ、死ニ歸スルヲ常トス。

二梅毒性鼻加答兒　最モ早キモノハ、第三週中ニ發スルモノニシテ、鼻粘膜、腫脹シ、鼻孔閉塞シ、多量ナル膿様ノ分泌物ヲ出スモノトス。此發症ハ、次ノ二症ト共ニ、善ク醫治ヲ加フルトキハ、治癒シ得ルモノナリ。

三梅毒性蓄薇疹　ハ赤色ノ斑點ニシテ、軀幹、四肢ニ、之レヲ現ハス可シ。

四裂瘡　ハ口角、肛門ノ皺襞及ビ陰門ニ現ハル、破裂狀ノ創面ナリトス。

第七七四項遺傳梅毒ノ處置　遺傳梅毒ノ小兒ハ、速カニ醫治ニ

託スルヲ要ス。而シテ、小兒ノ攝生ニ注意シ、務メテ身體ヲ温暖ナラシム可シ。又、母體ニ梅毒療法ヲ施コストキハ、醫師ノ命ニヨリ、其乳汁ヲ小兒ニ與ヘ得ルモノトス。

第八篇 一般看護法ノ大要

第二百〇五章 誘導編

〔第七七五項〕此編ニ於テハ 卒倒外傷其他偶然ニ發スル忠害ノ處置及ビ石炭酸液調製法檢温器用法等一般ノ看護ニ切要ナル事項ヲ説明ス可シ就中外傷ノ如キハ原ト産婆學ノ範圍ニアラズト雖ドモ産婆若シ其處置法ヲ知了スルトキハ實際上大ニ便益アルヲ以テ茲ニ附記セルモノナリ。

第二百〇六章 卒倒

〔第七七六項〕卒倒ハ 腦ノ貧血若クハ充血ニヨリ發スルモノニシテ殊ニ妊婦ニ之レヲ發シ易シトス。

〔第七七七項〕原因 多人數ノ集會セル室内ニ止マリ不潔ノ空氣ヲ呼吸スルヲ緊密ナル衣服ヲ着用スルヲ身體ノ甚ダシク温熱ヲ感ズルコト

ト及ビ精神ノ感動等ハ卒倒ヲ發セシムルノ原因ヲナスコトアリ又出血ニ因スル貧血ニヨリテ之レヲ致ス。

〔第七七八項〕處置 卒倒セルモノハ衣服ヲ解キ頭部ヲ低カラシメ窓戸ヲ開キテ空氣ノ流通ヲ佳良ニシ頭部ニハ氷囊若クハ冷水ヲ蘸セル布片ヲ貼シ又冷水ヲ飲用セシメ身體ヲ摩擦ス可シ出血ニ因スルモノハ急性貧血ノ條下ニ記セル方法第六篇第六七一項ニヨリ之レヲ處置ス可シ。

第二百〇七章 外傷(創傷及ビ外傷性出血)

〔第七七九項〕止血セル創傷ノ處置 創傷ノ出血既ニ止ムモノニ在リテハ清潔ナラシムルヲ以テ最モ緊要ナリトス故ニ清潔ナル布片又ハ綿花ニ石炭酸水ヲ蘸シテ貼用シ適宜ニ綑帶シ而シテ後チ醫治ヲ待ツ可シ決シテ不潔ノ布片又ハ膏藥其他無用ノ物品ヲ貼附ス可カラズ。

〔第七八〇項〕外傷性出血ニ三種アリ 動脈出血、靜脈出血及
 ビ組織出血是レナリ。動脈性出血ハ鮮紅色ヲ呈シ、線ヲナシ、又ハ湧クガ
 如クニ迸出シ、靜脈性出血ハ暗赤色ニシテ、平等ニ流出ス可シ、(第六篇第
 六三〇項)組織出血(毛細管出血)ハ創面ヨリ汗ノ出ヅルガ如ク滲出スル
 モノヲ云フ。

〔第七八一項〕外傷性出血ノ處置

少量ナル出血ヲ止ムルニ

ハ、創面上ニ清潔ナル布片又ハ綿花可及的、石炭酸水ヲ蘸セルヲ良トス。
 以下之レニ同ジヲ貼シ、手ヲ以テ固ク壓抵スルカ、又ハ繃帶ヲ施コス可
 シ。動脈性出血ナルキハ、其部ヲ高舉シ、布片又ハ綿花ヲ極メテ堅ク壓抵
 シ、繃帶ヲ施コサル可カラズ、甚ダシキ動脈性出血ニシテ、以上ノ方法
 ヲ施コスモ止血セザルトキハ、其創部ノ中心側(心臟ノ方位)ヲ堅ク縛シ、
 動脈血ノ流入ヲ妨ゲ、創部ニハ緊シク繃帶ヲ施コシ、而シテ、其繃帶ヲ濕
 ハシ、之レヲ緊密ナラシムルヲ良トス。
 又靜脈出血ニ在リテハ、其體ノ中心側(心臟ノ方位)ニ布帶ノ纏絡セルモ

ノアルトキハ、之レヲ解キ、血液ノ歸流ヲ便ナラシメ、出血部ニ綿花又ハ
 布片ヲ貼シテ壓抵スルヲ要ス。大ナル靜脈ノ出血ナルトキハ、安リニ其
 部ヲ高舉ス可カラズ、空氣ヲ心臟内ニ吸入シ、肺動脈ノ空氣栓塞(空氣エ
 ンボリ)等ヲ發シ、直チニ死亡ニ陥ルノ危險アルモノトス。以上ノ處
 置ヲ施コシ、速カニ醫治ヲ乞フ可シ。

第二百〇八章 火傷及ビ湯傷

〔第七八二項〕火傷及ビ湯傷ノ種類

火傷若シクハ湯傷ニ在

リテハ、其輕重ニ從ヒ、之レヲ三度ニ區別ス、即チ第一度トハ、多少ノ疼痛
 ヲ發シ、或ハ赤色ヲ呈スルモノ、第二度ハ水泡ヲ作レルモノ、第三度ハ組
 織ノ壞死ヲ致セルモノ是レナリ。

〔第七八三項〕處置

ハ單ニ赤色トナリ、又ハ水泡ヲ形成セルモノ

ハ、新清ナルワゼリン、オレーフ油又ハ石炭酸油等ヲ塗布シ、若シ灼熱疼
 痛アルカ、又ハ組織ノ壞死セルモノニ在リテハ、石炭酸水ニ浸セル布片

ヲ以テ冷罨法ヲ施コス可シ。小ナル水胞ハ破開セシムルヲ禁ズレドモ、若シ其大ナルモノハ消毒セル細針ヲ以テ穿刺シ、其内容液ヲ漏ラシ、後チ上記ノ法ヲ施コスヲ良トス。○他ハ醫治ヲ請フベシ。

第二百〇九章 凍傷

〔第七八四項〕局部ノ凍傷 身體ノ一部、一定時間、劇寒ニ觸ル、トキハ、恰モ火傷ニ於ケルガ如ク、第一度乃至第三度ノ凍傷ヲ發ス。即チ第一度ナルトキハ、皮膚青赤色ヲ呈シ、灼熱疼痛ヲ感ジ、第二度ナルトキハ、其部ニ水胞ヲ現ハシ、第三度ニ至レバ、組織ノ壞疽ヲ致ス。●凍傷ハ水罨法ヲ施コスニ當リ、虛弱又ハ貧血ナルモノハ、容易ニ之レヲ發スルガ故ニ注意センコトヲ要ス。

〔第七八五項〕全身ノ凍寒

寒冷ハ、適度ニ皮面ニ觸ルハ、トキハ、皮膚ヲ刺激シ、新陳代謝ヲ催進スルノ効アリ、然レドモ、全身長ク強劇ノ寒冷ニ胃觸スルトキハ、神經麻痺シ、倦怠、睡眠ヲ催ホシ、遂ニ精神昏瞶ニ

陥リ、呼吸、心動モ亦微弱トナリ、以テ凍死ニ歸スルニ至ル。

〔第七八六項〕處置

身體ノ一部凍傷ニ罹ルトキハ、必ズ、温湯若クハ、火熱ヲ以テ暖ムルコトナク、先ツ、氷片若クハ、濕布ヲ以テ摩擦シ、後チ毛布ノ類ヲ以テ、温カニ之レヲ包被ス可シ。

全身劇寒ニ觸レテ麻痺セルモノニ在リテハ、速カニ之ヲ暖所ニ入ラシムルコトナク、先ツ、氷塊若クハ、濕布ヲ以テ、身體ヲ摩擦シ、温暖ナル酒類又ハ咖啡等ヲ飲マシメ、後チ漸次ニ其身體ヲ温カナラシムルヲ要ス。其他ハ、速カニ醫治ヲ請フ可シ。

第二百十章 溺死、窒息若クハ頓死

〔第七八七項〕溺死、窒息又ハ頓死者

ニシテ尙ホ假死期ニ存シ、心動ノ全ク消失セザルモノニ在リテハ、人工呼吸法ヲ施コシ、兼テ身體ヲ摩擦ス可シ。人工呼吸法ノ簡易ナルモノハ、假死者ヲ仰臥セシメ、衣服ヲ披キテ胸腹ヲ寬解シ、兩手掌ヲ患者ノ兩季肋部ニ抵テ、呼吸ノ程度

ニ應ジ、一タビ強ク壓迫シ、一タビ之レヲ緩メ、數回、反復スルニ在リ、其時間ハ、凡ソ三十分時ヲ要スルコトアリ。

第二百十一章、腔内灌注法

〔第七八八項〕腔内灌注法ハ、煮沸ヲ經タル温湯若クハ一乃至五%ノ石炭酸水ヲ用ユ。而シテ、煮沸水ヲ用ユル場合ニ於テハ、其煮沸セル器中ニ於テ冷却セシメ、他器ヲ用ユルコトナクシテ、直チニ之レヲイルリガートル中ニ注ギ、一タビイルリガートルヲ洗ヒ去リ、次ニ、洗滌ニ要スル所ノ液量ヲ之ニ充タス可シ、又温度ハ、其規定ニ應ジ、檢温器ヲ以テ之ヲ檢スルヲ要ス。

〔第七八九項〕腔内灌注法ノ種類ニハ、防腐用、止血用、及ビ分娩催進用ノ三種アリ、而シテ、其各一回ノ液量ハ、大凡ソ一〇〇〇トナス。

〔一〕防腐用ニハ、二十倍乃至百倍ノ石炭酸水若クハ百倍ゾール液ヲ用ユ。時トシテハ、醫師ノ命ニヨリ、一千倍乃至五千倍ノ昇汞水ヲ撰用ス

ルコトアリ、其温度ハ、攝氏三十八度ヲ適當トナス、但シ昇汞水ハ、吸收セラレバ、中毒ヲ發スルガ故ニ、大ナル創面アルモノ、又ハ胎胞破開後ノ腔内灌注ニハ、之レヲ禁ズ可キモノトス。

〔二〕止血用ハ、二%ノ氷冷石炭酸水若クハ攝氏五十度ノ同溶液ヲ用ユ、(時トシテハ、酢ニ等分ノ煮沸水ヲ加エタル冷液ヲ供用スルコトアリ)。

〔三〕分娩催進用ニハ、攝氏三十八度乃至四十度ノ熱湯ヲ冷セル温湯(一%石炭酸温液ヲ最モ佳トス)一〇〇〇〇若クハ二〇〇〇ヲ每一時若クハ二時ニ反復シテ用ユ。

〔第七九〇項〕腔内灌注ニ於ケル婦人ノ位置、腔内灌注ノ際、婦人ニ仰臥ノ位置ヲ與ヘ、膝ヲ屈シ且ツ之レヲ開カシメ、腹部ヨリ以下ニハ、清潔ナル廣キ布巾(消毒セルモノヲ用ユレバ最モ可ナリ)ヲ被ヒ、薦骨部ノ下ニハ、小ナル枕子ヲ送入シ、膝下ニハ、廣キ受水盤ヲ挿ムヲ要ス、受水盤ノ後端ハ、敷布ノ端ヲ翻シテ之レヲ押ヘ、其敷布ノ兩側ニ於テ、婦人ノ足ヲ以テ固定セシムルヲ良トス。

【第七九一項】灌注ノ法式 先ツ液ヲ充タセルイルリガートルヲ凡ソ二尺ノ高サニ懸ケ、始メニゴム壓止器ヲ開キテ、ゴム管内ノ空氣ヲ放出セシメ、液ノ射出セルニ乘シ、他手ニ陰唇ヲ開キ、イルリガートルノ嘴管ヲ腔内ニ送入シ、其嘴管ヲ以テ、會陰部及ビ腔ノ兩側壁ヲ交番ニ押壓シ、注入液ノ漏泄ヲ容易ナラシムルヲ良トス。若シ此際、疼痛ヲ訴フレバ、灌注液ノ子宮腔内ニ竄入シ、之レヲ壓開セントスルニ基クコトアルガ故ニ、液ノ注入ヲ停メ、嘴管ヲ會陰部ニ壓シ、善ク灌注液ヲ流泄セシム可シ。

【第七九二項】灌注後器械ノ清潔法 使用後、嘴管ハ五分間沸湯中ニ煮沸シ、管ノ一端ハ稍高カラシムルヲ良トス、然ルトキハ、熱水善ク管内ヲ流通ス可シ、後チ暫時ノ間、五％石炭酸水ニ浸漬ス可シ。若シ護謨管ヲ消毒スルノ必要アラバ、一タビ五％石炭酸水ノ多量ヲ其管内ニ流通セシメ、同ジク石炭酸水中ニ貯フ可シ。

第二百十二章 石炭酸水調製法

【第七九三項】石炭酸水ヲ調製スルニハ、先ツ純石炭酸九分、水一分ヲ和シ、溶解石炭酸ヲ造リ蓄フルヲ便ナリトス、而シテ、毎回之レヲ以テ石炭酸水ヲ製ス可シ。即チ次ニ掲グルガ如ク、此溶解石炭酸ノ一定量ヲ若干ノ水中ニ混ジ、善ク之レヲ攪和シ、全ク水ト溶和シ、一點ノ石炭酸球ヲモ存セサルニ至リ、之レヲイルリガートル中ニ移ス可シ。若シ水ト溶解石炭酸トヲ一壺中ニ和シ、強ク之レヲ振盪混和セバ、最モ佳ナリ。若シ然ラズシテ、不完全ノ混和ヲナストキハ、滴狀ヲナセル石炭酸球ハ、灌注部ニ觸レ、之レヲ腐蝕シ、甚ダシキ害ヲ生ズルニ至ル可シ。次ニ混合ノ液量ヲ記ス可シ。

一％(百)	倍石炭酸水	溶解石炭酸	一〇〇	水九九〇、〇
二％(五)	倍石炭酸水	溶解石炭酸	二〇〇	水九八〇、〇
三％(約三十三倍)	石炭酸水	溶解石炭酸	三〇〇	水九七〇、〇
四％(二十五倍)	石炭酸水	溶解石炭酸	四〇〇	水九六〇、〇
五％(二十倍)	石炭酸水	溶解石炭酸	五〇〇	水九五〇、〇

第二百十三章 灌腸法

第七九四項「灌腸ノ種類」 灌腸ニ三種アリ、一「催下灌腸」、二「藥液灌腸」、三「滋養灌腸」是レナリ。

一「催下灌腸」 通常單ニ灌腸ト稱スルハ、催下灌腸ヲ指スモノニシテ、砂糖液、葛湯、牛乳、ヒマシ油、乳劑、石礮水、食鹽水等ヲ用ユ。就中、牛乳、砂糖水、石礮水等ハ最モ多ク應用セラル。其一回ノ液量ハ、二百五十瓦乃至五百瓦トナス。五百瓦以上ハ、醫師ノ命ニアラザレハ、之レヲ用ユ可カラズ。溫度ハ攝氏三十五度ヲ法トス。
位置ハ左側臥ニ就カシムルヲ最モ良トス。而シテ、腔内灌注ニ於ケルガ如ク、悉ク管中ノ空氣ヲ排除シ、後チ其管ヲ肛門内ニ送ル可シ。但シ其嘴管ニハ、豫カジメ油ヲ塗リ、緩和ニ廻旋シツ、之レヲ送入スルヲ要ス。
灌腸器ハ、普通ノゴム灌腸器又ハイルリガートルヲ用キ、小兒ノ灌腸若クハ藥品ノ灌腸ニ在リテハ、水筒狀又ハ護謨囊製ノ注入器ヲ撰用ス可シ。

小兒ノ灌腸量 乳兒ハ、一二食匙(一五、〇乃至三〇、〇)二歳乃至十歳ノ小兒ニ在リテハ、五〇、〇乃至二〇〇、〇ヲ適當ナリトス。

二「藥液灌腸」三「滋養灌腸」 藥液灌腸ハ藥品ヲ服用セシム可カラザルモノニ就キ、之レヲ肛門内ニ注入スルモノナリ。是レ、小兒若クハ嚥下シ能ハザル患者ニ用ユ。其量ハ、大人ニ於テ五〇、〇乃至一〇〇、〇ナリ。滋養灌腸ハ、飲食物ヲ攝取シ能ハザルノ際、牛乳又ハ肉液ヲ直腸内ニ注入スルモノナリ。食鹽水ノ灌腸第六七一項ハ藥液灌腸ニ屬ス。

第二百十四章 冷罨法及ビ氷罨法

第七九五項「冷罨法」 ハ之レヲ施コス可キ部分ノ大小ニ應ジ、手巾若クハ布片ヲ適宜ニ疊積シ、新タニ汲メル冷水若クハ氷ヲ加ヘタル水ニ浸シテ、之レヲ皮膚ノ上ニ置キ、油紙若クハ護謨布ヲ以テ更ニ之レヲ被ヒ、每十分乃至十五分時ニ他ノ布片ヲ以テ同様ニ交換ス可シ。

第七九六項「氷罨法」 ハ凡ソ、胡桃大ノ氷片ノ多數ヲ膀胱製若クハ

護罨製氷囊中ニ容レ、一片ノ布片ヲ皮膚上ニ置キ、以テ氷囊ヲ其上ニ貼ス可シ。但シ、膀胱製氷囊ハ、一二日ニシテ廢用ニ歸スルヲ以テ、久時應用スル場合ニ於テハ、護罨製品ヲ撰用スルヲ佳トス。老人又ハ衰弱セル患者等ニ在リテハ、氷罨法ニヨリ、其部ノ皮膚全ク壞死スルコトアルガ故ニ、此ノ如キ場合ニ於テハ、注意シテ、豫カジメ數層ノ布片ヲ皮膚上ニ置クヲ要ス。將サニ壞死ヲ發セントスルトキハ、其皮膚、腐血ニヨリテ紫赤色ヲ現ハスモノナリ。

〔第七九七項〕冷罨法及ビ氷罨法ノ効用 此兩法ハ、充血性ノ疼痛、出血若クハ炎症ヲ防止スルニ用ユ。就中、氷罨法ハ其効用著シトス。

第二百十五章 温罨法及ビプリエスニツ

氏罨法

〔第七九八項〕温罨法 ハ熱湯ヲ布片ニ蘸シ、若クハ米飯又ハ米粥ヲ布片ニ包ミテ貼用スル者ナリ。或ハ、所謂菟藟ヲ湯中ニ煮熱シ應用スルヲ

最モ便ナリトス。

〔第七九九項〕温罨法ノ効用 陣痛ヲ催進シ、痙攣性疼痛ヲ鎮靜シ、若クハ化膿ヲ催進セシムルニ用ユ。若シ充血性ノ疼痛ニ、温罨法ヲ施コス

トキハ、却テ疼痛ヲ増シ、病勢ヲ増悪セシムルモノナリ。

〔第八〇〇項〕プリエスニツ氏罨法 トハ冷水ヲ布巾ニ蘸シテ

之レヲ貼シ、其上ヲ護罨布若クハフランネルヲ以テ包被シ、其部ヲ温蒸スル者ニシテ、刺激ヲ寛解シ、血行ヲ佳良ナラシメ、以テ疾病ノ治癒ヲ催進スルノ効アリ。

第二百十六章 芥子泥

〔第八〇一項〕芥子泥 ハ芥子末ニ温湯ヲ攪和シ、布片ニ塗り用ユルモノニシテ、下痢、出血等ニヨリ、虚脱セルノ際、之レヲ四肢ニ貼シ、若クハ呼吸困難ナルニ當リ、胸部ニ貼スルモノナリ。而シテ五分乃至三十分時ヲ經、患者、疼痛ニ耐エ難キニ至ラバ、之レヲ除去ス可シ。

第二百十七章 乾角及ビ血角

第八〇二項 乾角

ハ内部ノ血液ヲ表面ニ吸引誘導スルガ爲メニ胸部若クハ背部ニ貼用スルモノナリ之レニ要スル硝子器ヲ吸角ト云フ而シテ之レヲ貼用スルニハ醫師ヨリ命ゼラレタル部ニ於テ石炭酸水ノ洗滌ヲ施コシ吸角内ノ空氣ヲアルコールランブ上ニ暖タメ以テ之レヲ稀薄ニシ極メテ急速ニ吸角ヲ其局部ニ貼ス可シ此ノ如クスルトキハ吸角内ノ空氣稀薄トナルニヨリ冷却スルニ從ヒ之レヲ充タサンガ爲メニ皮膚ハ吸角内ニ向テ膨出シ其皮膚内ニ多量ノ血液ヲ吸引スルモノナリ

第八〇三項 血角

ハ吸角ヲ貼スルノ部ニ豫カジメ數多ノ小切創ヲ造リ吸角ニヨリ血液ヲ吸出スルノ法ナリ之レヲ行フニハ先ヅ乾角ヲ貼シテ血液ヲ吸引シ次ニ其部ニ瀉血刀又ハ人工蟻針ヲ抵テ其把子ヲ壓シテ刀尖ヲ皮膚中ニ刺入セシメ而シテ後チ吸角ヲ貼用シ血液

ヲ吸引流出セシムルモノナリ之レヲ施コスノ前瀉血刀ハ石炭酸水中ニ浸シ充分ニ消毒センコトヲ要ス此ノ法モ亦固ヨリ醫師ノ命ニヨリテ行フ可キモノトス血角ヲ貼セルノ後ハ温石炭酸水ヲ以テ洗ヒ去リ石炭酸油ヲ蘸セル布片又ハ綿花ヲ抵テ綳帶ヲ施コス可シ

第二百十八章 水蛭

第八〇四項 水蛭

ハ局部ノ血液ヲ排除センガ爲メ充血症等ニ用ユ而シテ之レヲ貼スルニハ其局部ヲ清潔ニシ糖水又ハ乳汁ヲ塗り蟲體ヲ布片又ハ紙片ニ包ミ其口ヲ皮面ニ接シ以テ之レヲ貼ス可シ或ハ數箇ヲ貼用セント欲セバ其全數ヲ硝子管又ハ吸角中ニ入レテ之レヲ貼スルヲ可トス又水蛭ヲ除去セント欲セバ蟲體ニ少許ノ食鹽ヲ撒布ス可シ若シ又誤リテ水蛭ヲ嚙下セルコトアラバ食鹽水ヲ飲用ス可シ水蛭ハ直チニ死スルモノナリ水蛭ヲ貼スルノ數ハ醫師ノ命ニヨリ之ヲ定メ而シテ水蛭落去セルノ後久シク出血セシムルノ要アラバ温

水ヲ以テ屢拂拭ス可シ。出血ヲ止メント欲セバ、石炭酸水ニ浸セル綿花ヲ貼シ壓抵スルヲ以テ足レリトス。

第二百十九章、檢温器用法

「第八〇五項」檢温器ノ定度及ビ其種類

檢温器ニハ、氷點及

ビ沸騰點ノ兩點アリテ、其兩點間ヲ或ハ八十度、或ハ百度、或ハ百八十度ニ區別ス。其第一ヲ列氏檢温器（八十度）第二ヲ攝氏檢温器（百度）第三ヲ華氏檢温器（兩點間百八十度、氷點下三十度）ト稱ス。但シ、華氏檢温器ハ、氷點以下、更ニ三十二度ノ度目ヲ有スルガ故ニ、沸騰點ヲ二百十二度トナス。此種々ノ檢温器ハ、各國ノ習慣ニヨリ、其使用ヲ異ニス。我國ニ於テハ、通例氣候ノ温度ヲ計ルニ華氏ヲ供用シ、體温計測用其他學術上ニハ攝氏ヲ撰用シ、列氏之レヲ使用スルコトナシ。

「第八〇六項」三種檢温器ノ比較

各檢温器ニ就キ體温適度ノ室温浴湯ノ温度熱性子宮灌注ノ温度ヲ比較スレバ、次ノ如シ。但シ、列氏ハ、

我國ニ於テ用キザルガ故ニ括弧ヲ附シテ之レヲ別ツ。

室温	攝 17.5°	華 63.5°	（列 14°）
浴温	攝 35°	華 95°	（列 28°）
體温	攝 37°	華 98.6°	（列 29.6°）
熱性子宮灌注温	攝 35°	華 122°	（列 40°）

但シ、日本人ニ於ケル浴温ハ、三十八度乃至四十度ヲ以テ適當トス、或ハ、好ンデ高温度（凡ソ四十八度ニ至ル）ノ浴湯ニ入ルモノアリ。

「第八〇七項」三種檢温器ノ度数ヲ互ニ換算スル法

各檢温器ノ氷點及ビ沸騰點間ノ度数ヲ對照シテ、其割合ヲ求ムルニ、攝氏100°、華氏180°、列氏80°、即チ攝氏ハ、華氏ハ、列氏ハ、五度、九度、四度ノ割合トナル。故ニ此割合數、5、9、4ヲ記憶シ、互ニ其度数ヲ換算シ得ベシ。今攝氏ヲ列氏ニ改メ、其攝氏ノ度ニ、列氏ノ割合數、4ヲ乘シ、次ニ攝氏ノ5ヲ以テ除ス可シ、即チ次ノ如シ。

$$\text{攝 } 17.5 \times 4 \div 5 = \text{列 } 14$$

$$(17.5 \times 4) + 70 = 70 + 5 = 114$$

之レニヨリテ攝氏十七度五分ハ列氏十四度ナルヲ知ル可シ。之レニ反シ、列氏ヲ攝氏ニ換ヘント欲セバ、其列氏ノ度ニ攝氏ノ「 $\frac{5}{9}$ 」ヲ乗シ、次ニ列氏ノ「 \pm 」ヲ以テ除ヌ可シ。即チ次ノ如シ。

$$\text{列 } 38^{\circ} \times \frac{5}{9} + 4 = 35^{\circ}$$

$$(28 \times \frac{5}{9}) + 40 = 140 + 4 = 35$$

之レニヨリテ、列氏二十八度ハ攝氏三十五度ナルヲ知ル。此故ニ現在セラル検温器「甲」ノ度数ニ是レヨリ算出ヌ可キ。検温器「乙」ノ割合數ヲ乗ジ、此ノ得タル數ヲ、甲ノ割合數ヲ以テ除ヌルトキハ、乙ノ検温器ノ度数ヲ得ヘシ。前ニ記セル二種ノ算式ヲ、文字ヲ以テ記スレバ、次ノ如シ。

$$\frac{\text{攝氏ヲ列氏ニ換算スルニハ}}{\text{攝氏ノ度} \times \text{列氏ノ割合數(4)} \div \text{攝氏ノ割合數(5)} = \text{列氏ノ度}$$

$$\text{(節約スレバ)} \quad \text{攝} \times \text{列} \div \text{攝} = \text{列} \quad \text{トナル}$$

$$\frac{\text{列氏ヲ攝氏ニ換算スルニハ}}{\text{列氏ノ度} \times \text{攝氏ノ割合數(5)} \div \text{列氏ノ割合數(4)} = \text{攝氏ノ度}$$

$$\text{(節約スレバ)} \quad \text{列} \times \text{攝} \div \text{列} = \text{攝} \quad \text{トナル}$$

又攝氏ヲ華氏ニ換算スルニハ、其理、固ヨリ同一ナリト雖ドモ、華氏ハ、他ノ検温器ト異ニシテ、氷點ヲ零度トナサズシテ、卅二度ト定メタルガ故ニ、算出シ得タル度数ニ、更ニ氷點以下ノ三十二度ヲ加フルヲ要ス。故ニ次ノ如シ。

$$\frac{\text{攝氏ヲ華氏ニ換算スルニハ}}{\text{攝氏ノ度} \times \text{華氏ノ割合數(9)} \div \text{攝氏ノ割合數(5)} = \text{華氏ノ度} + 32$$

$$\text{攝氏 } 37^{\circ} \times 9 + 5 = \text{華氏 } 66,6^{\circ} \quad 66,6^{\circ} + 32 = 98,6^{\circ}$$

即チ攝氏三十七度ハ、華氏九十八度ナルヲ知ル。

此ノ如ク、華氏ノ検温器ハ、他ノ攝氏及ビ列氏ニ比スルニ、氷點以下三十二ナル數ノ加ハリ居レルガ故ニ、今、若シ華氏ノ度数ヲ、攝氏若クハ列氏ニ換算セント欲セバ、先ヅ、始メニ、三十二ヲ減ジ、然ル後チ、一般ノ規則ニ從ヒ、割合ノ數ヲ乗除セザル可カラズ。即チ左ノ如シ。

$$\frac{\text{華氏ヲ攝氏ニ換算スルニハ}}{\text{華氏ノ度} - 32} \times \text{攝氏ノ割合數(5)} \div \text{華氏ノ割合數(9)} = \text{攝氏ノ度}$$

$$(\text{華氏 } 122^{\circ} - 32) \times 5 \div 9 = \text{攝氏 } 50^{\circ}$$

即チ華氏百二十二度ハ、攝氏五十度ナルヲ知ル可シ。

〔第八〇八項〕常度ノ體温 健康者ノ體温ハ、三十六度五分乃至三十七度五分ノ間ニ昇降シ、平均三十七度ヲ以テ常度トナス。而シテ、故ナク三十七度五分以上ニ昇ルモノハ、熱症ノ兆ニシテ、三十六度五分以下ニ降ルモノハ、失血、虚脱等ニ基因スルモノトス。但シ、運動セザル、虚弱ノ婦人ニ在リテハ、三十六度五分以下ナルコト多ク之レアリ。

〔第八〇九項〕體温ヲ上昇セシムル場合 體温ハ熱症ヲ患フルトキハ、即チ上昇ス可シ、而シテ熱症ニアラズト雖トモ、場合ニヨリ、體温ノ充進ヲ現ハス可シ。運動、温浴、精神ノ感動、飲食ノ攝取、即チ是レナリ。疾病ニヨリ、體温急劇ニ充進スルトキハ、惡寒ヲ訴フ、甚ダシキハ戰慄ヲ現ハスモノトス。

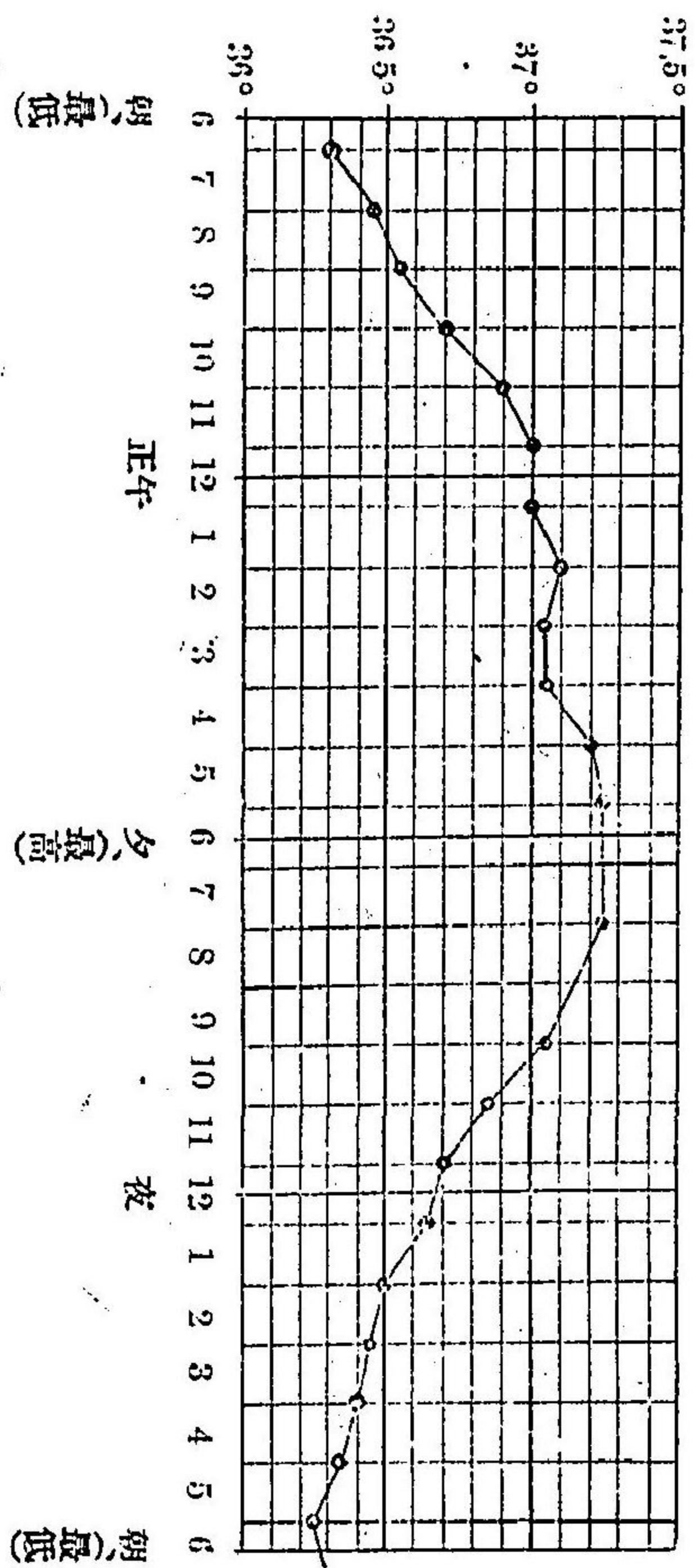
第二百二十章 體温ヲ檢スル法

〔第八一〇項〕體温ノ検査 ハ腋窩ニ於テ之レヲ施コスヲ常トス。即チ、一手ヲシテ、衣袖ヲ脱セシメ、衣片ヲシテ、腋下ニ介在セシムルコトナク、

腋窩ニ發汗アラバ、之レヲ拭去シ、檢温器ノ球部ヲ腋窩ノ中央ニ於テ、密ニ之レヲ挿ミ、其腕ノ肘部ヲ強ク、胸ノ前面ニ持チ來シ、十五分間ヲ經テ、其度ヲ檢定スルヲ要ス。其時間短キトキハ、水銀ノ昇ルコト極度ニ達セザルガ故ニ、差違ヲ生ズ可シ。時トシテハ、直腸又ハ腔内ニ於テ、體温ヲ計測スルコトアリ。此等ノ部位ニ在リテハ、腋窩ニ比スルニ、凡ソ一度高シ。即チ健康者ノ體温ハ、腋窩ニ於テハ、平均三十七度、直腸又ハ腔内ニ在リテハ、三十八度ナリトス。

〔第八一一項〕一日中、體温ノ變化 ハ各人種々ノ事情ニヨリ、悉ク同一ナルヲ得ズト雖トモ、其大體ニ至リテハ、普ク、相ヒ一致スルモノトス。今其一例ヲ舉グレハ、一日中體温ノ最低キハ、午前六時(三六、三度)ニシテ、夫レヨリ漸次ニ上昇シ、正午十二時ニ至リテ、頗ル高ク(三七、〇度)更ニ午後六時ニ至リテ、最高度(三七、五度)ニ至リ、後チ漸ク低下シ、中夜(三六、七度)ヨリ翌日午前六時ニ至リテ、最低度(三六、三度)ニ達シ、後チ再び前日ノ如ク昇降スルモノトス。

圖三十三百第



(スホヲ例一)表ノ化變體中一日

〔第八一二項〕體温ト脈搏トノ對稱 體温増加スルトキハ脈搏モ亦隨ツテ増加スルモノナリ。今體温三十七度ヨリ四十二度ニ上昇スルトキハ脈搏ノ増加スルノ概テ次ノ如シ。

體温	度	三七、〇	三八、〇	三九、〇	四〇、〇	四一、〇	四二、〇
一分時間脈搏		七九	九一	一〇〇	一〇九	一二〇	一三八

但シ脈搏體温ノ如キハ甚ダ變遷シ易キモノナルガ故ニ各檢者ノ記スル所常ニ同一ナラザルヲ見ル可シ。

第二百二十一章 脈搏ノ検査

〔第八一三項〕脈數ノ變化 脈數ハ種々ノ事情ニヨリテ變化ス。即チ年齢男女各人ノ性質運動體温ノ關係精神ノ感動飲食ノ攝取藥劑ノ應用是レナリ。今男女ニ就キ之レヲ比較スレバ每一分間男子ハ七十二搏女子ハ八十搏ナリトス。

〔第八一四項〕年齢ニヨル脈搏ノ差異 初生兒ノ脈搏一三五ハ最モ多ク年齢ノ加ハルニ從ヒ漸次ニ減少シ二十年乃至五十年ニ於テハ最モ少ク凡ソ七〇後チ高年ニ至レバ再ビ増加ス可シ。即チ每一分ノ脈搏概テ次ノ如シ。但シ男女ヲ平均セルモノナリ。

135	兒生初
125	歲一
100	歲三
92	歲五
90	歲十
78	歲五十
70	歲十二 至乃 歲十五
74	歲十六
79	歲十八

〔第八一五項〕脈搏ト呼吸トノ對稱 脈搏ノ體温ト共ニ増減スルガ如ク呼吸モ亦體温ノ進ムニ從ヒ其數増加ス可シ故ニ脈搏ト呼吸トハ相伴フテ増減シ一回ノ呼吸ハ概テ四回ノ脈搏ト一致スルモノナリ但シ通例呼吸ハ脈搏ニ於ケルガ如ク緊要ナラズ大人ノ呼吸數ハ一分間凡ソ十八回ナリトス。

第二百二十二章 排泄物

〔第八一六項〕人體排泄物ノ主要ナルモノハ炭酸(肺ヨリ出ヅ)水蒸氣(肺及ビ皮膚ヨリ排泄セラル)尿及ビ糞便トナス茲ニハ尿及ビ糞便ニ就キ説述ス可シ。

〔第八一七項〕尿

ハ男女ニヨリテ其量ヲ異ニスレドモ大人一晝夜ノ尿量ハ平均一二〇〇トナス外氣ノ温度攝取セル液量ニヨリテ著シク其量ヲ異ニス而シテ身體温暖ヲ感ズルトキハ尿中ニ排泄セラル可キ水分ハ水蒸氣若クハ汗トナリテ皮膚及ビ肺中ヨリ發散スルニヨリ尿量減少ス可シ肺中ヨリ呼吸ニ伴フテ排出セラル水量ハ大約三三〇〇乃至六四〇〇ニシテ皮膚ヨリ出ヅルモノハ更ニ此量ノ一倍若クハ〇七倍ニ達スト云フ。

健康體ノ尿

ハ恰モ煮沸水ノ如ク毫モ微菌ヲ含マズ故ニ通例新タニ微菌ヲ混入セシムルヲナケレバ決シテ腐敗ヲ生ゼズ此ノ如ク尿ハ微菌ヲ含有セザルヲ以テ創傷ニ觸レシムルモ通常化膿ヲ生ズルノ恐レナシ又傳染病者ノ尿ト雖ドモ其微菌ノ尿中ニ現出スルハ稀ナリトス。

〔第八一八項〕糞便

ハ大人一日ノ排泄量平均一七〇〇トナス但シ肉食スレバ其量少ナキモ多量ノ粗食ヲ取ルトキハ甚ダシク増量ス可シ糞便ハ健康ニ於ケルモノト雖ドモ夥ダシク各種ノ微菌ヲ混ジ創傷ニ觸

レシムルトキハ、恐ル可キ、化膿若クハ、傳染症ヲ發ス可シ、殊ニ、傳染病者ノ糞便ハ、最モ危険ニシテ、之レニヨリテ、傳播スルモノ甚ダ多シトス。

新訂 產婆學講本 下卷終

附 錄

第二百二十三章 内回轉術(双合同轉術)

〔第八一九項〕產婆ニシテ内回轉術ヲ行フ可キハ、
場○合○ヲ○以○テ○限○リ○ト○ナ○ス○可○シ○。 次○ギ○ノ

〔第一橫位〕ニシテ、子宮口ノ既ニ全ク開ケルニ際シ、其產婦、陣痛強劇ニシテ、醫師ノ來着ヲ待ツトキハ、產婦ノ生命ヲ危険ナラシムルモノ。

〔第二橫位〕ニシテ、子宮口開大セルノ際、陣痛強劇ナラズト雖ドモ、醫ノ來診ヲ得ル能ハザルモノ。

〔第三前置胎盤〕ニシテ、子宮口既ニ開ケルノ際、危険ノ出血ヲ現ハシ、栓塞法ヲ施コスト雖ドモ、到底止血セズ、患婦ハ、急性貧血ニヨリ、大ニ危篤ニ迫レルノ時ニ當リ、醫師ノ來ルコト大ニ遲延ス可キカ、若クハ不明ナルモノ。

〔第四產婦卒然トシテ死亡セルニ當リ〕(心臟麻痺若クハ肺水腫等ニヨリ)胎兒尙ホ生存シ、子宮口既ニ開大セルモノ。

〔第八二〇項〕内回轉術ノ種類 内回轉術ニ二種アリ、甲橫位ニ於ケル内回轉術乙頭蓋位ニ於ケル内回轉術是レナリ、

第二百二十四章 橫位ニ於ケル内回轉術

〔第八二二項〕施術ノ準備

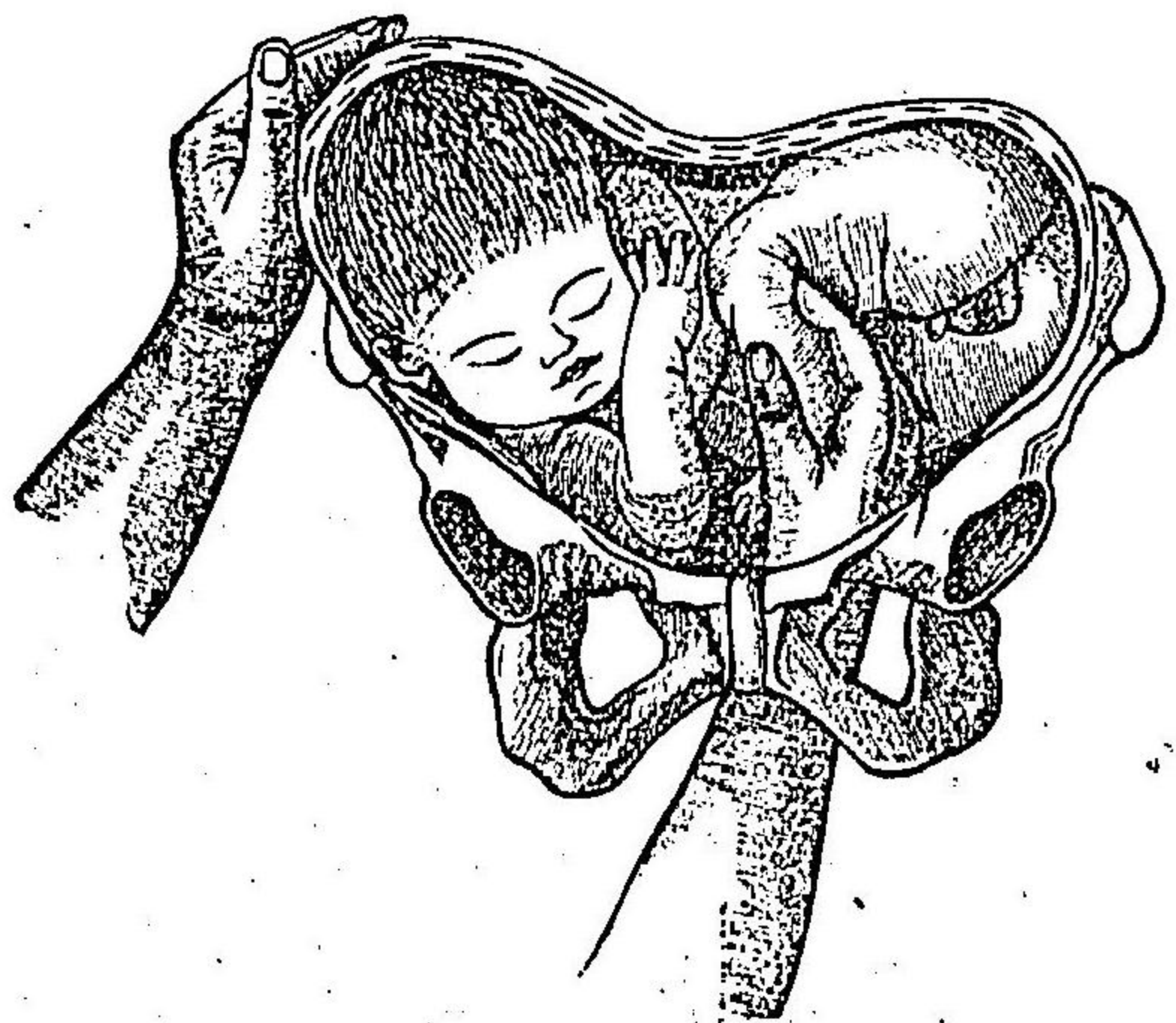
先ツ直腸膀胱ヲ空虚ナラシメ、法ニ從ツテ手及外陰部ヲ消毒シ、腔内ニハ二%石炭酸水ヲ以テ灌注ヲ施コシ、指ヲ送入シ、之レヲ洗ヒ、産婦ハ兩足ヲ屈シテ仰臥セシメ、臀下ニハ枕子ヲ挿入シ、之レヲ高クシ、若シ寢臺ヲ用ユルトキハ、橫床位若クハ半橫床位(第三篇第三五八項及ビ第三五九項)ヲ與フ可シ、手ハ常ニ胎兒ノ臀部ニ對向スルノ一手ヲ撰用ス可キモノニシテ、第一橫位ナルトキハ左手、第二橫位ナルトキハ右手ヲ用ユ可シ、又、回轉ヲ終レルノ後ハ、第一橫位ハ之レヲ第二足位トナシ、第二橫位ハ之レヲ第一足位トナサシムルヲ要ス、而シテ、兒足ハ、可及的兩足ヲ把握スルヲ佳トス、若シ、又一足ナルトキハ、足位トナセ、ル後チニ、先進ス可キ一足ヲ擇ブ可シ、故ニ、第一橫位ニ在リテハ、右足、第二

橫位ニ於テハ、左足ヲ把握ス可キモノトス、

〔第八二二項〕施術ノ方式

衣袖ヲ舉上シ、法ニ從ツテ、肘部ニ至ルマデ手ヲ消毒シ、第二篇第一八六項之ニ石炭酸油ヲ塗リ、(外陰部モ亦消毒セルノ後)其指ヲ收束シテ圓錐形トナシ、他ノ手指ヲ以テ陰唇ヲ開キ、徐々ニ腔内ニ送入ス可シ、但シ、陣痛起ラバ、其進行ヲ停メ、陣痛ノ止ムヲ待テ、之ヲ進マシムルヲ要ス、又、兒ノ手若シ露出セバ、臍帶結紮紐ヲ結ビ付ケ、子宮内ニ退却セシメザルヲ要ス、術者ノ手、既ニ子宮内ニ達セバ、現存セル卵膜ハ、之ヲ破開シ、直チニ子宮内口ニ入り、豫カジメ、察知セル足ノ部位ニ向フテ進ミ、他ノ一手ハ、外方ヨリ、同ジク其足部ニ抵テ、之レヲ内手ニ向ツテ押壓シ、以テ足ヲ把握シ易カラシム、若シ、胎水既ニ漏泄シ、子宮腔内ニ餘地ナク、手ヲ送入スルヲ難キ時ハ、先ヅ兒ノ背面ニ沿ヒ、臀部ニ至リ、次ニ大腿ニ隨ヒ、以テ足部ニ達ス可シ、而シテ、兩足ヲ把持スルニハ、兩足踝ノ中間ニ中指ヲ挾ミ、示指及ビ環指ヲ、各足ノ外側ニ貼シ、一足ナルトキハ、足踝部ヲ示中兩指間ニ執持スルヲ要ス、此際、足ト手トヲ誤ルヲナク、且ツ、足ノ左右

第 百 三 十 四 圖



横位ニ
於ケル
内回轉
ノ圖

或ハ、單ニ一足ノミ把持スルヲ得テ、之ヲ牽下スルニ、足部ハ陰裂ニ達スルモ、臀部ノ回轉セザルヲアリ。此ノ如キモノハ、臍帶結紮ヲ以テ、之レニ結着シテ、執持シ、更ニ手ヲ子宮内ニ挿入シ、他ノ一足ヲ挽出スルヲ要ス。

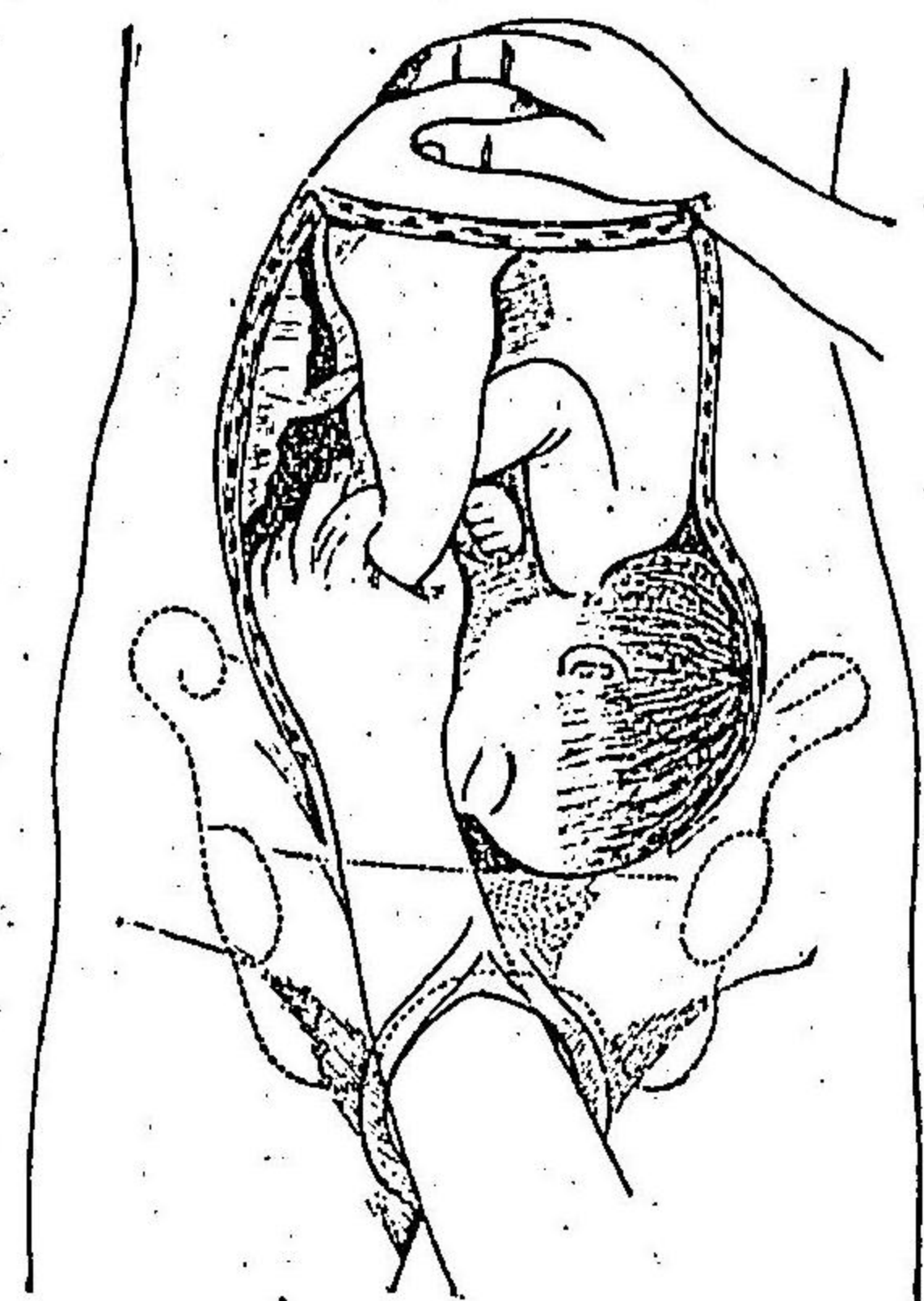
モ亦善ク辨識セザル可
カラス(第六篇第六〇四
項三)此ノ如クニシテ、
一足若クハ兩足ヲ把持
セバ、陣痛間時ニ於テ牽
引シ、骨盤後壁ニ就キ、之
レヲ挽出シ、兒ノ膝部ヲ
陰裂間ニ至ルマデ牽引
ス可シ。此ノ如ク、兒足ヲ
牽下シ終レバ、即チ回轉
術ヲ全フセル者ナリ。

總テ回轉後ノ處置ハ第八二四項ニ説述セリ。

第 二 百 二 十 五 章 頭 位 二 於 ケ ル 内 回 轉 術

「第八二三項」準備其他手術法ノ大體ハ横位ニ於ケルモノト異ナルヲナシ、但シ、手ハ兒ノ腹面ニ對向ス可キモノヲ用ユ。故ニ第一頭蓋位ニ在リテハ、左手、第二頭蓋位ニ於テハ、右手ヲ擇ブ可キ者トス。又、外方ノ手ハ、之レヲ子宮底ニ貼シ、兒足ヲ壓下シ、把持シ易カラシム。而シテ、足ヲ執リ牽下スルノ際、外手ヲ以テ、兒頭ヲ壓

第 百 三 十 五 圖



頭蓋位
ニ於ケ
ル内回
轉術ノ
圖

以テ、兒頭ヲ壓

上シ、子宮底ニ送ルヲ勉ム可シ。横位ニ比スレバ、回轉スルヲ容易ナリ。
 「第八二四項」回轉後ノ處置 前置胎盤ニ於ケル出血ノ爲メ、回轉術ヲ行ヒルトキハ、兒足ヲ牽下スレバ止血ス可キガ故ニ、通例ハ、爾後之レヲ自然ニ委テ、挽出法ヲ行フ可カラズ。然レドモ、若シ胎兒ノ心音緩徐トナリ、假死ニ陥ラントスルノ徵ヲ見バ、猶豫ナク挽出ヲ施コサル可カラズ。其挽出法ニ就キテハ、第三編、第八十五章、第三六四項ニ説述セリ。
 産婦ノ死セルガ爲メニ、回轉術ヲ施コセルモノニ在リテハ、速カニ挽出法ヲ行フ可キコト勿論ナリトス。

第二百一十六章 産婆携帶用器具

「第八二五項」産婆携帶用器具ノ主眼 トスル所ハ、防腐用、洗滌用及ビ綳帶用諸品并ニ、灌腸用及ビ止血用諸品、救急用藥品、其他、臨時必用ノ物品ヲ備フルニ在リ、而シテ、其諸品ハ、携帶使用共ニ簡單ニシテ、且ツ容易ニ調製シ得ラレザル可カラズ。我國ニ於テハ、從來未ダ此目的

ニ適合セル携帶用産婆器具ナルモノ殆ト之ナク、實地ニ當リテ、大ニ不便ヲ感ゼリ。故ニ著者ハ、次ノ器具、物品ヲ製作撰定シ、之レヲ産婆、日常ノ用ニ供シ、大ニ便利ヲ獲タリ、今其品目ヲ記載ス可シ。

「第八二六項」産婆携帶用器具ノ品目

- 一、 イルリガートル、護謨管凡ソ一迷的兒半及ビ護謨壓止器ヲ具ス。
- 二、 腔内用嘴管。
- 三、 灌腸用嘴管。
- 四、 金屬カテーテル。
- 五、 英製彈力カテーテル。
- 六、 テラトン氏カテーテル。
- 七、 聴胸器及ビ時計 (此二品ハ通例、別ニ携帶スルヲ便ナリトス)
- 八、 檢溫器。
- 九、 浴用檢溫器。

十、	爪櫛子。	
十一、	刷毛。	
十二、	ピンセット。	
十三、	石鹼。	
十四、	溶解石炭酸。	六〇、〇
十五、	二十倍石炭酸油。	三〇、〇
十六、	オレーフ油。	三〇、〇
十七、	ホフマン液。	二〇、〇
十八、	礮砂精。	二〇、〇
十九、	桂皮丁幾。	二〇、〇
二十、	灌腸用石鹼末。	一五、〇
廿一、	礮酸末。	一〇、〇
廿二、	食鹽。	八、〇
廿三、	三〇、〇液量計。	

廿四、	瓦設一迷的兒。
廿五、	脫脂綿。二枚。
廿六、	晒布三迷的兒半(腹帶等ニ用ユ)
廿七、	丁字繃帶。
廿八、	臍帶剪刀。
廿九、	臍帶結紫絲。
三十、	臍繃帶。
卅一、	礮酸末撒布器。
卅二、	小兒用灌腸器。
卅三、	便器。
卅四、	洗滌用受水盤。
卅五、	洗滌消毒用盥一組(五個)
卅六、	攜帶用燭器(手燭)
卅七、	前垂布。

是レナリ。右ノ中、ビンセツト、灌腸用石鹼末、硼酸末、撒布器、受水盤、洗滌消毒用盥及ビ携帶用燭器ノ七種ハ、絶テ他ノ産婆携帶用器具中ニ之レアルヲ見ザル所ナリ。然レドモ携帶スルコト不利ナラズ且ツ應用ノ至便ナルヲ以テ、余ハ之レヲ産婆用器具中ニ加ヘタルモノナリ。殊ニビンセツトノ如キハ、從來ノ製ヲ改メ、其末端ヲ全ク鈍圓ナラシメ、毫モ使用上ノ危険アルコトナカラシム。之レヲ實驗ニ徴スルニ、産婆ノ清潔消毒上ニ於テ、極メテ便益アルヲ知レリ。洗滌消毒用盥ニ至リテハ、産婦ノ家ニ就キ、盥其他ノ物品ヲ以テ假用シ得ザルニアラズト雖ドモ、通常ハ其家頗ル富裕ナルニアラザレバ、之レヲ給スルコト難ク、且ツ不潔ニシテ消毒ヲ妨グルノ恐レアリ。故ニ醫師若クハ産婆ハ、數個ノ盥ヲ携帶スルコト、實際上、甚ダ緊要ナリトス。燭器ノ如キモ亦、普通民家ニ在リテハ、之レヲ有セザルコト甚ダ多ク、而シテ之レヲ所有スト雖ドモ、許多ノ不潔物ヲ添附シ存スルガ故ニ、其妨害甚ダシク、且ツ反射鏡ヲ有セザルガ故ニ、前方ヲ照輝スルコト能ハズ。加之、産科ノ業務ハ、多ク夜間ニ存シ、假使ヒ晝間ナリトスルモ、

檢視ス可キ局部ハ、光明ニ背クコト數々ナルヲ以テ、燭器ヲ携帶シテ、其便ニ供スルハ、實際上、頗ル肯綮ヲ得タルモノト信ズ。

〔第八二七項〕産婆携帶用器具ノ説明

〔1〕鐵葉製洗滌用受水盤 ニシテ縦徑二七、五仙迷、深サ六、五仙迷ヲ有シ、一線ハ波狀ニ、一線ハ弓狀ニ彎曲シ、他ノ二線ハ直形ヲナス。屈曲線ハ適宜ニ彎部ノ彎曲ニ適合セシム。

〔2〕亜鉛製便器 ニシテ長サ二三、五仙迷、幅一六、五仙迷、高サ十二仙迷、離解シ得ベキ蝶番ニヨリ聯接セラレタル蓋ヲ具ヘ、其蓋ヲ反廻固定シ、便器ノ尖頭トナシ、以テ臀下ニ挿入シ得可カラシム。適度ノ内容一千五百瓦、清潔上ノ用意周到ナリ。

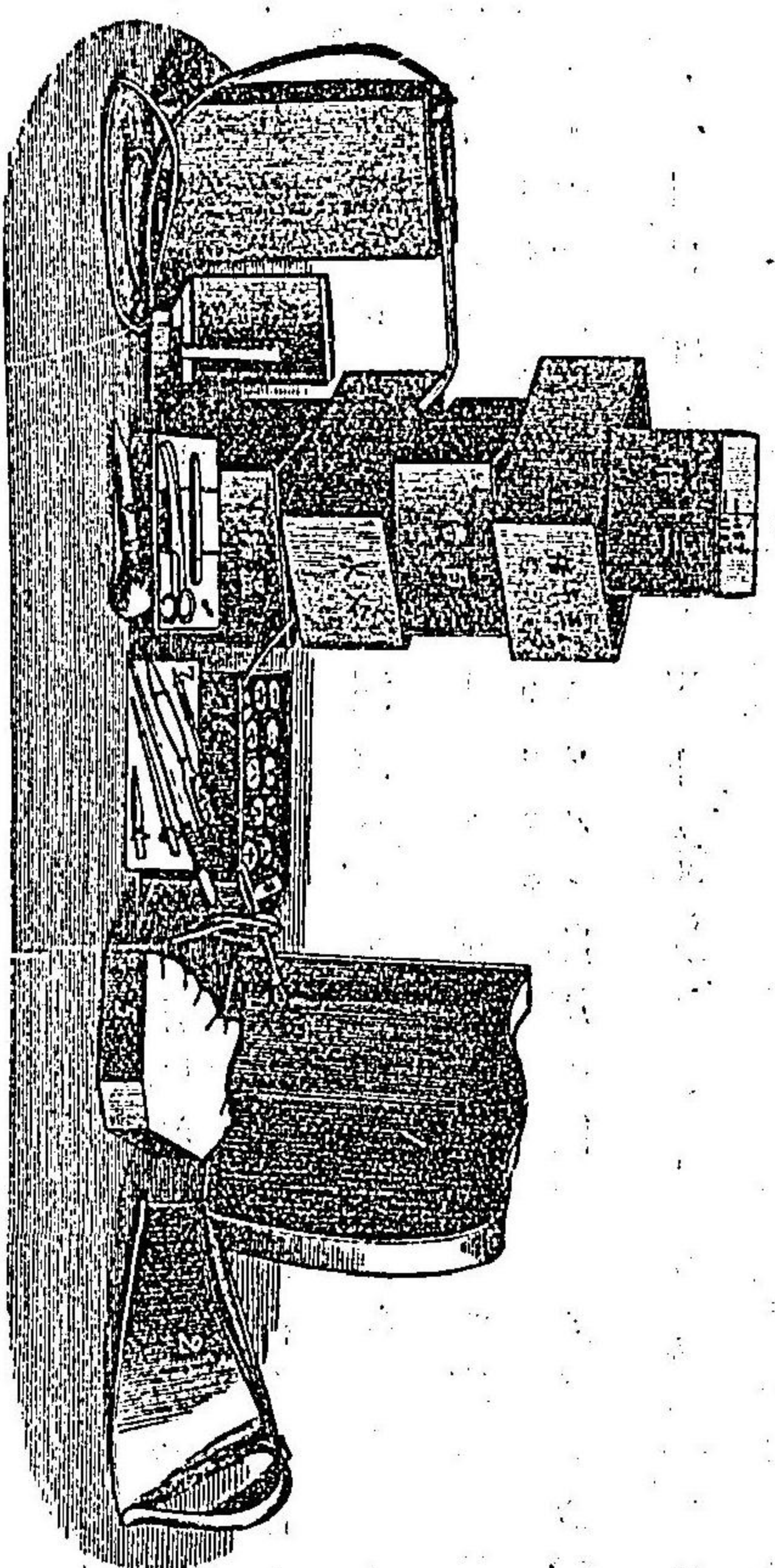
〔3〕洗滌消毒用盥 ハ漸次ニ相重容ス可キ五個ノ鐵葉製盥ニシテ、最内(最小)ノ一盥(直径)ハ好適ニイリ、ガートルヲ容致ス可シ。其大サ縦徑二十四仙迷半、幅徑十三仙迷半、深サ九仙迷、内壁ニ五百瓦ヨリ二千五百瓦ニ至ルマデノ標線ヲ附シ、以テ内容液ノ量ヲ示シ、消毒液ヲ調製ス

ルノ便ニ供ス。此盥ヨリ漸次ニ其大サヲ加ヘ、最外即チ最大ナル者、温湯ノ字ヲ符記ス。ハ、縦徑二十五仙迷半、幅徑十五仙迷半、深サ九仙迷ナリ。次圖ノ如ク、各盥ニ「30」「50」「100」ト記セルハ、三十倍、五十倍及ビ百倍ノ石炭酸水ヲ蓄フルノ符ニシテ、冷水及ビ温湯ハ即チ冷水ト「温湯」トヲ容ル可キモノナリ。

〔4〕亞鉛製イルリガートル 外高二十三仙迷、深サ二十仙迷半、
(底ハ、最下ヨリ二仙迷) 幅徑九仙迷、縦徑十三仙迷ヲ有シ、二千瓦ノ液ヲ容ル可ク、亞鉛製ニシテ「6」ノ藥品器械函ヲ好適ニ挿容セシム。イルリガートルノ内面ニハ、容液ノ五百瓦、千瓦、乃至二千瓦ニ至ルマデ、各々線ヲ附シテ目標トナセリ。又イルリガートルノ底下、高サ二仙迷半ノ腔内ニハ、液ノ流出管ヲ具ヘ、且ツ常時ハ、玆ニ護謨管ヲ總廻收容シ、之レヲ護謨壓止器ト共ニ小木箸(石炭酸水ヲ調製スル際、攪和スルニ用ユル)ニヨリ簡易確實ニ支持セシム。

〔5〕鐵葉製繃帶用品函 ニシテ縦徑二十三仙迷、幅徑十三仙迷、深サ三仙迷、使用ノ便ニヨリ、其四隅ヲ缺ク(圖中ニハ二隅ヲ缺ケル他ノ器

圖 六 十 三 百 第



産婆携帶用器具ヲ開展シテ示セル圖

- 1、大受水鉢
- 2、便器
- 3、洗滌消毒用器
- 4、イルリガートル
- 5、繃帶用品函
- 6、器械藥品函
- 7、二、溶解石炭酸
- 8、三、石炭酸液
- 9、四、阿列布油
- 10、五、桂皮丁義
- 11、六、硝砂精
- 12、七、硼酸末
- 13、八、灌腸用石炭酸末
- 14、九、三〇〇液
- 15、十、量計
- 16、石、石鹼
- 17、外ニカチー
- 18、爪鏡子、刷毛
- 19、器械挿付板
- 20、カチーナル、ビンセツト
- 21、灌腸用器
- 22、有ス
- 23、繃帶用品函
- 24、携帶用燭器

ヲ現ハス瓦設晒布丁字綑帶及ビ脱脂綿ヲ容ル又同形ノ蓋アリテ栓塞法等ヲ施コスノ際脱脂綿ヲ防腐液ニ浸シ之レヲ容ルノ用ニ供ス。

〔6〕蓋ヲ有スル亞鉛製藥品器械函 ニシテ縦徑二十仙迷、横徑十三仙迷、深サ九仙迷、内ニ掃除ノ際拔去シ得キ區劃ヲ有シ、溶解石炭酸二壘、石炭酸油一壘、オレーフ油一壘、ホフマン一壘、礮砂精一壘、桂皮丁幾一壘、硼酸末一壘、灌腸用石礮末一壘、液量計、石礮及〔7〕器械插附板〔8〕携帶用品函並ニリ、硼酸末撒布器、腔内洗滌用嘴管、英製彈力カテーター、ネラトン氏カテーター、小兒用灌腸器、浴用檢温器ノ六品ヲ插附セル一板(圖中之ヲ缺ク)ヲ藏ス可シ。此函ニハ同形ニシテ、深サ六仙迷半ヲ有スル蓋適度ノ内容千二百瓦ヲ具ヒ、カテーターノ挿入ノ際尿ヲ受容スル等ノ用ヲナサシム。其一邊ヲ圓形ナラシムルハ、此用ニ便ナラシメンガ爲メナリ。

〔7〕爪鏟子、刷毛、長ピンセット、金屬カテーター及ビ灌腸用嘴管ヲ插附セル亞鉛板 ニシテ〔6〕器械函中ニ在ル適應ノ溝中ニ插嵌セラルモノナリ。

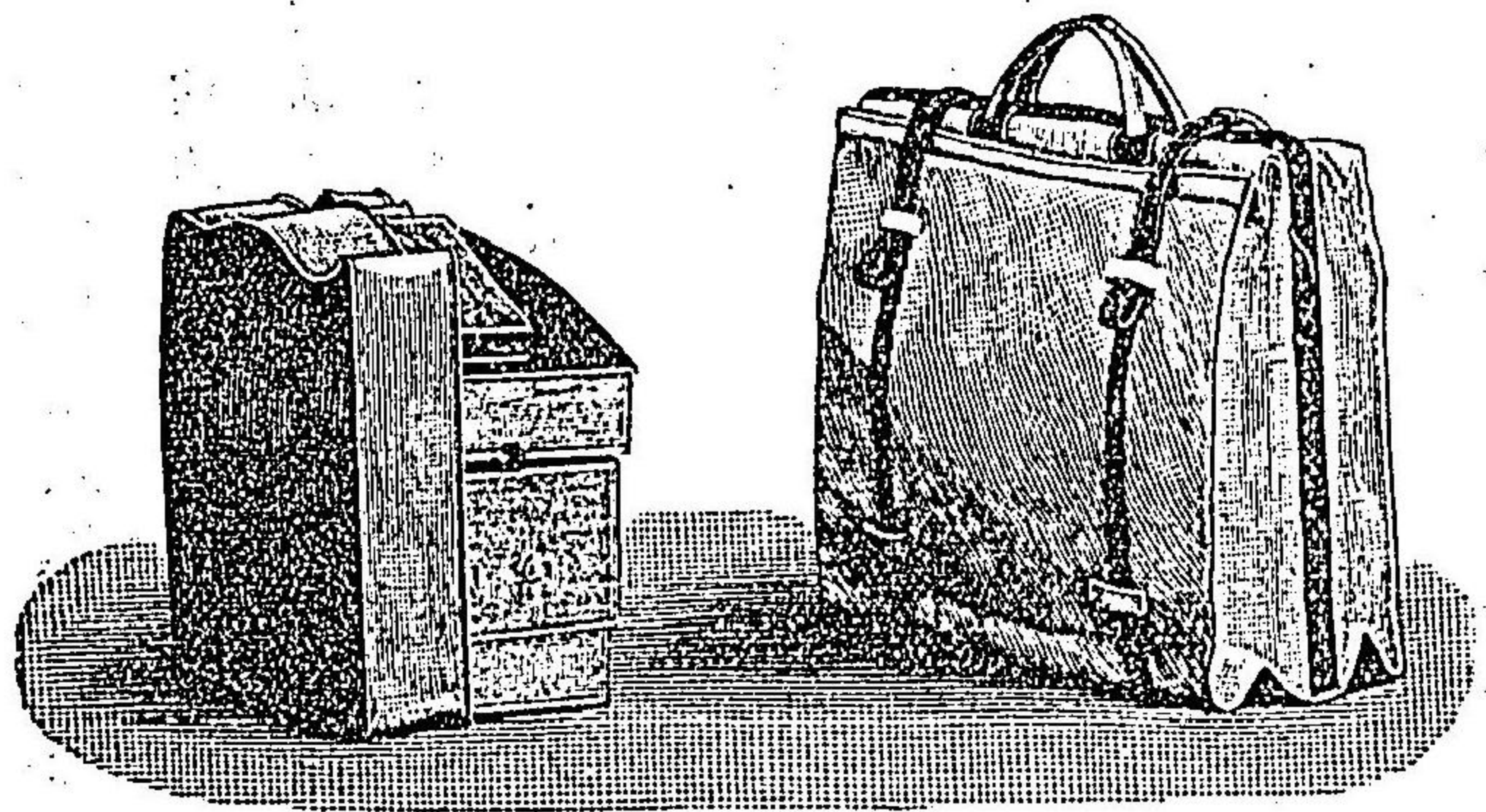
〔8〕亞鉛製ノ携帶用品函 ニシテ、携帶剪刀、管狀硼酸末撒布器、臍帶結紮絲、臍帶斷端被包用瓦設片、脱脂綿ノ小片及ビ臍綑帶ヲ容ル、縦徑十五仙迷、幅徑七仙迷半、深サ三仙迷、同形ノ蓋ヲ有シ、之レニ防腐液ヲ盛リ、剪刀及ビ結紮絲ノ消毒ヲナサシム。此ノ如ク此函中、別ニ硼酸末撒布器及ビ脱脂綿ヲ容ルハ、贅物ノ感ナキニアラズト雖ドモ、實際上ニハ該函ノミヲ携帶シテ、小兒ノ家ニ赴クノ便アルニヨリ、特ニ此ノ如ク定メタルモノナリ。

〔9〕硼酸末撒布器 ニシテ、外陰部ノ小損傷等ニ硼酸末ヲ撒布スルニ用ユ。產婆若シ此器ヲ所持セザルトキハ、腔入口、前庭等ニ防腐藥ヲ撒布スルコト不十分ナルノミナラズ、漫リニ藥品ヲ散失セシムルノ弊アリ。

〔10〕鐵葉製携帶用燭器(手燭) ニシテ、縦徑十三仙迷、幅徑八仙迷、深サ二仙迷、蝶番ヲ以テ聯接セル二筐ヨリナリ、其關節ヲ開クトキハ、兩筐九十度ノ角度ヲナシ、ハ、基底ヲナシ、ハ、反射鏡ヲナス。反射鏡ヲ有セ

第三百七十七圖

全產婆用器
ヲ提籃中ニ
收メタル圖



ザル燭器ハ、產科ノ處置ニ就キ甚ダ不便ナルモノナリ、又此器ノ要部ハ、悉ク離解セシメ得ベキガ故ニ、消毒清潔上ニモ不完全ヲ感ズルコトナシ、其他筐中ニハ、常ニ燐寸及ビ蠟燭ヲ蓄フルガ故ニ、一モ他人ヲ勞セズ、數秒時ヲ出テズ燭光ヲ點シ得ベシ、此燭器ハ平常之レヲ懷中ニスルモ亦甚タ便ナリ、特ニ旅行ノ際ヲ然リトス。

第三百八十八圖

產婆用器具
ヲ結束シ現
ハセル圖

此ノ如ク種々ノ器具ヲ鐵葉製若クハ亞鉛製トナセルハ、偏ニ隨所ニ容易ク製作シ得ベク、且ツ其價全器具代價八圓乃至十圓ヲ廉ナラシメンガ爲メナリ、若シ銅製若クハニッケル製トナサバ極メテ佳ナリ。

以上ノ諸器ヲ結束スレバ、第三百三十八圖ニ示スガ如ク、縦徑二十七仙迷半、幅徑十六仙迷半、高サ二十六仙迷半ノ一簇トナスヲ得ベク、而シテ、其一簇ノ左邊ヲナセル者ハ、大受水盤ニシテ、他ノ諸器ヲシテ、半ハ其内ニ容レシム、即チ其最上ナルハ燭器ニシテ、次ハ便器、最下湯ノ一字ヲ倒マニ現ハセルハ、洗滌消毒用盥ナリ、此盥内ニハ自餘ノ三十餘品ヲ藏スルモノナリ、此ノ如ク一簇ノ諸器ヲ、第三百三十七圖ニ示セルガ如ク、ツク製ノ提籃中ニ收ム、近時ツク製提籃ヲ便利ナル金屬函ニ改造セリ、清潔ニシテ使用上甚ダ便ナリ、又提籃中ニハ、適宜ニ聽胸器、檢温器、前垂布ヲ藏ス可シ、又產褥婦ノ回訪ノ際ノ如キハ、敢テ此全提籃ヲ携帯スルコトヲ要セズ、器械藥品函ヲ收メタルイェルリガートル及ビ前垂布ヲ携フルヲ以テ足

レリトス。其イルリガートル内器具ノ重量ハ二千四百瓦(凡ソ六百匁)一
手ヲ以テ輕ク之レヲ携帶ス可シ。其他、聽胸器、檢温器并ニ時計ハ、寧ロ懷
中ニ蓄フルヲ便ナリトス。

全産婆用器具ヲ收メタル提籃ハ、次ノ大サト重量トヲ有スルガ故ニ、産
婆ハ、通常自ラ之レヲ携帶シ歩行スルヲ難シ。是ヲ以テ殊ニ人夫ニ託ス
ルカ、又ハ車上ニ携帶セザル可カラズ。但シ此一事ハ分、婉、處置ノ完全ヲ
期シ、人命ヲ保全スルガ爲メ、當然ノ義務タルコトヲ觀念セザル可カ
ラズ。乃チ其器具ノ容積ト重量トヲ示スコト左ノ如シ。

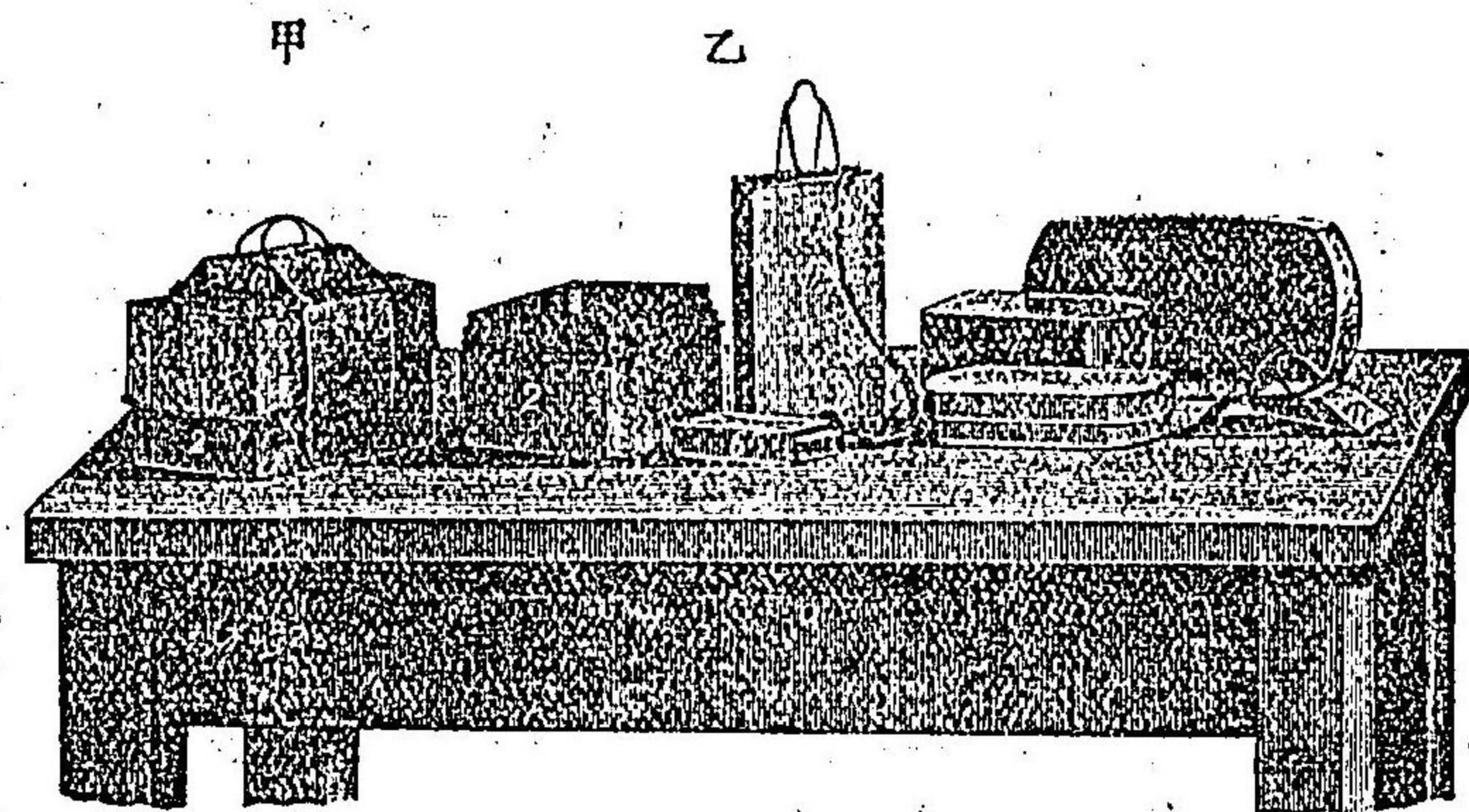
一提籃中ノ全 高徑、三十五仙迷(一尺一寸七分)
縦徑、三十二仙迷(一尺一寸)

産婆携帶用器具

幅徑、十五、六仙迷(五寸五分)
重量、六千百瓦(凡ソ一貫六百二十五匁)

附言 著者、頃日更ニ本携帶器具ニ一、二ノ改、造ヲ施コシ、便器、大受
水盤、提籃又ハ金屬函等ヲ除キ、上圖ノ如ク、換ユルニ長橢圓形ノ受水

第 百 三 十 九 圖
改 造 セ ル 産 婆 携 帶 用 器 具 ノ 圖



- 甲、全器ヲ結束セルモノ
- 乙、各器ヲ分チテ示セルモノ
- 1、イルリガートル
- 2、洗滌消毒用鹽(四)
- 3、受水盤
- 4、器械藥品函
- 5、綑帶用品函
- 6、燭器ニシテ其外容函ハ液量計ニ供用セラル
- 7、金屬帶

盤ヲ以テ
シ、且ツ蝶
番ヲ具フ
ル狹キ金
屬帶ヲ以
テ全器ヲ
結束シ、直
チニ携帶
シ得ルモ
ノトナセ
リ、之レニ
ヨリ大ニ
其容積ト
重量トヲ

減シ、大ニ實用ノ便ヲ得タリ、但シ、其使用ノ目的ニ至リテハ、敢テ、原器ト異ナルコトナシ、而シテ、該改造器具ノ容積ハ、縦徑三十仙迷、横徑十六、六仙迷、高徑十六、六仙迷ニシテ、全重量四千百三十五瓦、(一貫百匁)一手ヲ以テ、携提スルコト、敢テ、困難ナラズ、

第二百二十七章 産婆ノ社會及ヒ法律規則ニ關スル事項

第八二八項 産婆規則

凡ソ産婆ナルモノハ、人ノ生命健康ニ關スル重要ノ業務ナルヲ以テ、其完全ヲ期スルガ爲メニ、法令ヲ設ケテ一般ニ遵奉セシムルノ必要アリトス、我國ニ於テハ、明治三十二年、勅令第三百四十五號ヲ以テ、産婆規則ニ規定セラル。是レ各産婆ノ了知セザル可カラザル所ナリ、即チ次ノ如シ。

◎産婆規則

(勅令第三百四十五號、明治三十二年七月十八日發布)

第一條 産婆試験ニ合格シ、年齢二十歳以上ノ女子ニシテ、産婆名簿ニ登録ヲ受ケタルモノニ非ラザレバ、産婆ノ業ヲ營ムコトヲ得ズ。

第二條 産婆試験ハ、地方長官之ヲ舉行ス。

第三條 一ケ年以上、産婆ノ學術ヲ修業シタル者ニ非ラザレバ、産婆試験ヲ受クルコトヲ得ズ。

第四條 産婆名簿ニ登録ヲ爲サントスル者ハ、産婆試験合格證書ヲ添へ、地方長官ニ願出ツ可シ。

産婆名簿ノ登録事項ニ異動ヲ生ジタルトキハ、二十日以内ニ、産婆名簿ノ訂正ヲ願出ツ可シ。

産婆名簿ノ登録事項ハ、内務大臣之ヲ定ム。

第五條 産婆、其ノ住所ヲ移シタル爲メ、管轄地方廳ヲ異ニスルトキハ、直チニ前ノ管轄地方廳ニ、産婆名簿取消ノ登録ヲ願出デ、後ノ管轄地方廳ニ、産婆名簿ノ登録ヲ願出ツ可シ。

前項ノ登録換ヲ爲サル者ハ、産婆ノ業務ヲ爲スコトヲ得ズ。

第六條 産婆、廢業シタルトキハ、二十日以内ニ、地方長官ニ産婆名簿取消ノ登録ヲ願出ツベシ。産婆、失踪又ハ死亡シタルトキハ、戶籍法ニ依ル届出義務者ヨリ、二十日以内ニ、地方長官ニ産婆名簿取消ノ登録ヲ願出ツベシ。

第七條 産婆ハ、妊婦、産婦、褥婦又ハ胎兒生兒ニ異常アリト認ムルトキハ、醫師ノ診療ヲ請ハシム可シ。自ラ其處置ヲ爲スコトヲ得ズ。但シ、臨時救急ノ手當ハ此限ニアラズ。

第八條 産婆ハ、妊婦、産婦、褥婦又ハ胎兒生兒ニ對シ、外科手術ヲ行ヒ、産科器械ヲ用キ、藥品ヲ投與シ、又ハ之ガ指示ヲ爲スコトヲ得ズ。但シ、消毒ヲ行ヒ、臍帶ヲ切り、灌腸ヲ施スノ類ハ此ノ限ニアラズ。

第九條 産婆ハ、産婆名簿ニ登録ヲ受ケサル者ニ、妊婦、産婦、褥婦又ハ胎兒生兒ノ取扱ヲ專任スルコトヲ得ズ。

第十條 産婆ニシテ、墮胎ノ罪、其他、業務ニ關スル罪、又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラルベキ罪ヲ犯シタルトキハ、地方長官ハ、産婆ノ業ヲ禁止シ、又

ハ、一年以内之ヲ停止スルコトヲ得。産婆名簿登録前ニ犯シタル罪ニ付テモ亦同ジ。

第十一條 試験ニ關スル規程ニ違背シタル者アルトキハ、其ノ試験ヲ無効トスルコトヲ得。若シ、已ニ登録ヲ受ケタルトキハ、其登録ヲ取消ス可ト得。

第十二條 地方長官ハ、産婆ノ業ヲ禁止シ、又ハ停止シタル後、本人ノ行狀ニ依リ、其禁止又ハ停止ヲ解除スルコトヲ得。

第十三條 産婆試験ヲ受ケントスルモノ、又ハ産婆名簿ニ登録ヲ願出ヅル者ニシテ、試験又ハ登録ノ以前、墮胎ノ罪、其他、業務ニ關スル罪、禁錮以上ノ刑ニ處セラル可キ罪ヲ犯シタル者、又ハ試験ニ關スル規程ニ違背シタル者ナルトキハ、試験又ハ登録ヲ許可セザルコトヲ得。

第十四條 産婆ニシテ、一ケ年間其業ヲ營マザルトキ、又ハ瘋癲、白痴、不具、廢疾トナリ、其業ヲ營ムニ堪ヘズト認ムルトキハ、地方長官ハ、産婆名簿ノ登録ヲ取消ス可ト得。

第十五條 產婆名簿ノ登録ノ取消、主要ナル登録事項ノ訂正、竝ニ產婆業ノ禁止、又ハ停止及ビ其解除ハ、地方長官之レヲ告示ス可シ。

第十六條 左ニ掲グル者ハ、五十圓以下ノ罰金ニ處ス。

一、產婆名簿ニ登録ヲ受ケズシテ產婆ノ業務ヲ爲シタル者。

二、產婆名簿ノ登録ヲ取消サレタル後、產婆ノ業務ヲ爲シタル者。

三、產婆ノ業ヲ禁止又ハ停止セラレタル後、產婆ノ業務ヲ爲シタル者。

四、第三條ニ關シ、虚偽ノ證明又ハ陳述ヲ爲シタル者。

五、第七條乃至第九條ニ違背シタル者。

第十七條 第四條第三項、第五條第二項及ビ第六條ニ違背シタル者ハ、科料ニ處ス。

附 則

第十八條 本令施行以前、内務省又ハ地方廳ヨリ產婆ノ免狀又ハ鑑札ヲ受ケ、現ニ其業ヲ營ム者ハ、本令施行後、六ヶ月以内ニ地方長官ニ願出デ、產婆名簿ニ登録ヲ受クルコトヲ得。

第十九條 地方長官ハ、產婆ニ乏シキ地ニ限り、當分ノ内、出願者ノ履歷ニ依リ、業務ノ地域及ビ五ヶ年以内ノ期限ヲ定メ、產婆ノ業ヲ免許スルコトヲ得。

前項ノ免許ヲ受ケタル者ハ、產婆ニ準ジ本令ヲ適用ス。但シ、產婆名簿ニ登録スル限ニ在ラズ。

第二十條 本令ハ、明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス。

「第八二九項」產婆試験規則及ビ產婆名簿登録規則 產婆規則ノ結果ニヨリ、產婆試験規則及ビ產婆名簿登録規則ノ必要ヲ生ズ。依テ、内務省令ヲ以テ、之レヲ規定セラル。即チ左ノ如シ。

◎ 產婆試験規則

(内務省令第四十七號、明治三十二年九月六日發布)

第一條 產婆試験願出ノ期日、舉行ノ期日、場所ハ地方長官之レヲ告示ス。

第二條 試験科目ハ左ノ如シ。

學 說

- 第一 正規妊娠、分娩及び其取扱法。
- 第二 正規産褥ノ経過、及び産褥、生兒ノ看護法。
- 第三 異常ノ妊娠、分娩及び取扱法。
- 第四 妊婦、産褥婦、生兒ノ疾病、消毒ノ方法及び産婆心得。

實 地

- 第一 實地試験若クハ模型試験。
- 第三條 學說試験ニ合格シタル者ニ非ザレバ、實地試験ヲ受クルコトヲ得ズ。
- 第四條 學說試験ニ合格シ、實地ニ落第シタル者、又ハ實地試験ヲ受ケザル者ハ、次回以後ノ試験ニ於テ、實地試験ノミヲ受クルコトヲ得。
- 第五條 産婆試験ヲ受ケントスル者ハ、産婆學校、産婆養成所等ノ卒業證明アル修業證書、又ハ産婆若クハ醫師二名ノ證明アル修業履歴書ヲ添へ、地方長官ニ願出ツヘシ。但シ、第四條ニ依リ、實地試験ノミヲ受ケン

- トスル者ハ、學說試験合格ノ證明書ヲ添へ願出ベシ。
- 地方長官、前項ノ願出ヲ許可スルトキハ、指令ヲ要セズ、其願書ヲ受理シ、許可セザルトキハ、之ヲ却下ス。
- 第六條 産婆試験ヲ願出ヅル者ハ、収入印紙ヲ以テ、試験手数料金一圓ヲ納付ス可シ。
- 但シ、納付シタル手数料ハ還付セズ。
- 第四條ニヨリ、實地試験ノミヲ願出ヅル者ト雖ドモ、本條ノ手数料ヲ納付ス可シ。
- 第七條 地方長官ハ、學說試験及び實地試験ニ合格シタル者ニハ、證明書ヲ交付ス。
- 第八條 地方長官ハ、受験人心得、其ノ他、前項ノ條規ニ違背シタル者ニ、退場ヲ命ズルコトヲ得。
- 當該官吏ハ、受験人心得、其他、前項ノ條規ニ違背シタル者ニ退場ヲ命ズルコトヲ得。

◎産婆名簿登録規則

(内務省令第四十八號、明治三十二年九月六日發布)

- 第一條 産婆名簿ニハ、左ノ事項ヲ登録ス可シ。
 - 一、登録番號、登録年月日。
 - 二、族籍(外國人ナルトキハ、其國籍)氏名、年齢、住所。
 - 三、産婆試験ニ合格シタル地方廳名、其年月日。(産婆規則第十八條ニ依リ登録スルモノハ、其旨ヲ記載ス)
 - 四、開業地(住所以外ノ地ニ於テ開業スルモノ、又ハ出張所ヲ設クルモノハ之ヲ記載ス)
 - 五、業務ニ關スル犯罪、禁錮以上ノ刑ニ該ル犯罪。(其年月日、事由)
 - 六、産婆業ノ禁止、停止、解除。(其年月日、事由)
 - 七、名簿取消ノ年月日、事由。
- 第二條 産婆名簿ハ、別記様式ニ依リ調製ス可シ。(別記様式ヲ畧ス)
- 第三條 産婆ノ業ヲ營マントスル者ハ、本令第一條第二號第四號ノ事

項ヲ明記シテ、其住所地ヲ管轄スル地方廳ニ願出デ、産婆名簿ニ登録ヲ受クベシ。

第四條 産婆規則第五條第一項ノ場合ニ於テハ、前ノ管轄地方廳ハ、産婆名簿ノ取消ノ登録ヲ爲シ、其登録事項ノ謄本ヲ以テ、後ノ管轄地方廳ニ其旨ヲ通知スベシ。後ノ管轄地方廳ハ、前ノ管轄地方廳ノ通知ヲ俟タズ、本人ノ願出ニ依リ、直ニ産婆名簿ニ登録ヲ爲スベシ。但シ必要ト認ムル場合ニ於テハ、前ノ管轄地方廳ノ通知ヲ俟チ、又ハ之ニ照會ヲ經タル後チ、登録ヲ爲スベシ。

第五條 産婆名簿ノ訂正、又ハ取消ノ登録ヲ爲ストキハ、其部分ハ、朱線ヲ畫シ、訂正、又ハ取消ノ事由、年月日ヲ朱記スベシ。

第六條 産婆名簿ニ登録ヲ受ケタル者ハ、謄本ヲ受クルコトヲ得。謄本手数料ハ、収入印紙ヲ以テ納付ス可シ。

「第八三〇項」産婆試験委員設置規程 産婆試験ニ關シ、我政府ハ、試験委員規程ヲ訓令セララル。而シテ、著者ノ郷國タル新潟縣ニ於テ

ハ、試験委員事務章程及ビ手當支給方法ナルモノヲ定ム。今参考ノ爲メ、之レヲ掲載ス可シ。

◎産婆試験委員設置規程

(内務省訓令第八號、明治三十四年六月四日)

第一條 地方廳ニ、産婆試験委員長一人、産婆試験委員若干人ヲ置キ、産婆試験ニ關スル事務ヲ管掌セシム。

第二條 産婆試験委員長及ビ産婆試験委員ハ、地方長官之ヲ撰任スベシ。

産婆試験委員長及ビ産婆試験委員ハ、地方廳ノ官吏タル者ヲ除ク外、其任期ヲ四ケ年トス。

但シ、滿期後、再任セララル、事ヲ得。

第三條 産婆試験ニ關シ、書記若干人ヲ置キ、庶務ニ從事セシム。

書記ハ地方長官、其廳ノ判任官ニ就キ、之レヲ命ズ。

第四條 産婆試験委員長、産婆試験委員及ビ書記ニハ、事務ノ繁簡ニ從ヒ、手當ヲ給スルヲ得。

◎産婆試験委員事務章程及ビ手當支給方法

(新潟縣訓令第二百一十一號、明治卅四年九月廿三日)

第一條 試験委員長ハ、知事ノ命ヲ受ケ、産婆試験ニ關スル事務ヲ管轄ス。

第二條 試験委員ハ、知事ノ命ヲ受ケ、試験委員長ノ指揮ニ從ヒ、産婆試験ニ關スル事務ニ從事ス。

第三條 委員長事故アルトキハ、官吏ヨリ撰任シタル上席委員、其事務ヲ代理ス。

第四條 醫師ヨリ撰任サレタル試験委員ノ職務ニ從事スベキ期日、及ビ場所ハ、其都度委員長ヨリ之ヲ指定ス。

第五條 書記ハ、委員長ノ命ヲ受ケ、庶務ニ從事ス。

第六條 試験委員長、試験委員及ビ書記ニハ、手當ヲ支給ス。

手當ノ支給額ハ事務ノ繁簡ニ從ヒ其都度之レヲ定ム。

「第八三一項死産證書並ニ死胎檢案書 産婆ハ流産又ハ死産ヲ處置セルトキハ之レガ届出ヲナスノ義務アリ即チ死胎分娩及ビ死胎檢案ニ就キ其記載シ届出ス可キモノハ内務省令ヲ以テ規定セラ

◎死産證書(死胎檢案書)

- 一、父ノ氏名(私生子ノ場合ニ在リテハ母ノ氏名)
- 二、父ノ出生ノ年月日(私生子ノ場合ニ在リテハ之レヲ除ク)
- 三、母ノ出生ノ年月日
- 四、父ノ職業(私生子ノ場合ニ在リテハ母ノ職業)
- 五、妊娠ノ月數
- 六、分娩ノ年月日時
- 七、分娩ノ場所
- 八、死胎ノ男女ノ別

九、死胎ノ嫡出子、庶子、私生子ノ別
右證明(檢案)候也

年月日

住 所
醫師(産婆) 何 某印

記 載 方

- 一、死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ氏名ヲ記スベシ。若シ私生子ナルトキハ其母ノ氏名ヲ記ス可シ。
- 二、死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ出生年月日ヲ記スベシ。
- 三、死胎ノ何タルニ拘ハラズ其母ノ出生ノ年月日ヲ記スベシ。
- 四、死胎ノ嫡出子ナルカ又ハ庶子ナルトキハ其父ノ職業ヲ記スベシ。若シ私生子ナルトキハ其母ノ職業ヲ記スベシ。總テ職業名ハ商又ハ工等、單一ノ汎稱ニ據ラズシテ何商又ハ何工等成ルベク細密ニ

記ス可シ

- 五、妊娠ノ月日ハ、受孕ヨリ分娩ニ至ル妊娠ノ經過ニシテ、死胎ハ、約四週日ヲ一月ト做シタル第幾月目ニ該當スルカヲ記ス可シ。
- 六、分娩ノ年月日時ヲ記スベシ。若シ、明瞭ナラザルトキハ、推定シタル年月日時ヲ記ス可シ。此ノ場合ニハ、推定ノ二字ヲ冠セシムルヲ要ス。
- 七、分娩ノ場所ハ、郡市區町村大字名及ビ番地番戸番屋敷ヲ記スベシ。
- 八、死胎ノ男女孰レニ屬スルカヲ記スベシ。若シ、鬼胎等ニ在テ、男女ノ區別ヲ爲シ能ハザル場合ニ於テハ、其事由ヲ添テ、不詳ト記ス可シ。
- 九、胎兒ハ、嫡出子ナルカ、又ハ庶子ナルカ、若クハ私生子ナルカノ別ヲ記スベシ。

〔第八三二項〕死産證書ト死胎檢案書ノ區別

死産檢案書トハ、其記載ノ事項、全ク同一ニシテ、唯、其名稱ノ相違セルノミナルガ、其名稱ノ相違セル理由ハ、墓地及ビ埋葬取締規則施行方法細則ニ記スベシ。

則標準、第十一條ノ認許證ヲ請フ場合ト、戶籍法、第百卅六條、相續人タル可キ胎兒ノ、死産ニ歸セル際、母ヨリ申請書ヲ出スノ場合ニ要スルノ區別アルニヨルモノナリ、即チ次ノ如シ。

◎墓地及埋葬取締規則施行方法細則標準

(明治十七年十一月、内務省、乙第四十號、達)

第十一條 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ、主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ、區長又ハ戶長ノ認許證ヲ請フ可シ。
醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルトキハ、醫師ノ檢案書ヲ差出シ、區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フ可シ。妊娠四ヶ月以上ノ死胎ニ係ルトキハ、醫師又ハ産婆ノ死産證ヲ差出シ、區長又ハ戶長ノ認許證ヲ乞フベシ。

◎戶籍法 (法律)

第百三十六條 胎兒ヲ家督相續人トシテ届出デタル場合ニ於テ、其胎兒ガ、死胎ニテ生レタルトキハ、母ハ、出産ノ日ヨリ、一月内ニ、醫師又ハ出

産ニ立會ヒタル産婆ノ檢按書ヲ提出シテ、家督相續ノ取消ヲ申請スル
コトヲ要ス。

母ガ登記取消ノ申請ヲナサザルトキハ、家督相續人、其事實ヲ知リタル
日ヨリ一ヶ月内ニ、登記ノ取消ヲ申請スルコトヲ要ス。(同シク檢案書ヲ添
ニ可キコト勿論ナ
リ)

〔第八三三項〕獨乙國ニ於ケル産褥熱豫防規則並ニ同國
初生兒眼炎ニ關スル規則 獨乙國ニ於テハ、此二種ノ規則ニ

就キ、嚴重ニ規定セル所アリ、我國ニ於テハ、産婆社會ノ進歩、益、高尚ノ域
ニ進ムトキハ、必ズ此等ノ規則ヲ要スルニ至ル可シ。今、参考ノ爲メ、其要
項ヲ摘記シ、之レヲ次ニ掲グ。

◎産褥熱豫防規則 (摘要)

(千八百九十二年六月發布)

第二十四條 産婦或ハ産褥婦ノ異常、例令バ産婦或ハ産褥婦ノ病的經
過ヲ取レルトキハ、産婆ハ、直チニ醫士ヲ招カザルベカラズ。若シ之ヲ怠

リ或ハ之ヲ拒ミ、因テ危險ノ起レル時ハ、其所屬區會議員、區長、村長及ビ
同時ニ、區醫ニ向ヒテ、書面或ハ口頭ヲ以テ届出デザル可ラズ。

第二十五條 區醫ハ、何レノ場合ニ係ハラズ、産褥熱ノ重症並ニ産褥熱
ノ褥婦ヨリ招カレタル醫士ヨリ、産褥熱ナルノ届出アラバ、自己ニ、或ハ
書面ヲ以テ、式ニ從ヒ之ヲ處置ス可シ。

第二十六條 産褥婦ノ死亡シタルトキハ、可成、自己ニ、又ハ書式ニ從ヒ
テ、死亡ノ原因ヲ認メ、區醫ニ差出ス可シ。

第二十七條 産婆ヨリ分娩セシメシ産褥婦ガ産褥熱ニ係レルトキハ、
産婆ハ、他ノ産婦ヲ見舞ベカラズ、已ニ産褥熱ニ罹レル褥婦ハ、自己、或ハ
他ノ産婆、或ハ看護婦ヲシテ之ヲ看護セシム可シ。

産婆ハ、産褥熱ニ罹レル産褥婦ヲ訪ヒタル最後ノ日ヨリ、少ナクモ五日
間、他ノ産婦ヲ處置スルヲ得ズ、又、區醫ノ意見ニ因リ、猶之ヨリ時日ヲ延
バズベキコトアリ。前記ノ時日中ニハ、産婆ハ、其全身及ビ衣服ヲ清潔ニ
洗濯シ、更ニ、其前脚手指及ビ爪甲ハ、微温湯中ニ於テ、石鹼ヲ用ヒ、刷毛ニ

テ極メテ清潔ニシ、更ニ三布仙即チ三十倍石炭酸水ニテ消毒シ、斯ク日々二回ツ、之ヲ反覆ス可シ。
又、之ト同ジク、產褥熱患者ニ使用セシ器械殊ニ硝子製子宮嘴管、及ビカテーテルハ、三布仙即チ三十倍石炭酸水中ニ於テ、半時間煮沸シ、灌注器ノ護謨管モ亦、半時間、三布仙即チ三十倍石炭酸水中ニ浸漬シテ之レヲ消毒スベシ。

第二十八條 前條即チ第二十七條第三項ニ於テ規定セル時間中ト雖ドモ、產婆ハ以前、己ガ分娩セシメタル健康ナル產褥婦ヲ訪フヲ得ベシ。但シ、決シテ内診ヲ行フベカラズ。

產褥熱ニ罹リタル產褥婦ガ幸ニ健康ニ恢復シ、五日間ヲ經過シタル後若シクハ區醫ノ意見ニ從ヒテ決定メタル時日(第二十七條第三項ヲ見ヨ)ヲ經過スルトキハ、產婆ハ再ビ他ノ產婦ヲ處置スルヲ得ベシ。然レドモ、尙ホ一週間、隔日ニ、前產褥婦經過ノ状態ヲ、區醫ニ向ヒテ、口頭或ハ書面ニ認メテ報告ス可シ。產婆、一定ノ時日ヲ經テ、他ノ分娩ヲ處置シ始メ、第

二十八條ヲ見ヨ。卅日以内ニ以テ、再ビ產褥熱ニ罹レル者アルカ、或ハ一產婆ガ處置セル產婦ニ、二人以上多數ノ產褥熱ニ罹レル者アルカハ、產婆ハ、最後ノ產褥熱ヲ處置セル日ヨリ、少ナクモ十四日間、他ノ分娩ヲ處置ス可ラズ。上記ノ十四日間ノ中ニ於テ、產婆ハ第二十七條ノ第四項及ビ第五項ニ記載セル所ニ從ヒテ、嚴重ナル消毒清潔法ヲ施行ス可シ。以上記セル產褥熱豫防規則ニ違反セル行爲アル產婆ハ、千八百九十二年六月廿二日發布セラレタル王國內務大臣ノ法令ニ從ヒ、百五十マルク(我ガ凡、七十五圓)以内ノ罰金若ハ六週間以内ノ禁錮ノ刑ニ處セラレベシ。

◎初生兒眼炎ニ關スル規則(摘要)

(千八百九十三年六月二十二日發布)

第四條 產婆ハ、分娩後、初生兒ノ眼ニ附着シタル粘液ヲ拭除シ、注意シテ之ヲ清潔トナシ、尙ホ、其他ノ全身ヲモ能ク清潔ニ洗滌ス可シ。眼ノ拭除ニ際シテハ、產婆ハ、軟カキ布片ト清潔ナル水トヲ以テ、靜カニ外眥ノ

方ヨリ内眥ノ方ニ向ヒテ拭去ス。而シテ、此際、凡テ壓迫及ビ摩擦等ヲ施コシテ刺激スルコトヲ避ケザルベカラズ。又其際、決シテ海綿ヲ用ユベカラス。且ツ、産婆ハ、其處置ヲ終ヘタル後、更ニ自己ノ手指ヲ清潔ニ消毒ス可シ。

第五條 分娩後、第一日ニ於テ、初生兒ノ兩眼或ハ片眼ニ、疾病ノ徵候現ハレ、即チ眼瞼ノ粘着、腫脹及ビ發赤等ヲ發見セバ、直チニ醫士ヲ招クベシ。若シ、遲延シテ數時間ヲ過グル時ハ、治シ難キニ至ルモノナリ、而シテ、産婆ハ、自ラ眼病ヲ治療スベカラズ。初生兒ノ親戚等ノ、醫士ニ診察ヲ受クルヲ遲滯シ、或ハ之ヲ拒ムモノアルトキハ、産婆ハ、懇ニ其危險ヲ諭シ、若シ尙ホ肯ゼザルトキハ、直チニ、區長或ハ區醫ニ、書面或ハ口頭ヲ以テ届ケ出ヅベシ。産婆ハ、此ノ如キ患者ニ接シタルトキハ、其近親或ハ近隣ノ小兒ニ、眼疾衝ノ傳染セザル様注意シ、決シテ眼疾衝ヲ患フル小兒ニ近カシメザルベキコトヲ諭ス可シ。

以上ノ規則ハ、産婆ノ嚴ニ守ラザル可カラザル處ナリ。若シ之ニ違フト

キハ、百五十マルク(即チ我ガ凡ソ七十五圓)以内ノ罰金或ハ六週間以内ノ禁錮ノ刑ニ處セラルヘシ。

第六條 醫士ノ來診迄ニ時間ヲ要スルトキハ、産婆ハ、次ニ記スル方法ニ據リテ清潔法ヲ施シ、或ハ其母又ハ附添ノ者ニ、其ノ病眼ノ清潔法ヲ教ヘザル可カラス。

第七條 初生兒眼炎ノ清潔法ハ、次ノ規則ニ從テ之ヲ行フベシ。即チ、清潔ナル綿花、或ハ瓦葺、或ハ全ク清潔ナル麻布ヲ取りテ、清潔ナル水中ニ浸シ置キ、之ヲ絞リ、決シテ壓迫又ハ摩擦ヲ加フルコトナキ様、注意シテ眼瞼ノ間ニ存スル粘液ヲ拭去スベシ。而シテ、眼瞼ノ間ニ存スル粘液ハ、恰モ鼻側即チ内眥ノ方ニ向ヒテ集マリ居レルモノナルガ故ニ、此部ニ於テ拭去ス可シ。次デ、拇指ヲ以テ上眼瞼ヲ徐カニ上方ニ翻轉シテ、流出スル粘液ヲ拭ヒ、更ニ、下眼瞼ヲ徐カニ下方ニ牽下シテ、流出スル粘液ヲ拭ヒ去ルベシ。若シ、膿様粘液ノ爲メニ固着シテ、眼裂ノ閉鎖セルトキハ、清潔ナル布片ヲ清水ニ浸シテ、暫時之ヲ眼瞼上ニ貼ス可シ。之ニ由リ、粘液

ノ凝塊溶解シテ、自ラ眼裂ヲ開クヲ得ルニ至ル。眼病ノ清潔法ヲ行フニ供スル水ニハ、決シテ乳汁若クハ石鹼等ヲ混ズ可カラズ。

片眼ノ疾病ニ罹レル者ニアリテハ、產婆ハ健眼ヲ拭フニ、決シテ病眼ニ用キタル布片ヲ用ユベカラズ。又此ノ如キ患兒ヲ臥セシムルニハ、病眼ノ方ヲ下ニシ、健眼ニ膿汁ノ流レ込マザル様注意スベシ。

第八條 既ニ醫士ノ診察ヲ受ケタル後ハ、其清潔法及ビ其他總テノ處置ハ、悉ク醫士ノ意見ニ從フベシ。

〔第八三四項〕產褥熱ニ關スル訓令 獨乙國ノ如キニ在リテハ、特ニ產褥熱ニノミ關シテ、教育醫務大臣ハ、產婆ニ訓諭スル所アリ。今參考ノ爲メ之ヲ抄録スレバ次ノ如シ。

◎產褥熱豫防ニ關シ、獨乙國教育醫務大臣ノ

產婆ニ對スル訓令 (千八百八十八年ノ頒發布)

一、產婆ハ、居常清潔ヲ主トシ、殊ニ產室若クハ褥室ニ於テハ、最モ清潔法ヲ行フ可シ。

二、產婆、其職ニ從事スルノ際ハ、一定ノ被服ヲ着ク可シ。即チ、衣袖ハ上

膊ノ中央ニ掲舉シ、白色ニシテ洗濯ニ堪ユルモノヲ擇ビ、又、胸部ノ前面ハ、廣キ前垂ヲ以テ之レヲ覆フ可シ。

(前垂ハ、產婦若クハ褥婦ヲ初メテ検査セントスルノ際、新ニ洗濯シテ、他ノ衣類ト區別シ蓄ヒタルモノヲ用ユルヲ要ス)

三、產婆ハ、產婦若クハ褥婦ニ接スルニ先ダチ、爪ヲ剪リ、且ツ磨キ、爪襞爪下ノ污垢及ビ逆爪ノ如キモノヲ去リ、刷毛、石鹼ヲ用キテ手指及ビ前膊ヲ洗淨ス可シ。

四、產婆ハ、特ニ次ノ諸品ヲ携帯スルヲ要ス。

〔甲〕新タニ洗濯ヲ經タル前垂布、其幅ハ、衣服ノ前半面ヲ全ク被覆スルヲ要ス。

〔乙〕石鹼

〔丙〕特ニ定メタル爪鑷子、刷毛。

〔丁〕新タニ洗濯セル手巾。